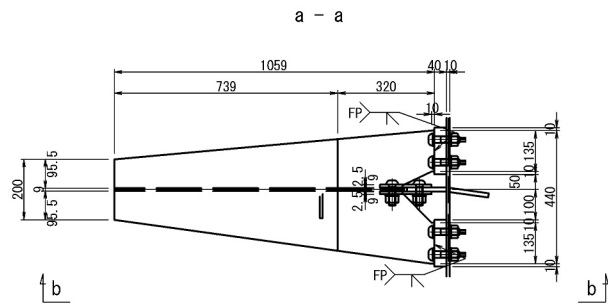
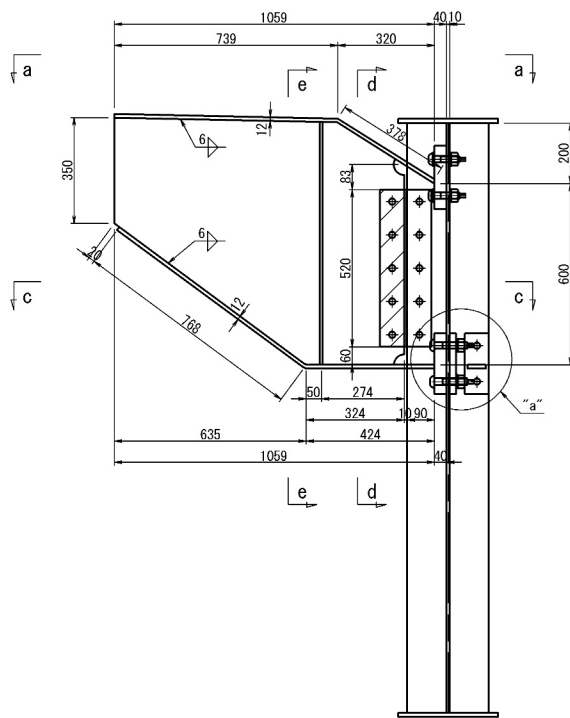


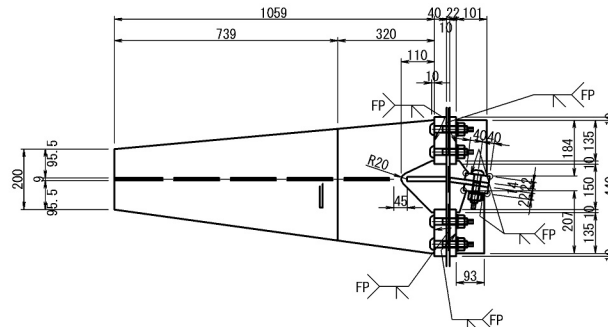
ブラケットA 詳細図



b - b

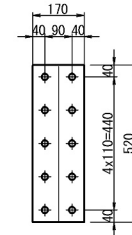


C - C

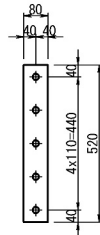


製作数:1組
2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 101x12x184
1-RIB. PL 93x12x207
2-TCB M22x95 (S10T)

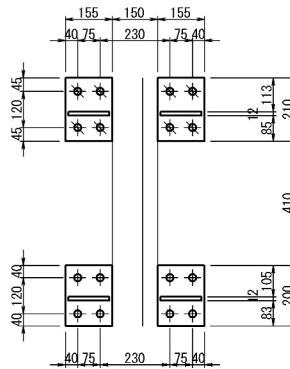
補剛材接合板



フィループレート



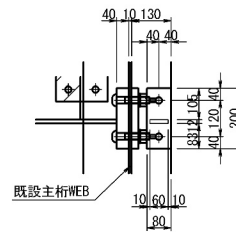
d - c



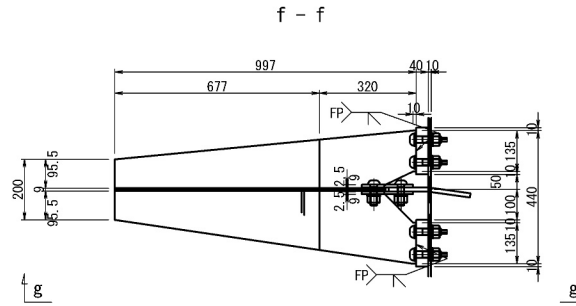
製作数:1組

- 1-UFLG, PL 440x12x1117
- 1-WEB, PL 959x9x818
- 1-LFLG, PL 440x12x1192
- 2-BASE, PL 210x40x155 (SM400B)
- 2-BASE, PL 200x40x155 (SM400B)
- 2-SPL, PL 170x9x520 (SS400)
- 1-STIF, PL 90x9x804
- 10-TGB M22x70 (S10T)
- 8-TGB M22x90 (S10T) (2-W)
- 8-TGB M22x110 (S10T)
- 2-F11L, PL 80x2, 3x520 (SS400)

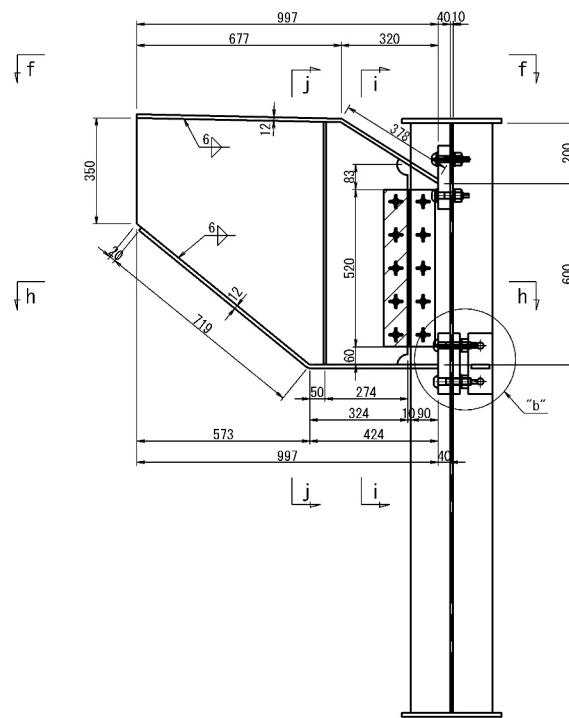
"a"部詳細



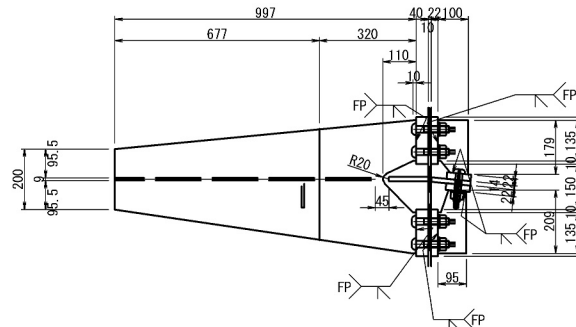
ブラケットB 詳細図



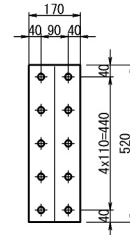
82 - 83



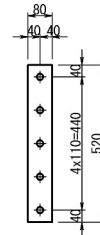
h - h



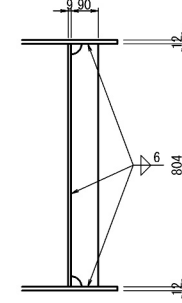
補剛材接合板



フィラープレート

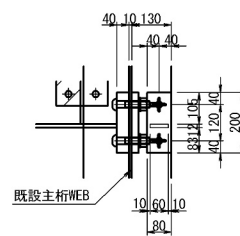


製作数:1組
1-UFLG. PL 440x12x1055
1-WEB. PL 897x9x817
1-LFLG. PL 440x12x1143
2-BASE. PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE. PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL. PL 170x9x520 (SS400)
1-STIF. PL 90x9x804
10-TGB M22x70 (S10T)
8-TGB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TGB M22x110 (S10T)
2-Fill. PL 80x2. 3x520 (SS400)

$$j - j$$


製作数:1組
2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 100x12x179
1-RIB. PL 95x12x209
2-TCB M22x95 (S10T)

"b"部詳細



特記:

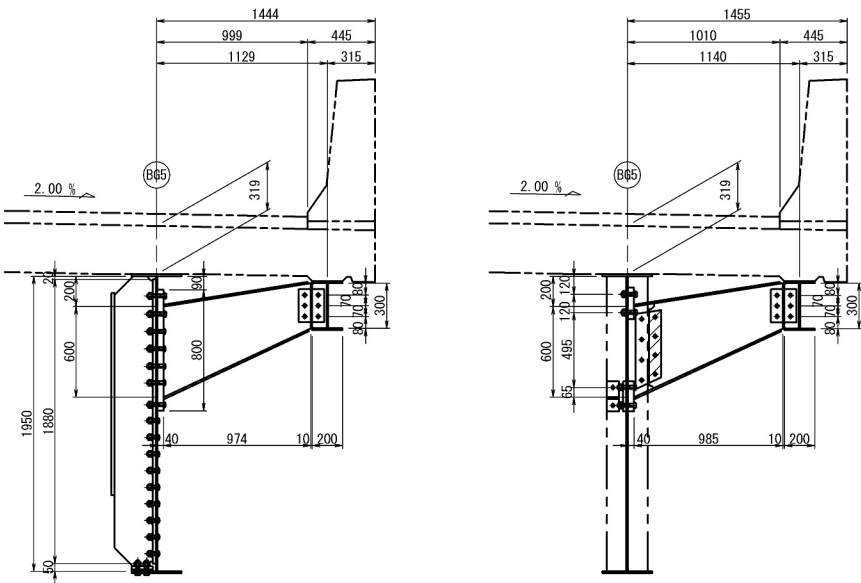
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
8. 印のボルトは、TCB M22を示す。
 ※ 印のボルトは、TCB M22 (2-40) を示す。
 ※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
 TCB M22→φ24.5 (既設)
 TCB M22→φ26.5 (新設)

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 桁端ブラケット構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地勘JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

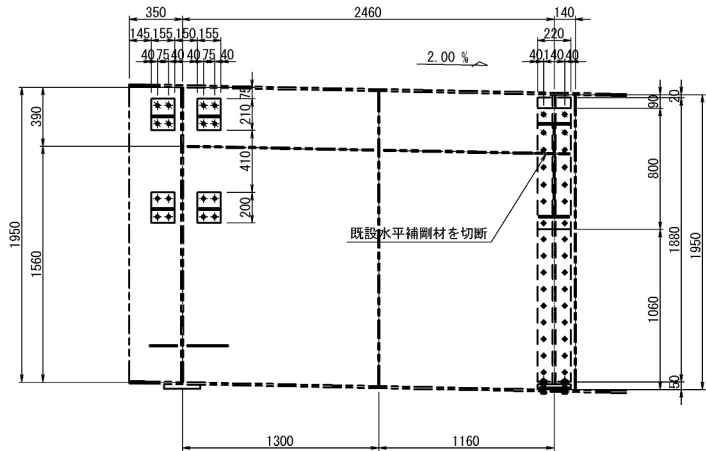
断面図

ブラケットB

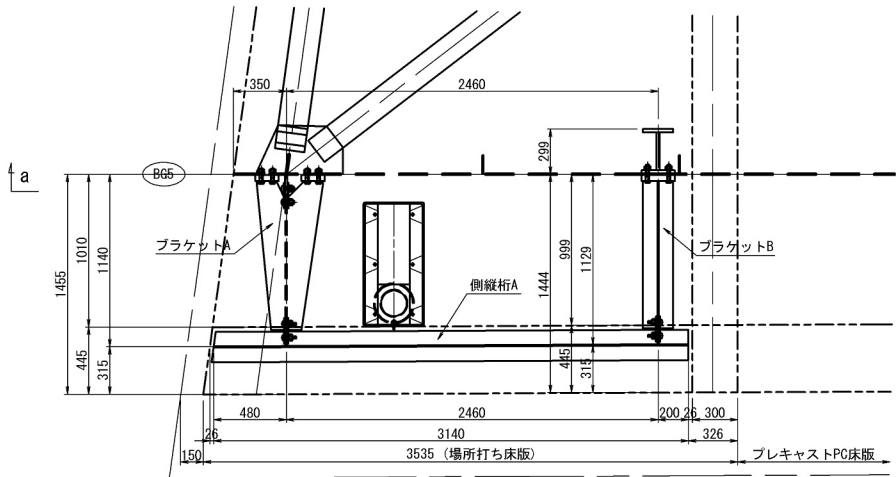
ブラケットA



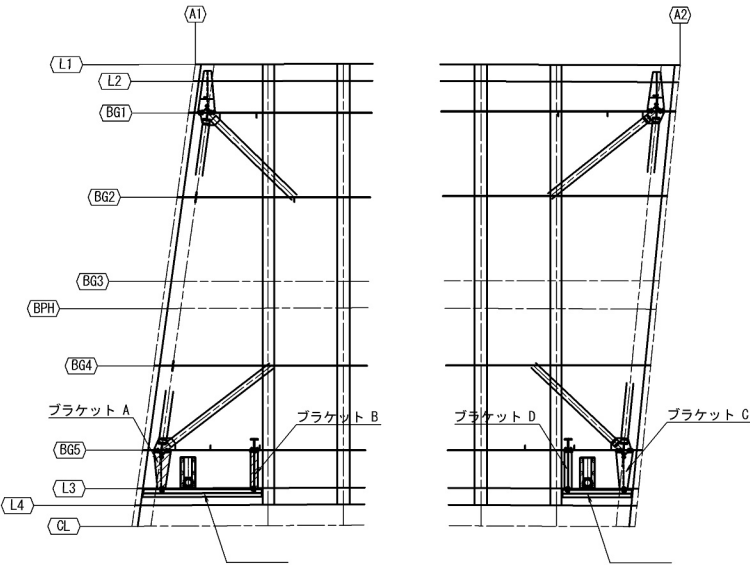
側面図
a - a



平面図



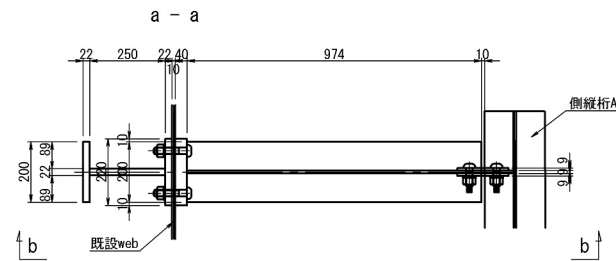
配置図 S=1:200



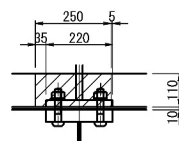
- 特記:
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
 - 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
 - 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
 - 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
 - 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
 - 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

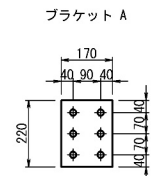
ブラケットA 詳細図



既設水平補剛材撤去詳細図

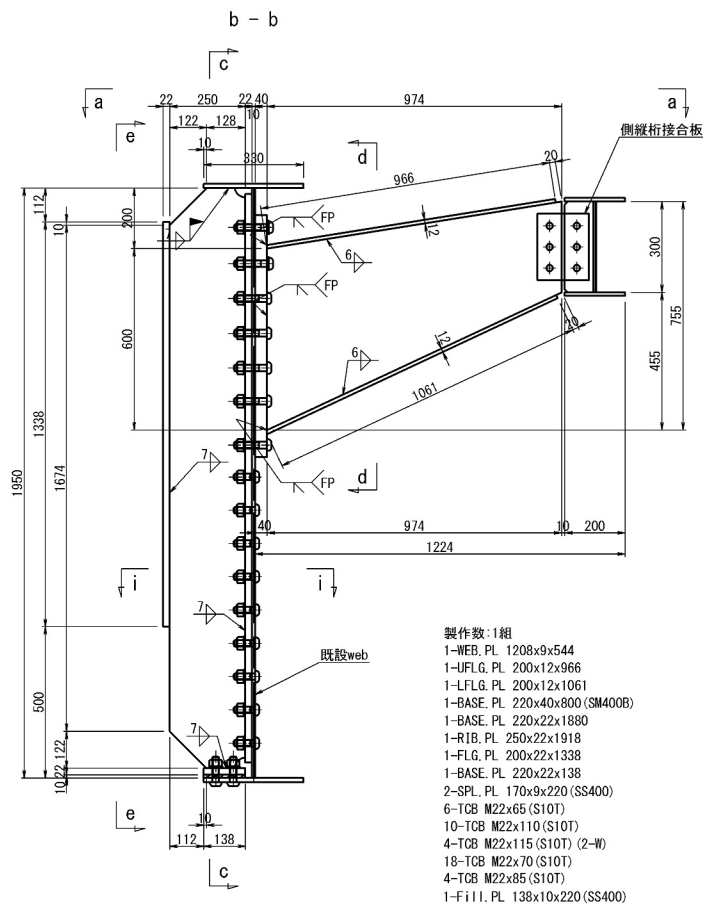
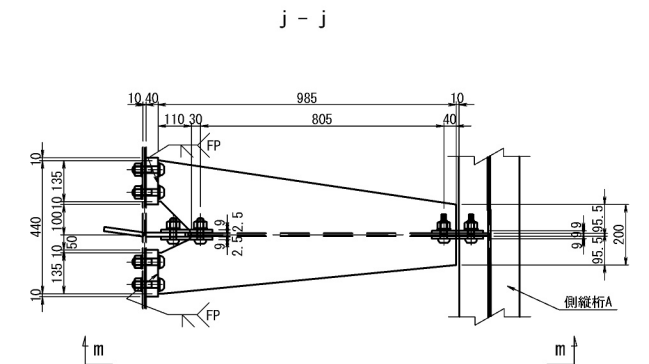


側縱桁接合板

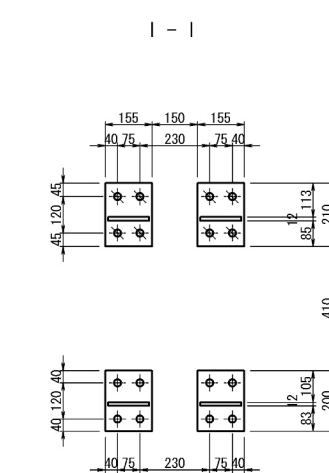
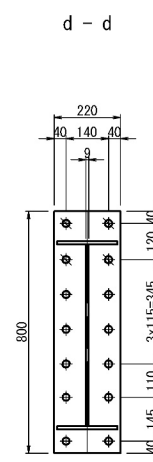
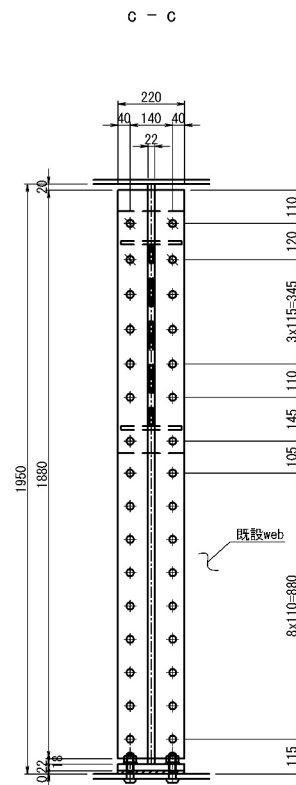
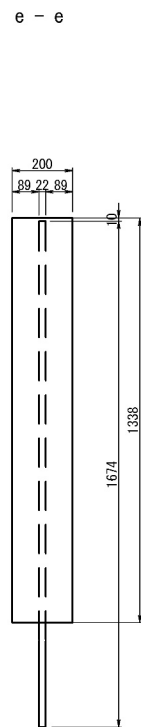


製作数:1組

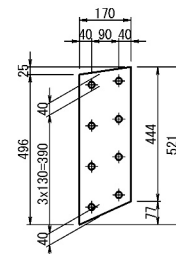
- 1-WEB, PL 885x9x709
1-LJFLG, PL 440x12x977
1-LFLG, PL 440x12x1071
2-BASE, PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE, PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL, PL 170x9x521 (SS400)
2-Fil, PL 80x2, 3x481 (SS400)
2-SPL, PL 170x9x220 (SS400)
8-TGB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TGB M22x110 (S10T)
8-TGB M22x70 (S10T)
6-TGB M22x65 (S10T)



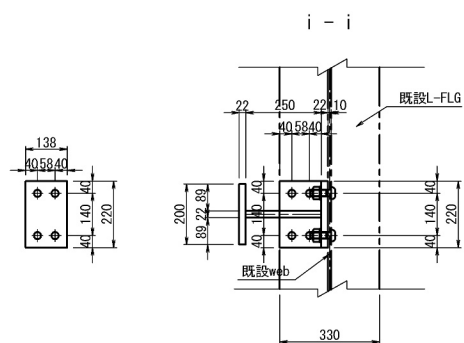
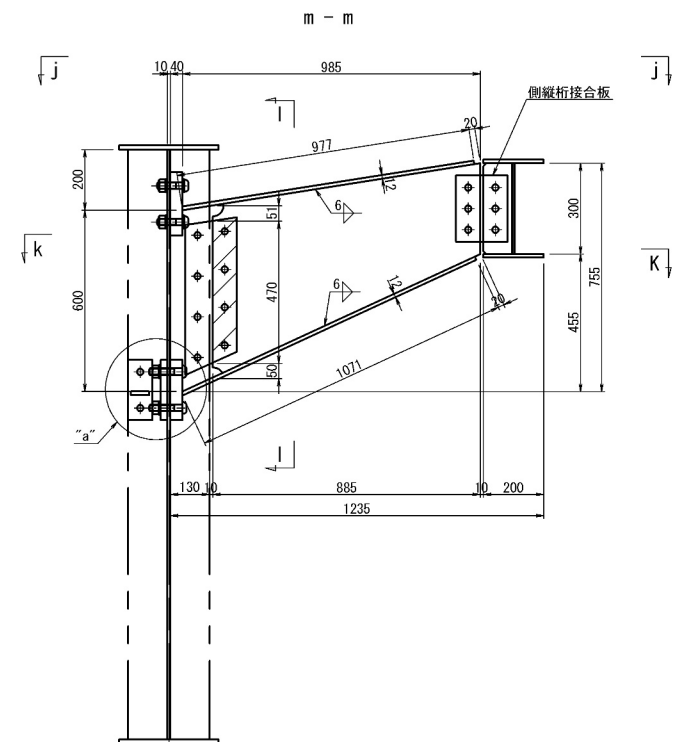
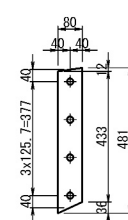
- 製作数:1組
- 1-WEB. PL 1208x9x544
 - 1-FLG. PL 200x12x966
 - 1-LFLG. PL 200x12x1061
 - 1-BASE. PL 220x40x800 (SM400B)
 - 1-BASE. PL 220x22x1880
 - 1-RIB. PL 250x22x1918
 - 1-FLG. PL 200x22x1338
 - 1-BASE. PL 220x22x138
 - 2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
 - 6-TGB M22x65 (S10T)
 - 10-TGB M22x110 (S10T)
 - 4-TGB M22x115 (S10T) (2-W)
 - 18-TGB M22x70 (S10T)
 - 4-TGB M22x85 (S10T)
 - 1-Fil. PL 138x10x220 (SS400)



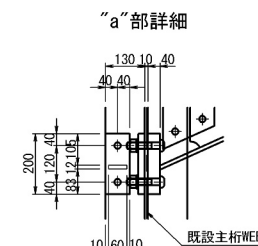
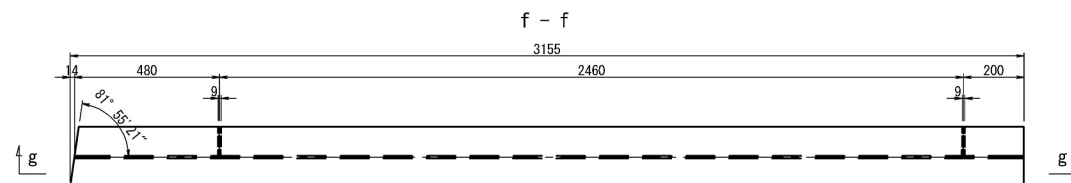
補剛材接合板



フィラープレート



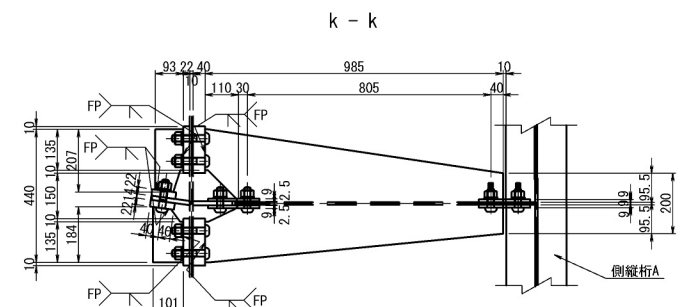
側縦桁A 詳細図



"a"部詳細

製作数:1組

- 2-BASE, PL 155x22x200
2-BASE, PL 80x22x200
1-RIB, PL 101x12x184
1-RIB, PL 93x12x207
2-TCB M22x95 (S10T)



特記:

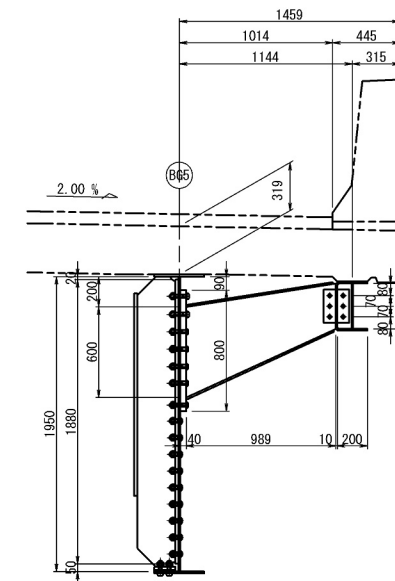
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカラーは、全て35Rとする。
8. ♀ 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22(2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けに於て、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5 (既設)
TCB M22→φ26.5 (新設)

TCB M22→ ϕ 24.5(既設)
TCB M22→ ϕ 26.5(新設)

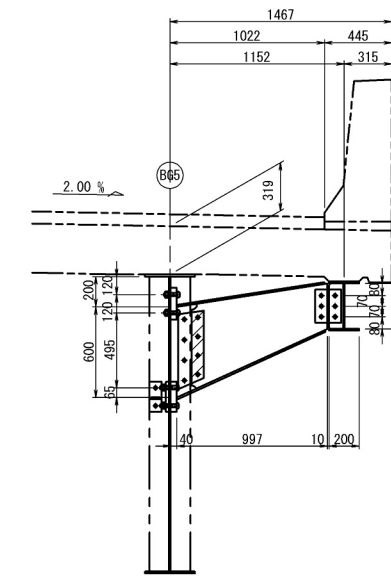
道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋（下り線） 桁端部支間長低減部材構造図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

断面図

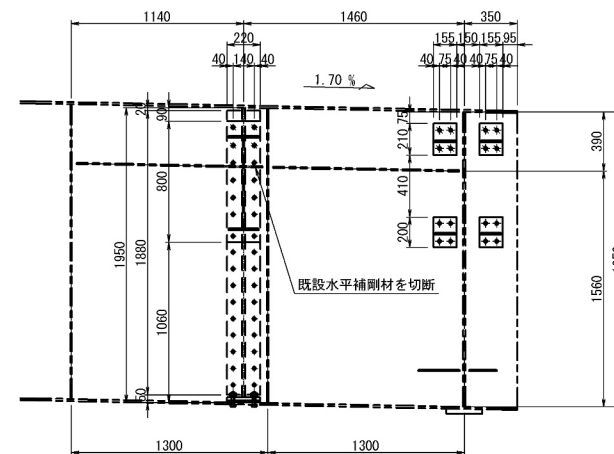
ブラケットD



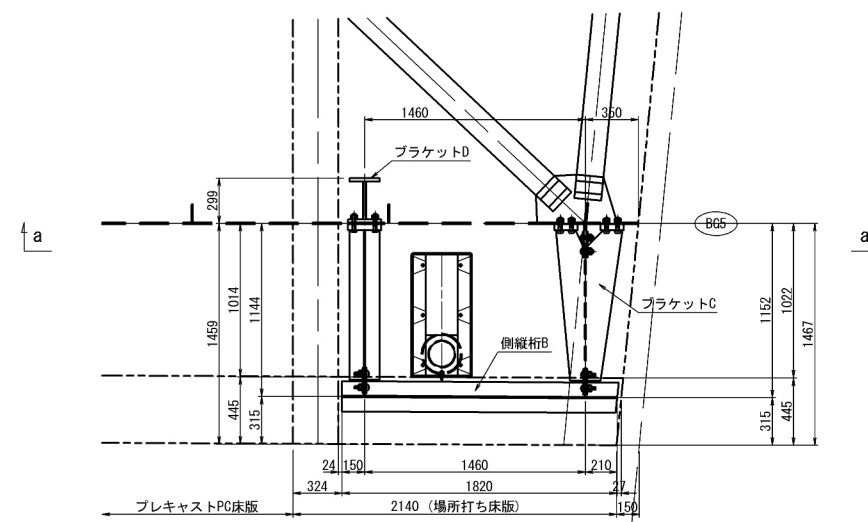
ブラケットC



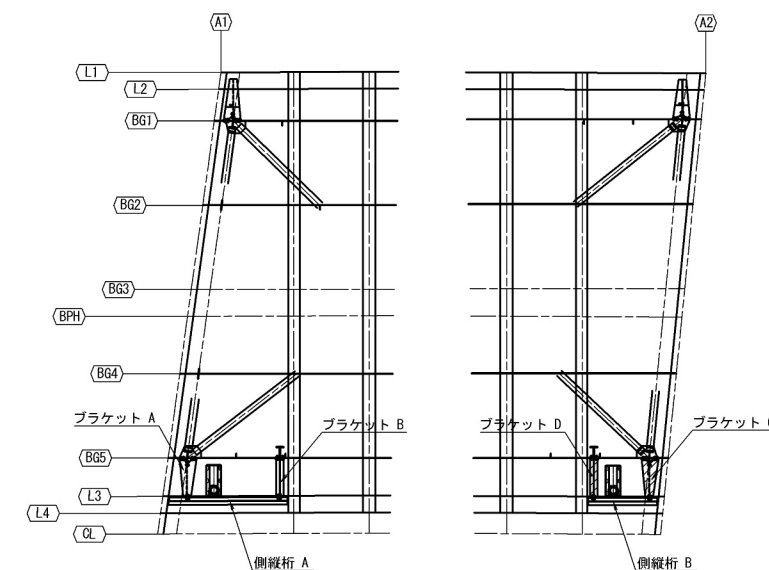
側 面 図
a - a



平面図



配置図 S=1:200



特記:

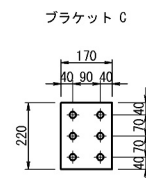
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取付付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカラーは、全て35Rとする。
8. 印のボルトは、TCB M22を示す。
 - ※ 印のボルトは、TCB M22(2-面)を示す。
 - ※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

ブラケットC 詳細図

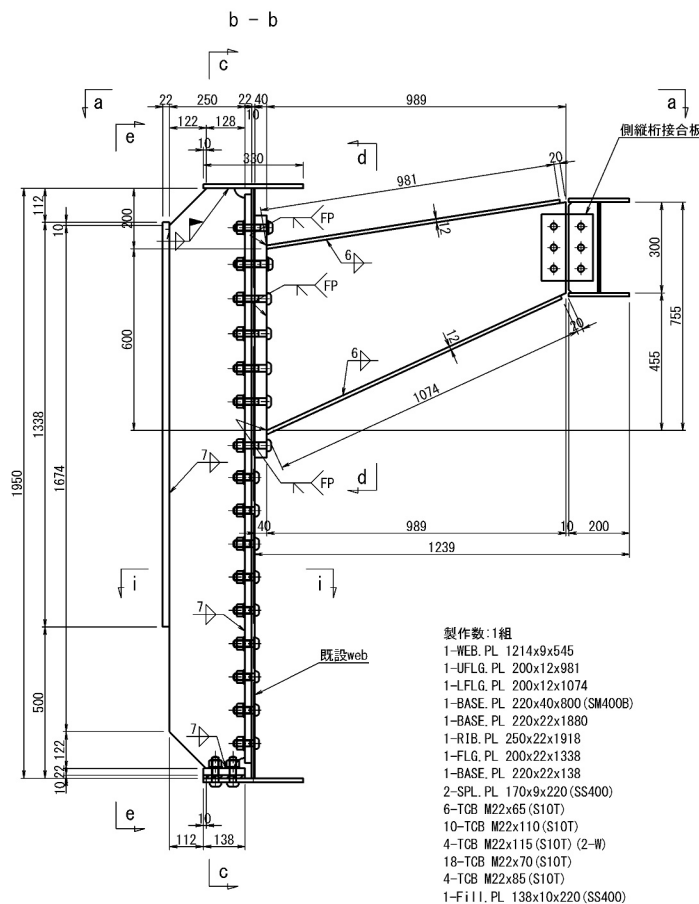
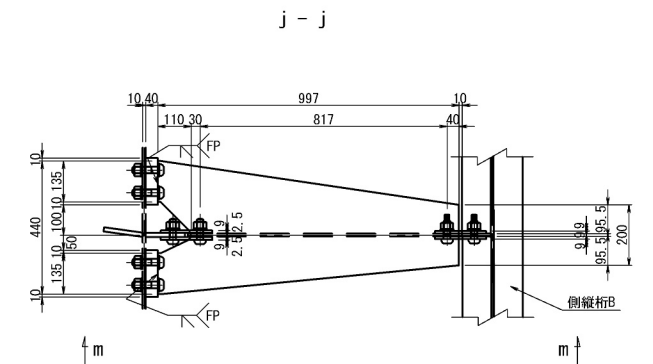
既設水平補剛材撤去詳細図

側縱桁接合板



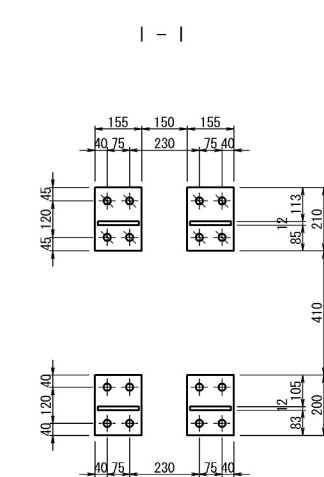
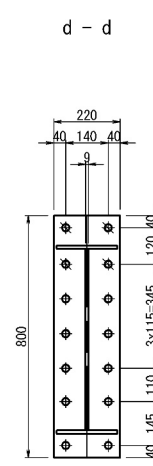
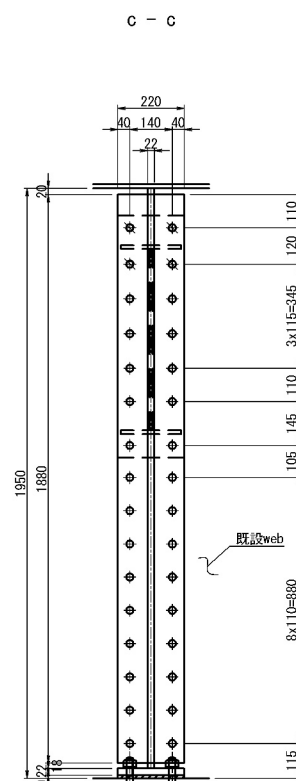
製作數:1組

1-WEB. PL 897x9x709
1-UFLG. PL 440x12x989
1-LFLG. PL 440x12x1081
2-BASE. PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE. PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL. PL 170x9x520 (SS400)
2-Fil. PL 80x2. 3x480 (SS400)
2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
8-TCB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TCB M22x110 (S10T)
8-TCB M22x70 (S10T)
6-TCB M22x65 (S10T)

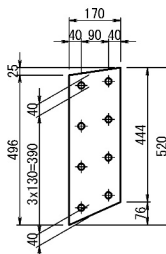


製作数:1組

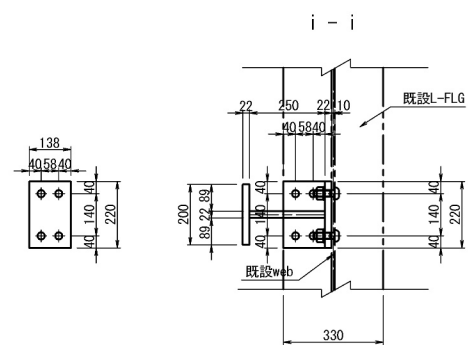
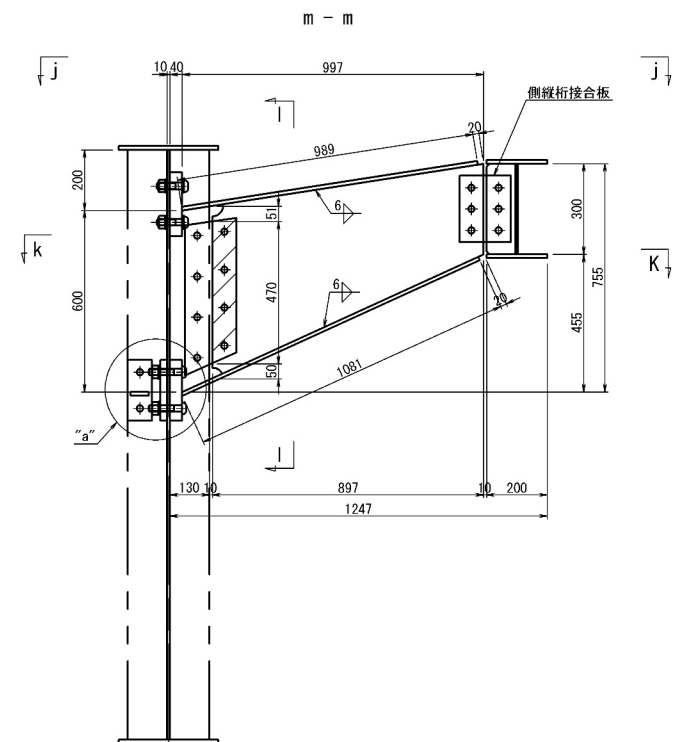
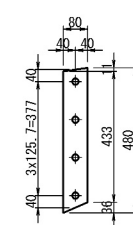
- 1-WEB. PL 1214x9x545
- 1-UFLG. PL 200x12x981
- 1-F.LG. PL 200x12x1074
- 1-BASE. PL 220x40x800 (SM400B)
- 1-BASE. PL 220x22x1880
- 1-RIB. PL 250x22x1918
- 1-FLG. PL 200x22x1338
- 1-BASE. PL 220x22x138
- 2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
- 6-TGB M22x65 (S10T)
- 10-TGB M22x110 (S10T)
- 4-TGB M22x115 (S10T) (2-W)
- 18-TGB M22x70 (S10T)
- 4-TGB M22x85 (S10T)
- 1-Fil. PL 138x10x220 (SS400)



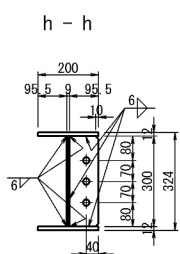
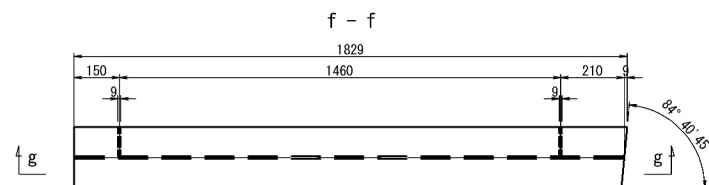
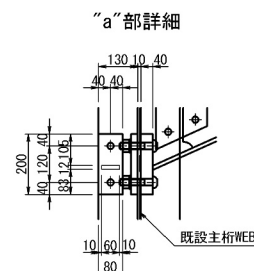
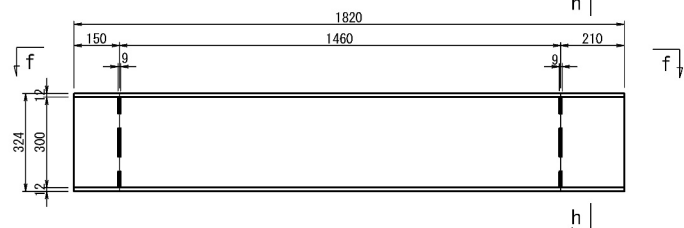
補剛材接合板



フィラープレート



側縦桁B 詳細図


$$\sigma_{\alpha} - \sigma_{\beta}$$


"a"部詳細

製作數:1組

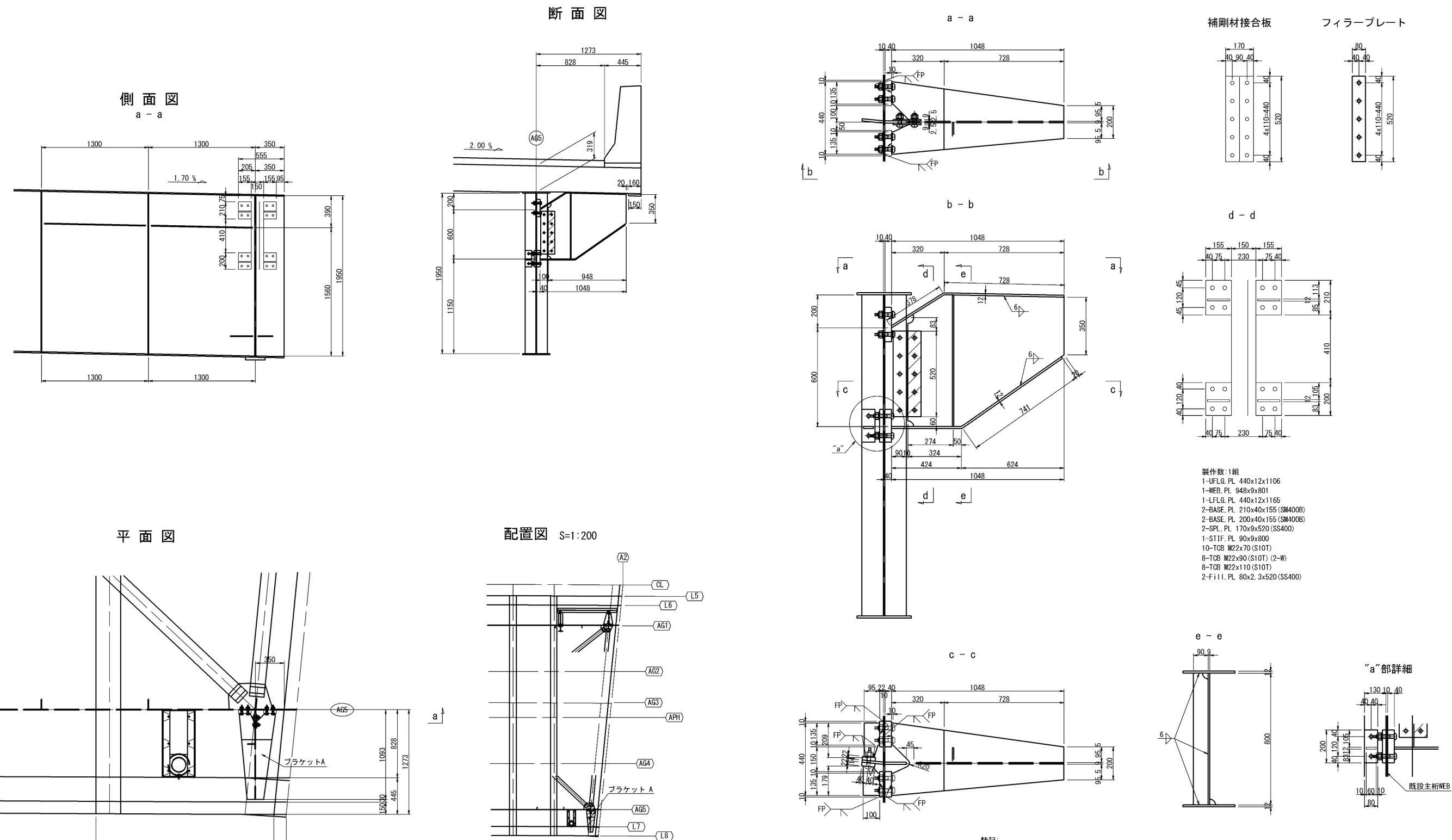
2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 95x12x209
1-RIB. PL 100x12x179
2-TCR M22x95 (S10T)

特記:

1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカラーは、全て35Rとする。
8. ㊦印のボルトは、TCB M22を示す。
㊧印のボルトは、TCB M22(2-W)を示す。
㊨印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5(既設)
TCB M22→φ26.5(新設)

道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	鋪多峰川橋(下り線) 桁端部支間長低減構材構造図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

ブラケットA 詳細図 S=1:25



製作数:1組
1-UFLG. PL 440x12x1106
1-WEB. PL 948x9x801
1-LFLG. PL 440x12x1165
2-BASE. PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE. PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL. PL 170x9x520 (SS400)
1-STIF. PL 90x9x800
10-TCB M22x70 (S10T)
8-TCB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TCB M22x110 (S10T)
2-Fill. PL 80x2. 3x520 (SS400)

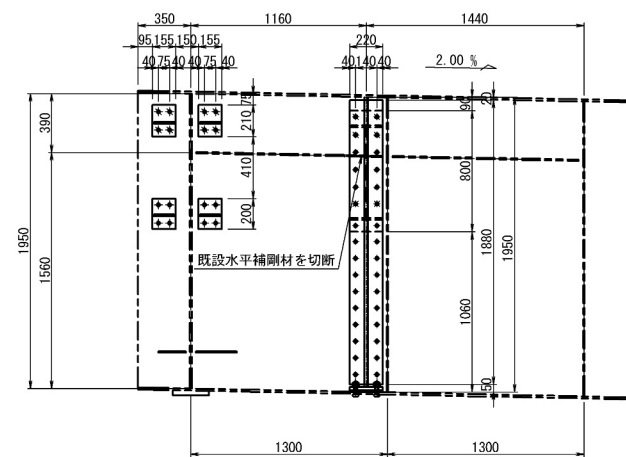
製作数:1組
2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 95x12x209
1-RIB. PL 100x12x179
2-TCB M22x95 (S10T)

- 特記:
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
 - 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 高力材 材接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
 - 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
 - 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
 - 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
 - ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5 (既設)
TCB M22→φ26.5 (新設)

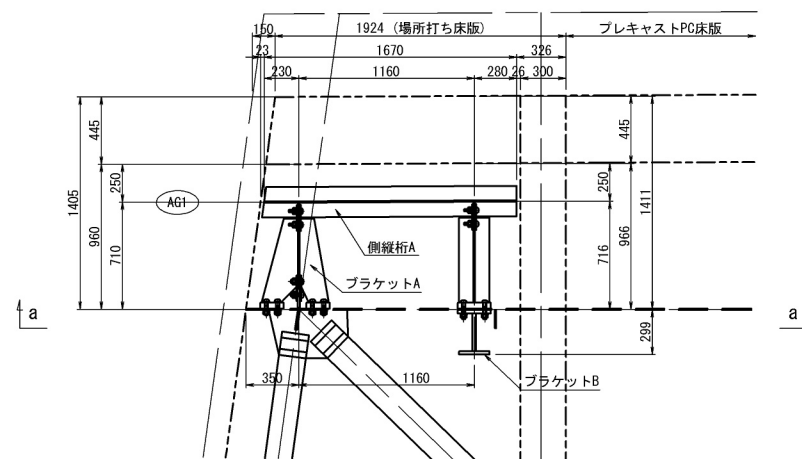
項目	単位	数量	備考
		上り	
桁端部支間長低減部材 A	kg	1995	

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端ブラケット構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

側面図

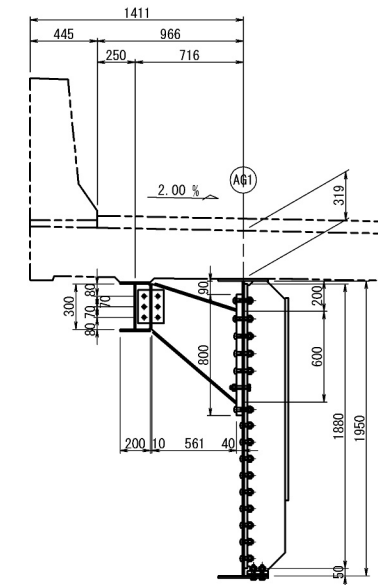
$$a - a$$


平面図

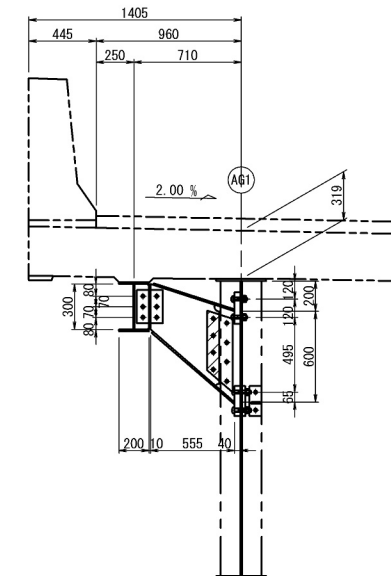


断面図

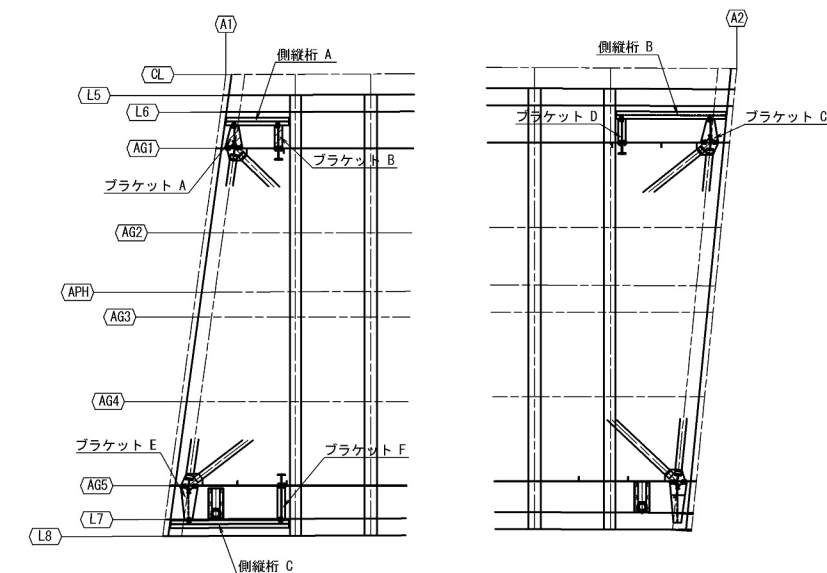
ブラケットB



ブラケットA



配置図 S=1:200

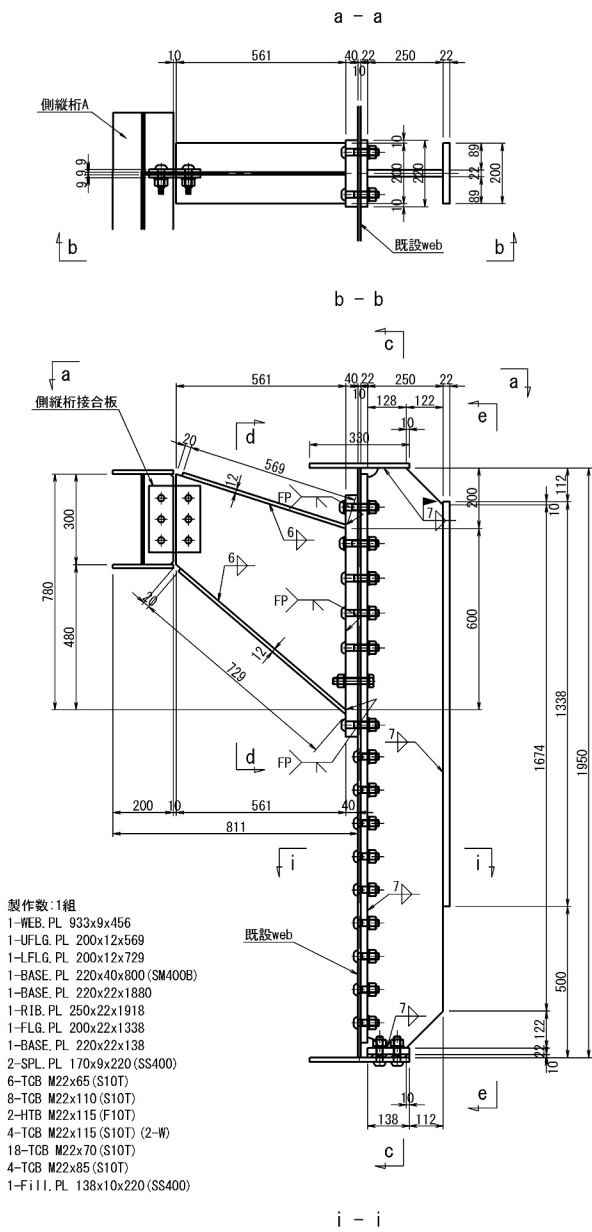


特記:

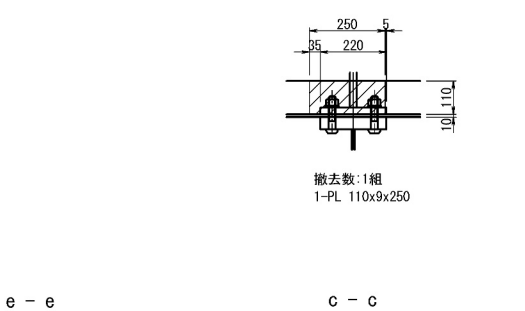
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合部摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカラーラップは、全て35Rとする。
8. 印のボルトは、TCB M22を示す。
 ※ 印のボルトは、TCB M22(2-W)を示す。
 ※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

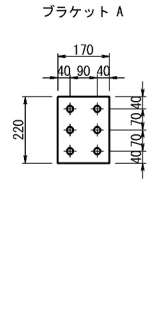
ブラケットB 詳細図



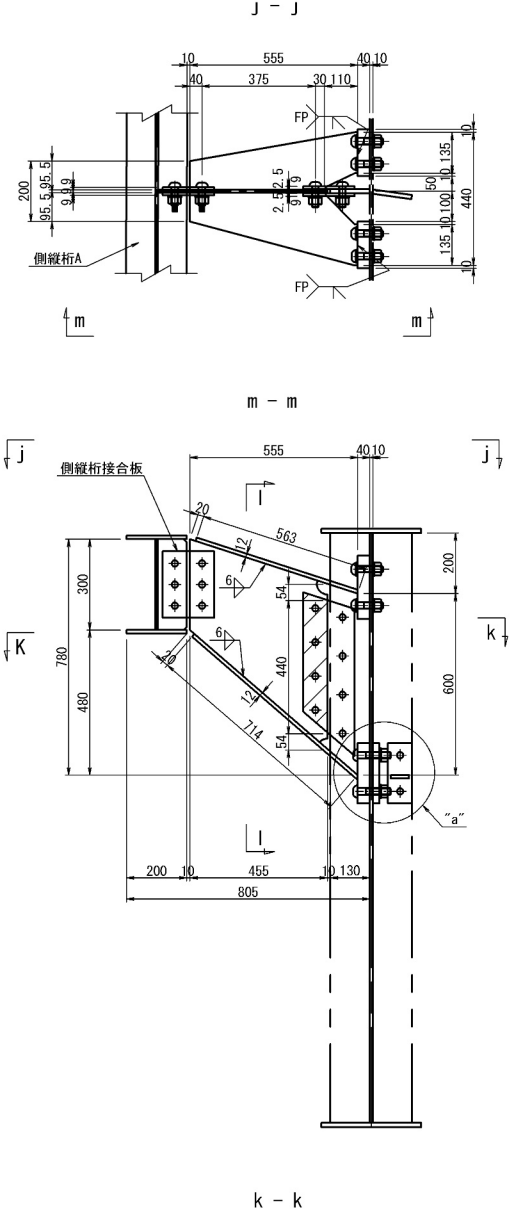
既設水平補剛材撤去詳細図



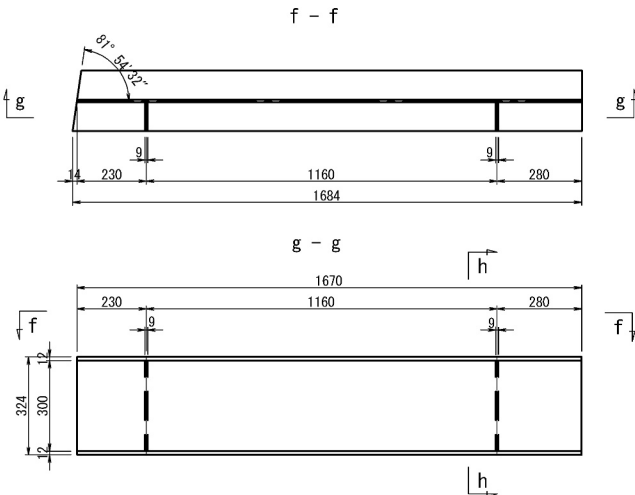
側縦桁接合板



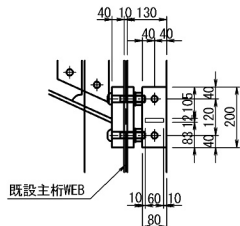
ブラケットA 詳細図



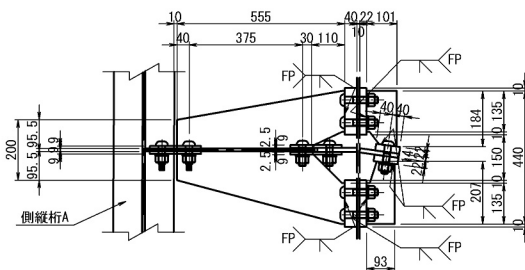
側縦桁A 詳細図



"a"部詳細



k - k



特記:

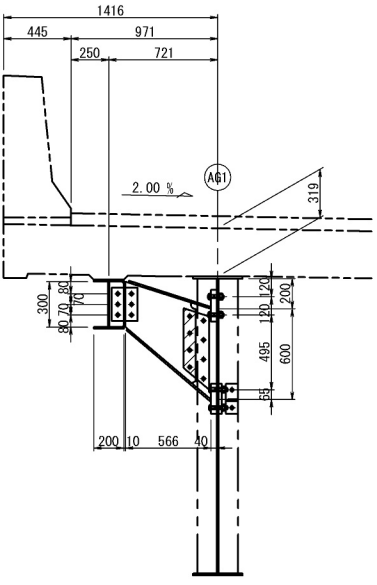
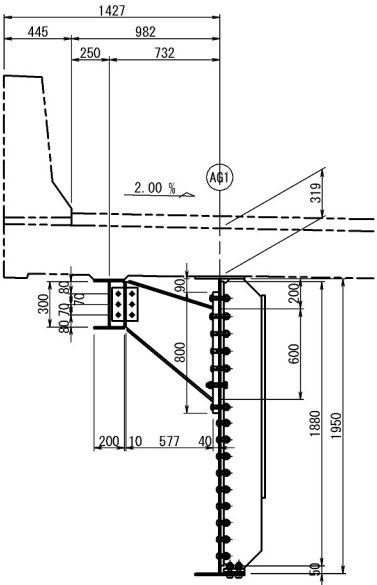
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
- 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
- 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
- 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
- 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
- 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
- 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
- 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
- ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5 (新設)
TCB M22→φ26.5 (新設)

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

断面図

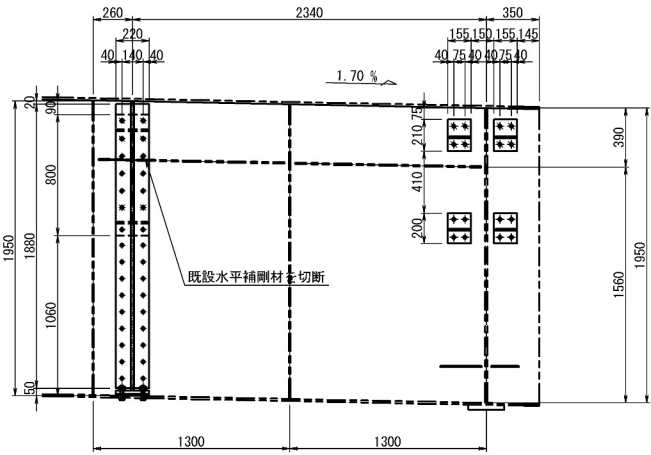
ブラケットD

ブラケットC

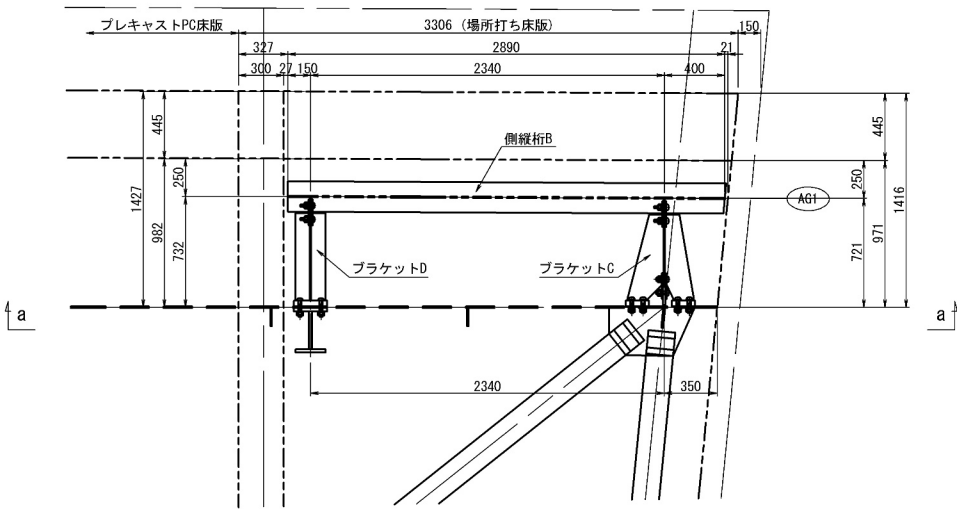


側面図

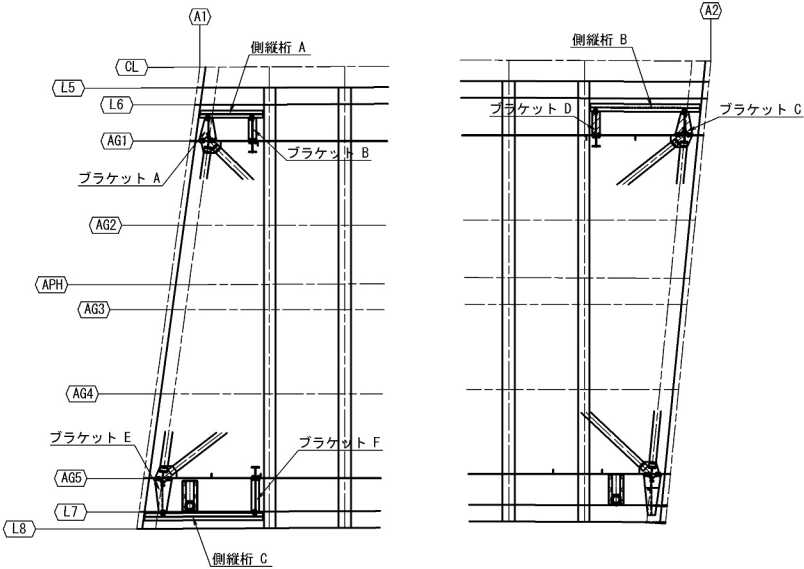
a - a



平面図



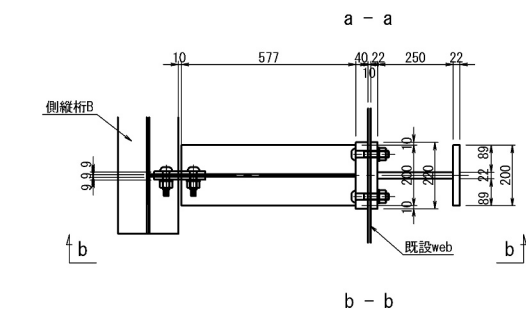
配置図 S=1:200



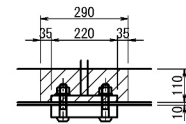
- 特記:
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
 - 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
 - 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
 - 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
 - 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
 - 中 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

ブラケットC 詳細図



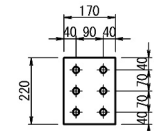
既設水平補剛材撤去詳細図



撤去数:1組
1-PL 110x9x290

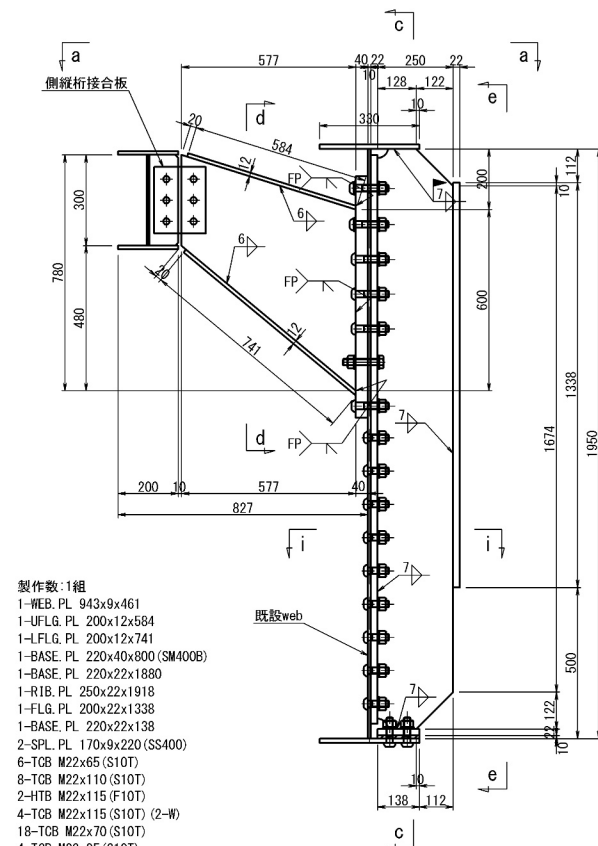
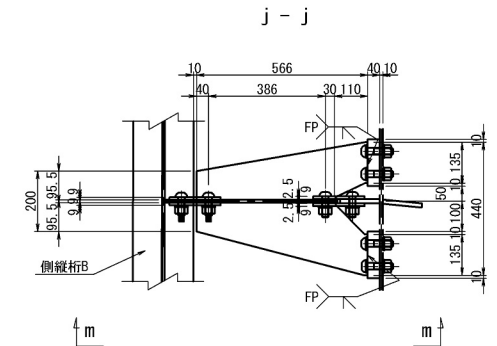
側縱桁接合板

ブラケット C



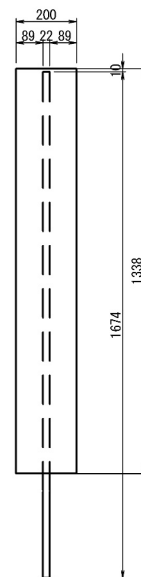
製作数:1組

1-WEB. PL 466x9x695
1-UFLG. PL 440x12x574
1-LFLG. PL 440x12x722
2-BASE. PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE. PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL. PL 170x9x540 (SS400)
2-Fil1. PL 80x2. 3x463 (SS400)
2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
8-TCB M22x9x110 (2-W)
8-TCB M22x110 (S10T)
8-TCB M22x70 (S10T)
6-TCB M22x65 (S10T)

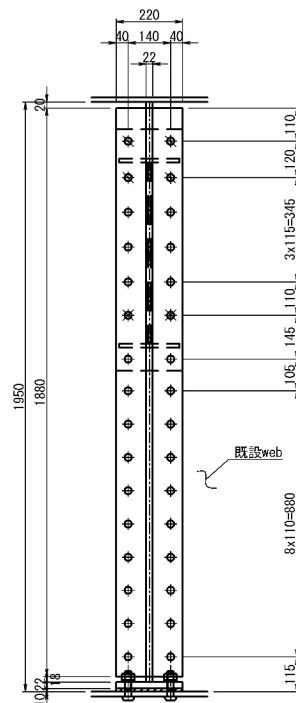


製作数:1組

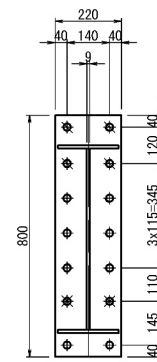
- 1-WEB. PL 943x9x461
- 1-FLG. PL 200x12x584
- 1-FLG. PL 200x12x741
- 1-BASE. PL 220x40x800(SM400B)
- 1-BASE. PL 220x42x1880
- 1-RIB. PL 250x22x219
- 1-FLG. PL 200x22x1338
- 1-BASE. PL 220x22x1338
- 2-SP. PL 170x9x220(SS400)
- 6-TGB M22x65(S10T)
- 8-TGB M22x110(S10T)
- 2-HTB M22x115(F10T)
- 4-TGB M22x115(S10T)(2-W)
- 18-TGB M22x70(S10T)
- 4-TGB M22x85(S10T)
- 1-Fil. PL 138x10x220(SS400)

$$e - e$$


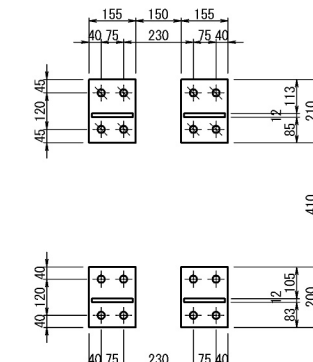
C - C



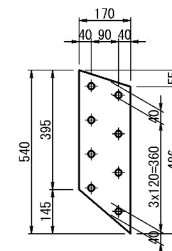
d - d



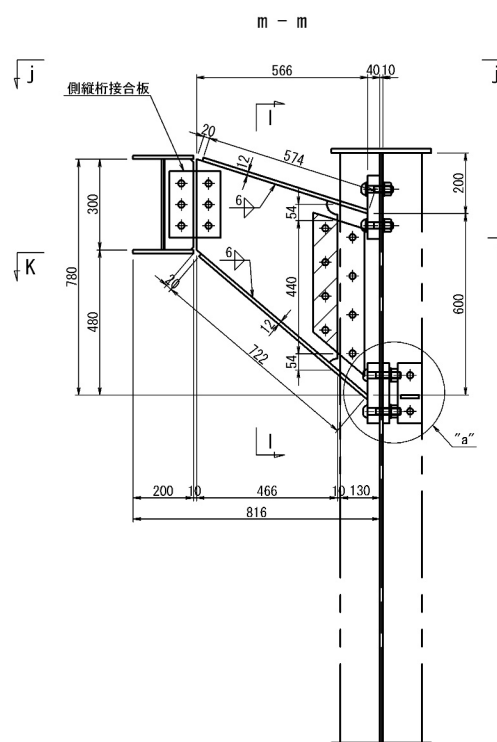
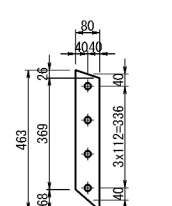
1 - 1



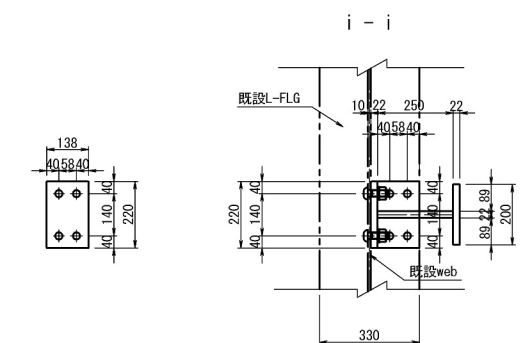
補剛材接合板



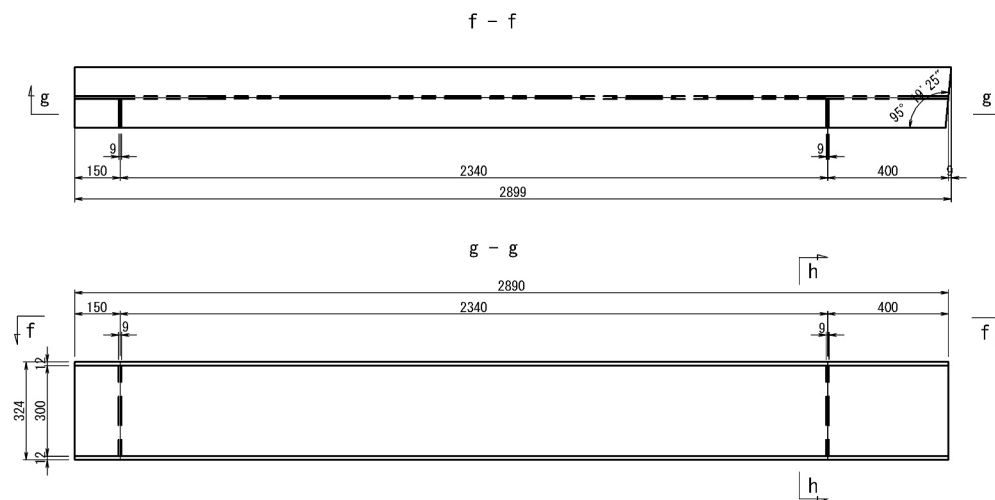
フィラープレート



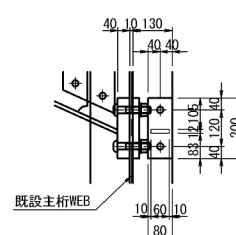
側縦桁B 詳細図



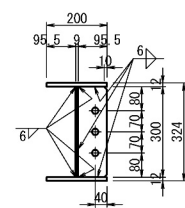
製作数:1組
2-FLG. PL 200x12x2899
1-WEB. PL 300x9x2890
2-STIF. PL 96x9x300



“a”部詳細



h - h



製作：

2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 100x12x179
1-RIB. PL 95x12x209
2-TCB M22x95 (\$10T)

特記:

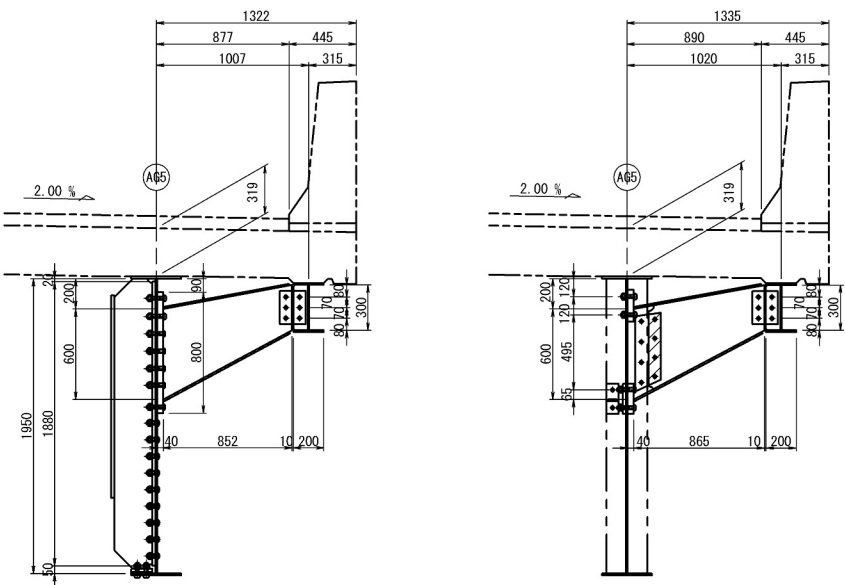
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
8. 中印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5 (既設)
TCB M22→φ26.5 (新設)

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

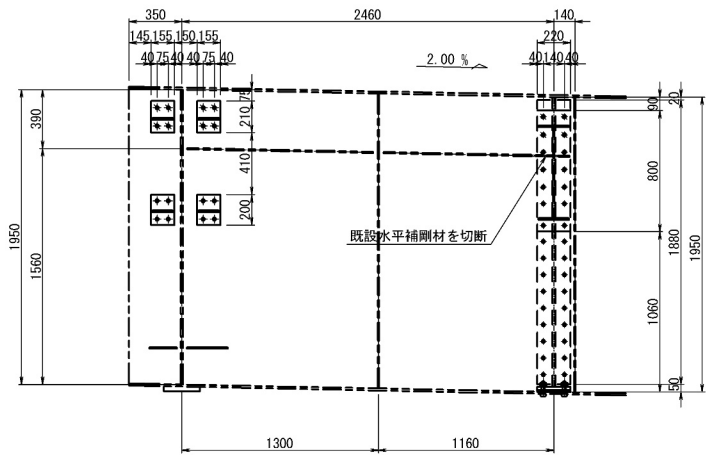
断面図

ブラケットF

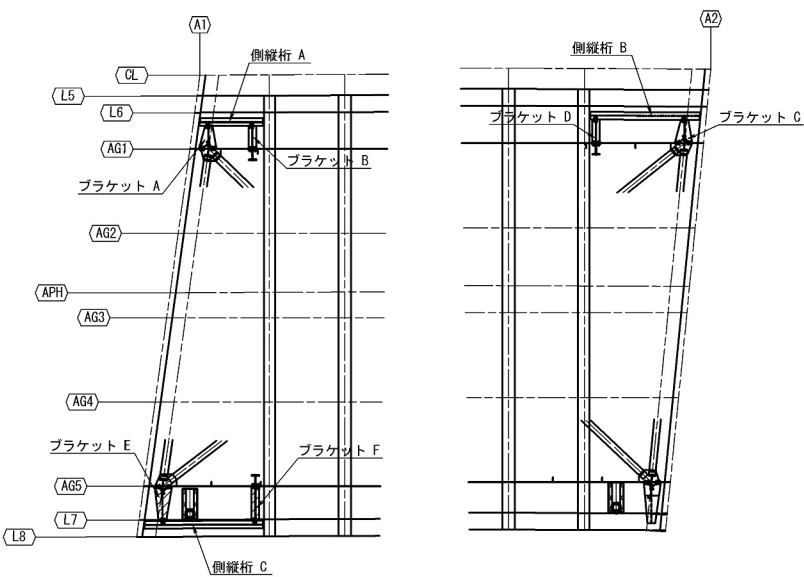
ブラケットE



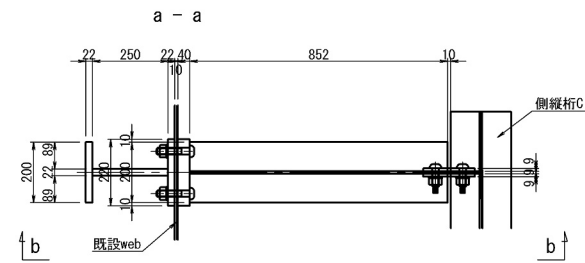
側面図
a - a



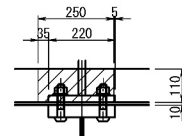
配置図 S=1:200



ブラケットF 詳細図

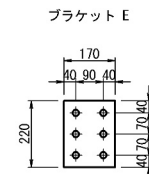


既設水平補剛材撤去詳細図



撤去數:1組
1-PL 110x9x250

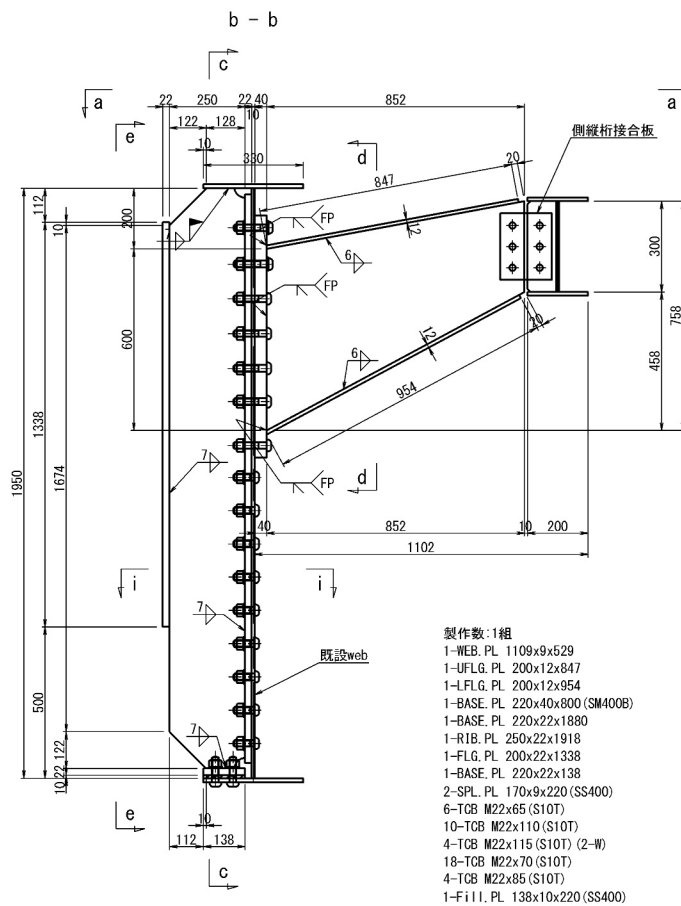
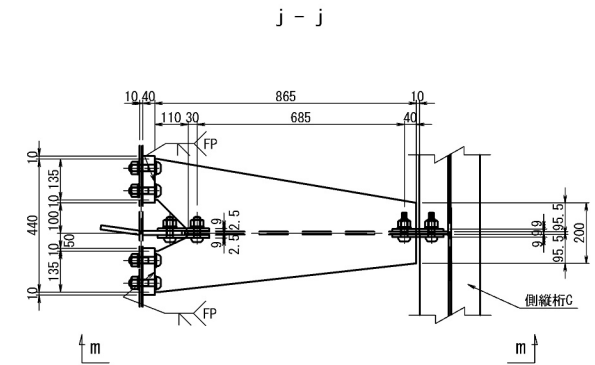
側縱桁接合板



製作數:1組

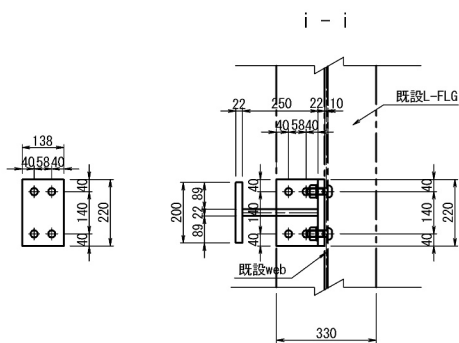
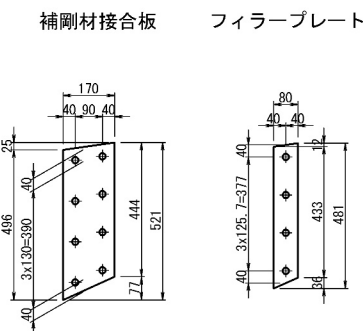
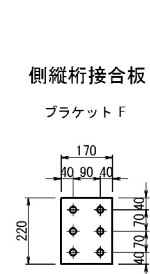
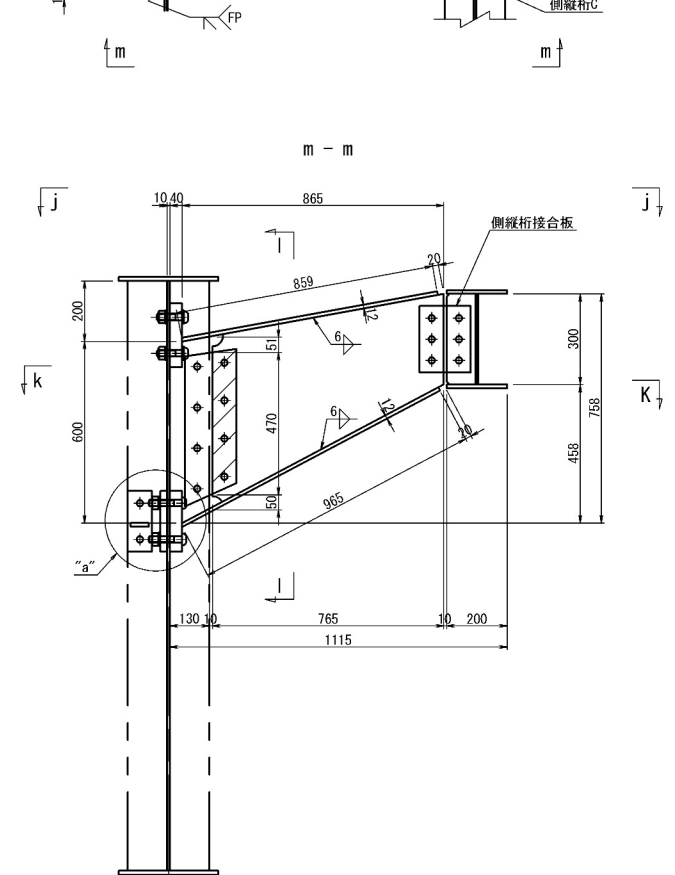
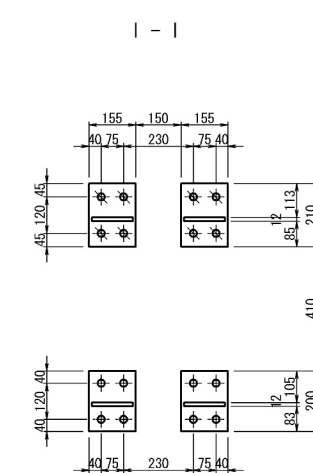
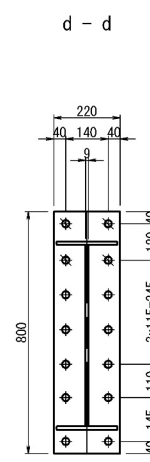
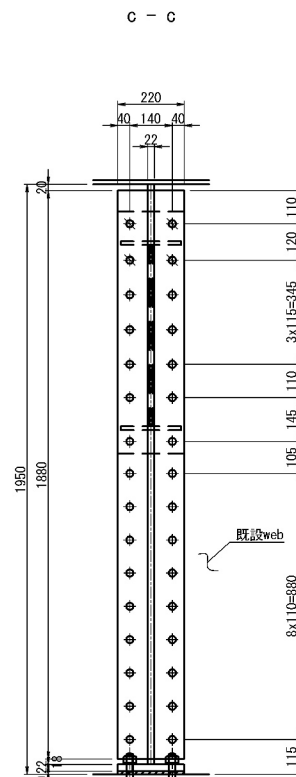
- 1-WEB. PL 765x9x705
1-UJLG. PL 440x12x859
1-FLG. PL 440x12x965
2-BASE. PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE. PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL. PL 170x9x521 (SS400)
2-Fil. PL 80x2. 3x481 (SS400)
2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
8-TGB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TGB M22x110 (S10T)
8-TGB M22x70 (S10T)
6-TGB M22x65 (S10T)

ブラケットE 詳細図

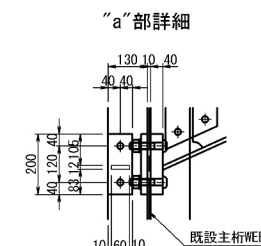
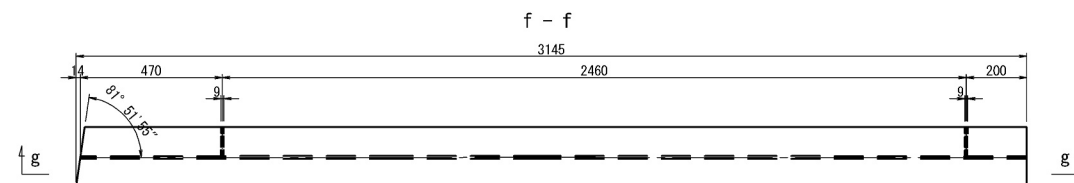


製作数:1組

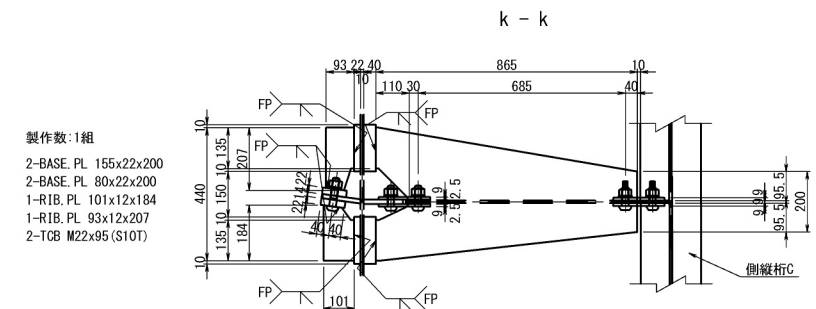
- 1-WEB. PL 1109x9x529
- 1-UFLG. PL 200x12x847
- 1-L.FLG. PL 200x12x954
- 1-BASE. PL 220x40x800 (SM400B)
- 1-BASE. PL 220x22x1880
- 1-RIB. PL 250x22x1918
- 1-FLG. PL 200x22x1338
- 1-BASE. PL 220x22x138
- 2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
- 6-TCB M22x65 (S10T)
- 10-TCB M22x110 (S10T)
- 4-TCB M22x115 (S10T) (2-W)
- 18-TCB M22x70 (S10T)
- 4-TCB M22x85 (S10T)
- 1-Fil. PL 138x10x220 (SS400)



側縦桁C 詳細図



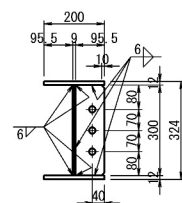
"a"部詳細



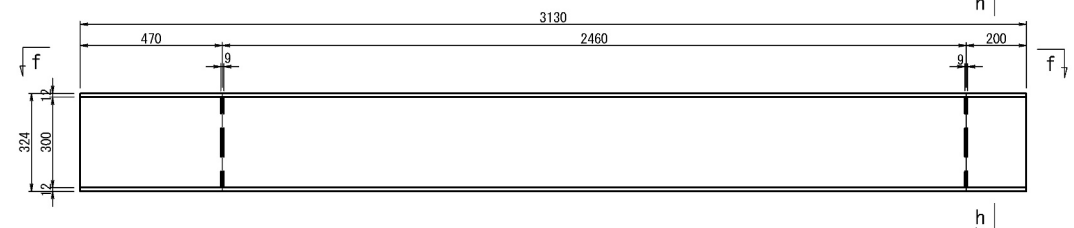
製作数:1組

- 2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 101x12x184
1-RIB. PL 93x12x207
2-TCB M22x95 (S10T)

h - h



00 - 00



製作数:1組
2-FLG. PL 200x12x3145
1-WEB. PL 300x9x3130
2-STIF. PL 96x9x300

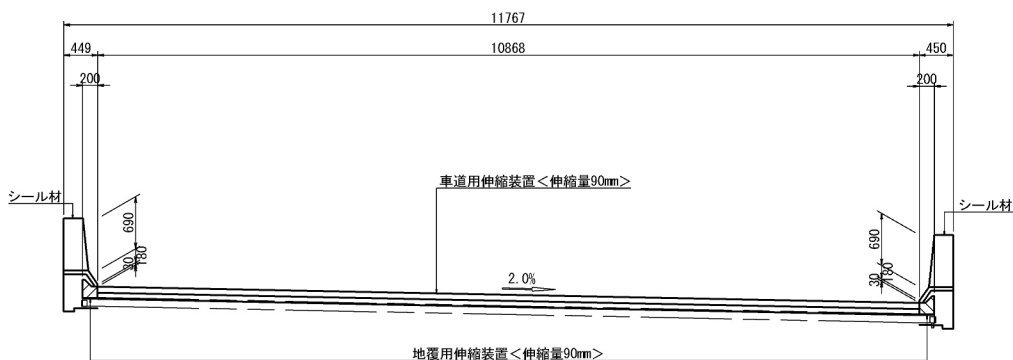
特記:

1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカラーは、全て35Rとする。
8. ㊦印のボルトは、TCB M22を示す。
㊧印のボルトは、TCB M22(2-W)を示す。
㊨印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5(既設)
TCB M22→φ26.5(新設)

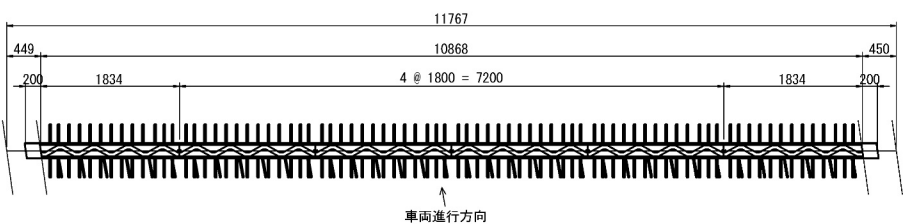
道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事				
図面の種類	錯多峰川橋(上り線) 桁端部支間長減部材構造図(その6)			
縮 尺	図 示	図面番号	／	
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広管営理事務所			

錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その1)
(A1橋台)

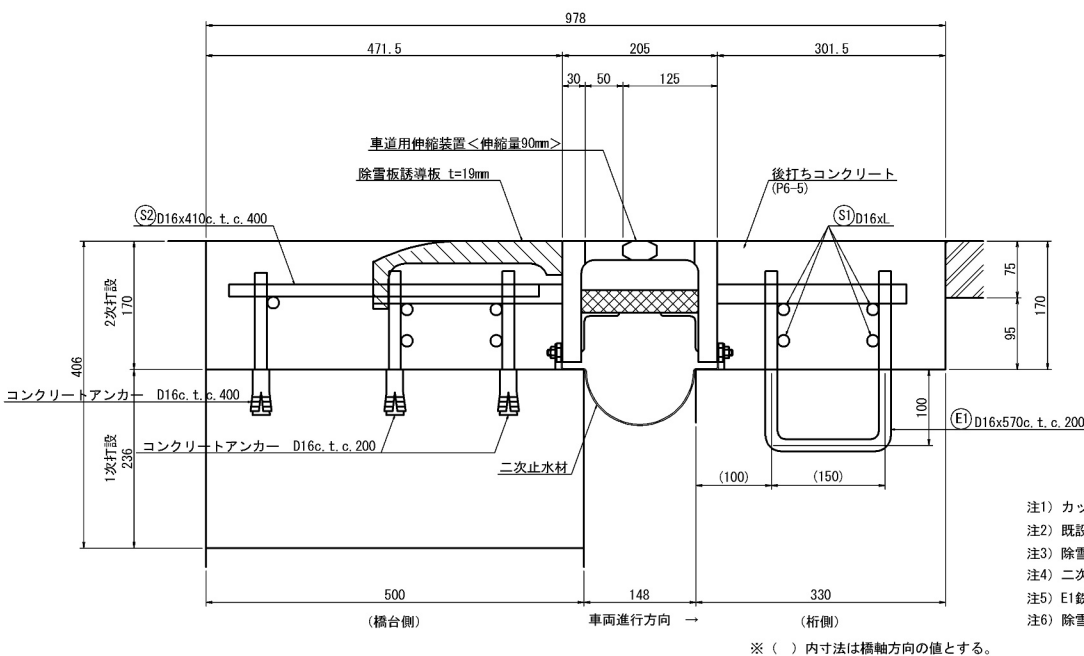
断面図 S=1:100



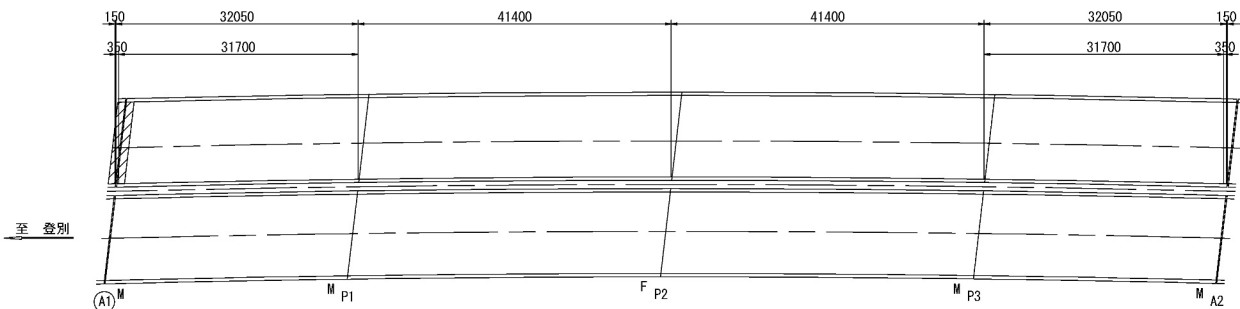
平面図 S=1:100



取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



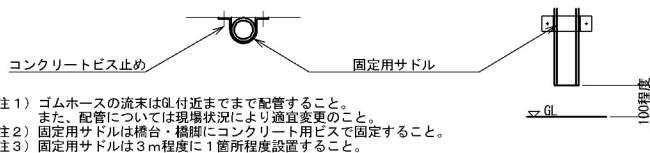
位置図



二次止水材端部部材名称

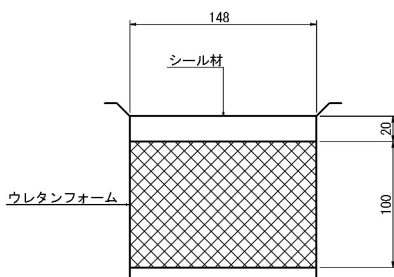


繊維補強入ゴムホース (内径φ25) 取付図



- 注1) カッター幅及び研り深さについては、現場の状況により変更の事。
注2) 既設鉄筋が利用可能の場合は、あと施工アンカーを使用せず加工鉄筋等を使用の事。
注3) 除雪板誘導板については、車両進行方向に対し平行に伸縮装置の手前に設置の事。
注4) 二次止水材は施工境界部に継目が無い構造である事。
注5) E1鉄筋は横軸方向に配筋する事。
注6) 除雪板誘導板は製作工場においてすみ肉溶接にて取付する事。

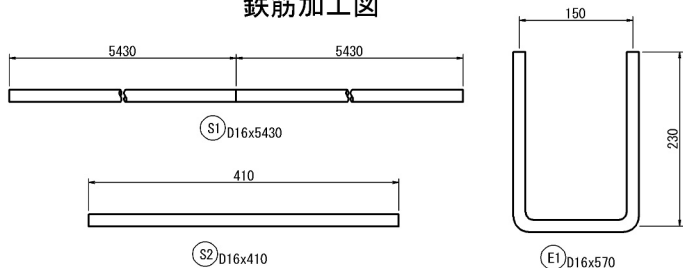
シーリング材詳細図 S=1:6



旧伸縮継手及び既設コンクリート

	A1
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート (σ _{ck} =24N/mm ²)

鉄筋加工図

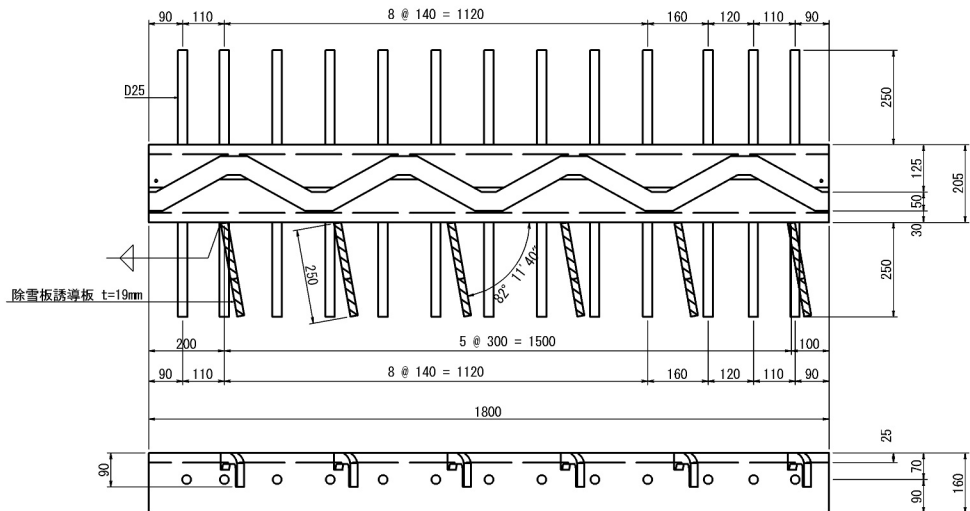


材料表

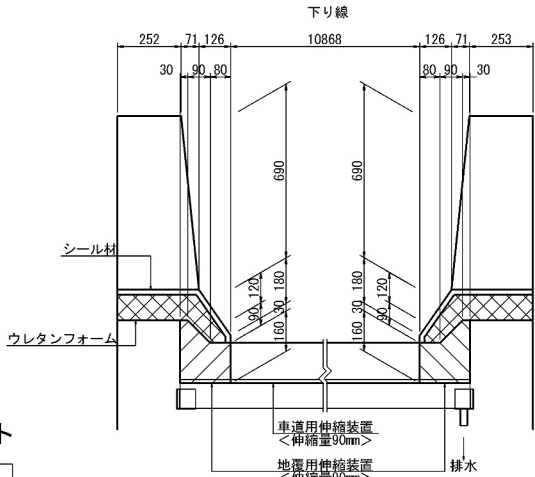
品 名		仕 様	単位	A1	備 考
				下り線	
車道用伸縮装置		伸縮量90mm	m	10.868	車道部
地覆用伸縮装置		伸縮量90mm	m	0.400	地覆部
二次止水材		連続止水材本体取付型	m	11.268	
後打ちコンクリート		σ _{ck} =50N/mm2	m3	2.84	P6-5
シーリング材			L	3.4	
補強鉄筋	S1	D16x5430	kg	152.5	
	S2	D16x410	kg	17.3	27本
	計		kg	169.8	
アンカー鉄筋	E1	D16x570	kg	48.0	54本
コンクリートアンカー		D16	本	135	

製品図 S=1:20

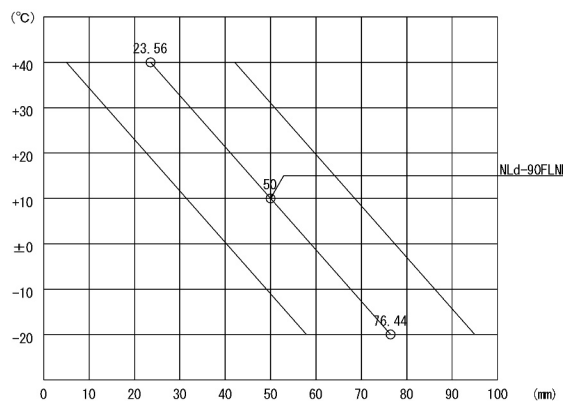
車道用伸縮装置<伸縮量90mm>



地覆部止水処理図 S=1:30

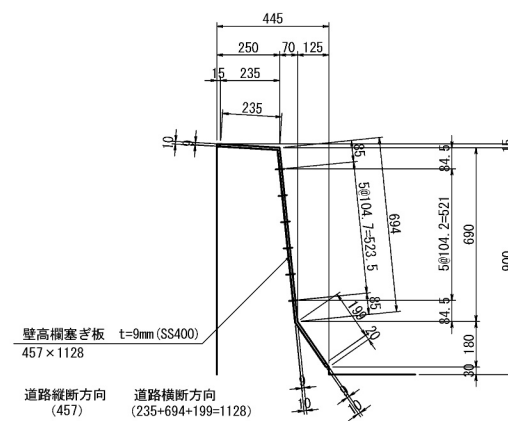


伸縮装置遊間設定表

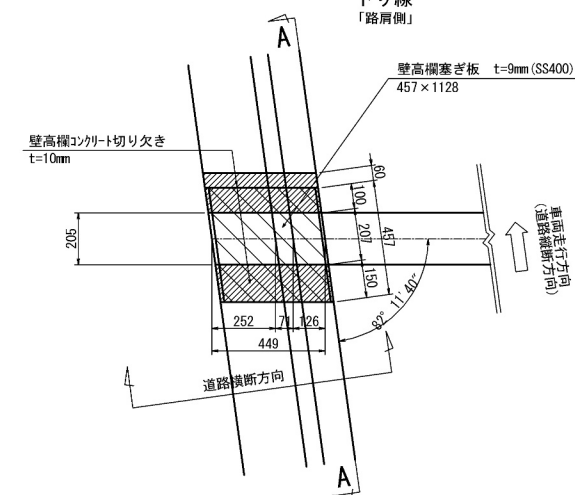


道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		

道路横断方向～断面図



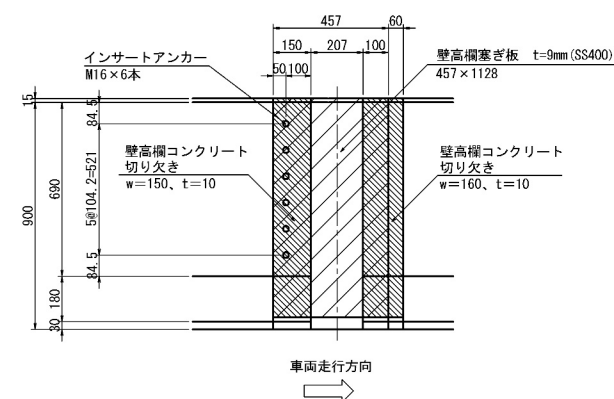
平面图 1:30



側面図 1:30

A-A

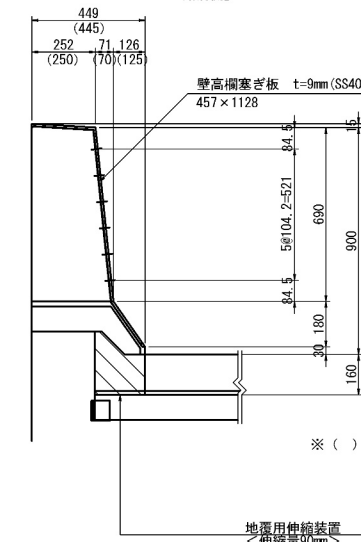
「路肩側」



断面図 1:30

下り線
「路肩側」

「路肩側」



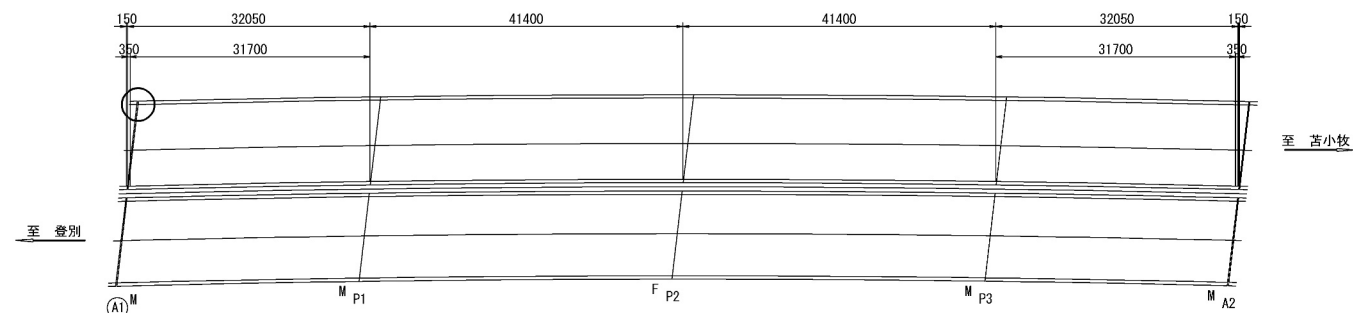
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A1橋台數量

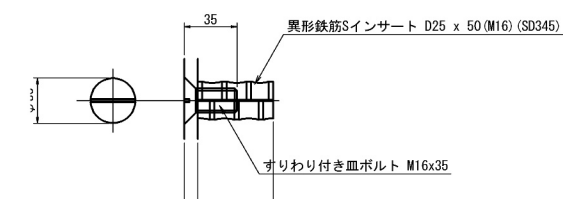
- ※ 1-PL 457 x 9 x 1128 (SS400)
 ※ 6-異形鉄筋Sインサート D25 x 50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35 (SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図

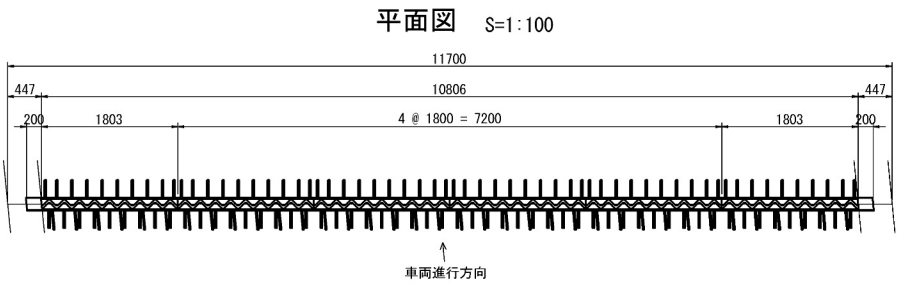
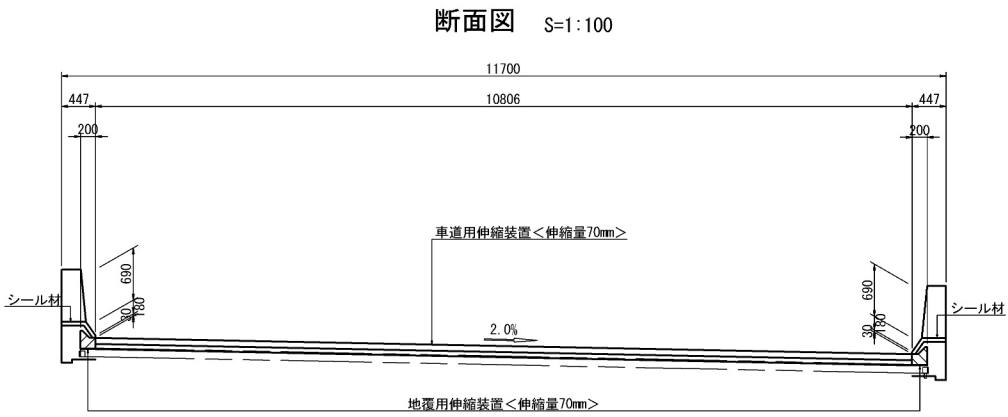


取付ボルト詳細 S=1:5

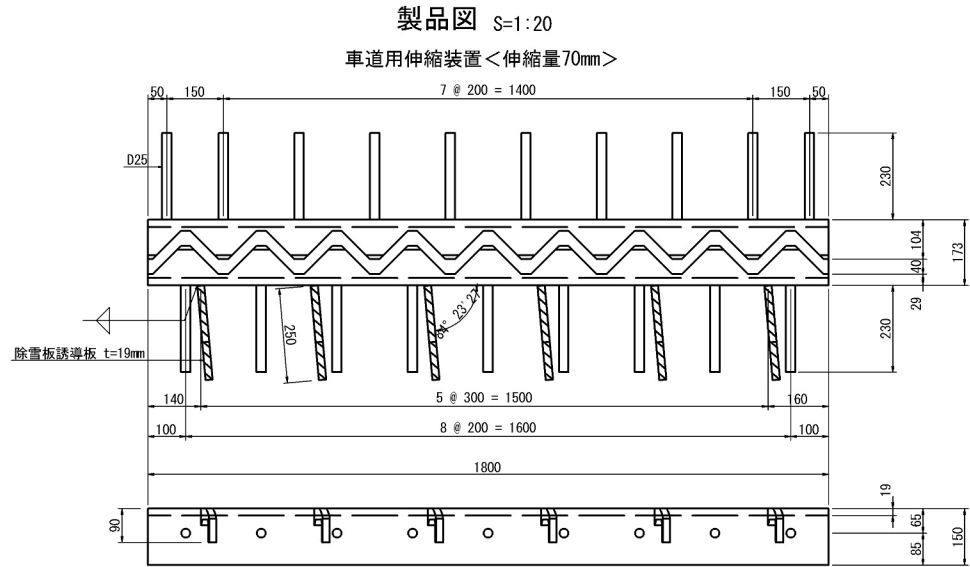


道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類		錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その2)	
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速度路線株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

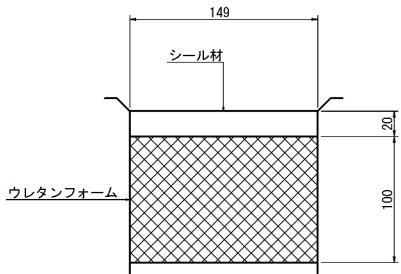
錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その3)
(A2橋台)



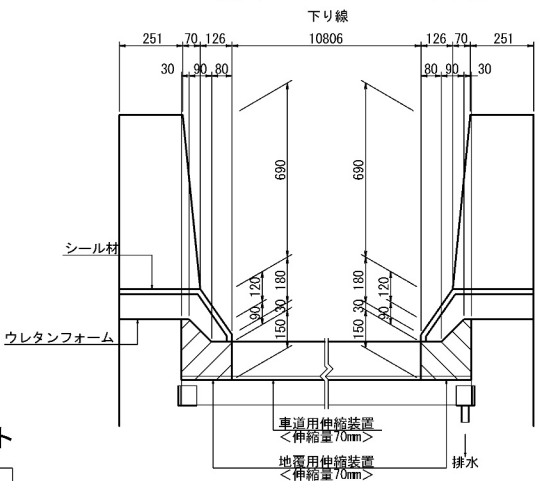
項目	単位	数量	備考
伸縮装置E (S=70mm)	m	10.806	



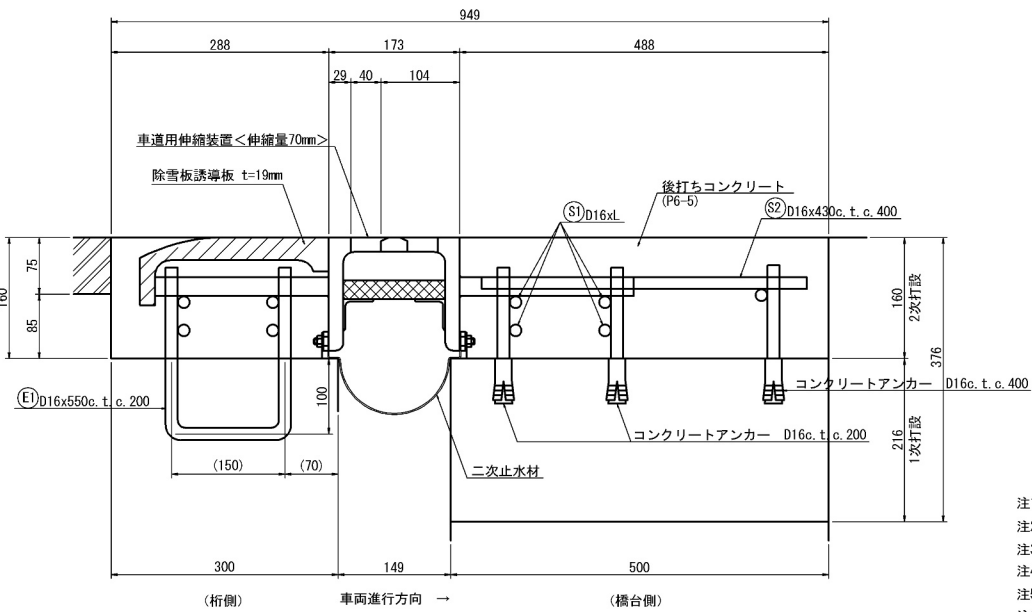
シール材詳細図 S=1:6



地覆部止水処理図 S=1:30



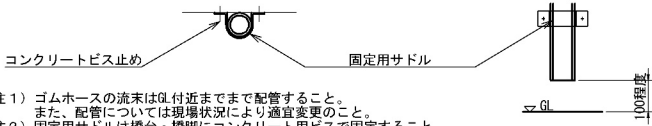
取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



二次止水材端部部材名称



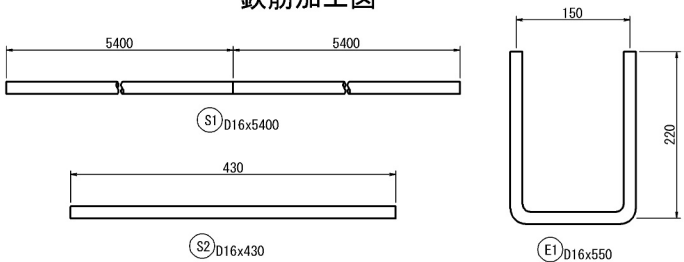
繊維補強入ゴムホース (内径φ25) 取付図



旧伸縮継手及び既設コンクリート

	A2
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート (σ _{ck} =24N/mm ²)

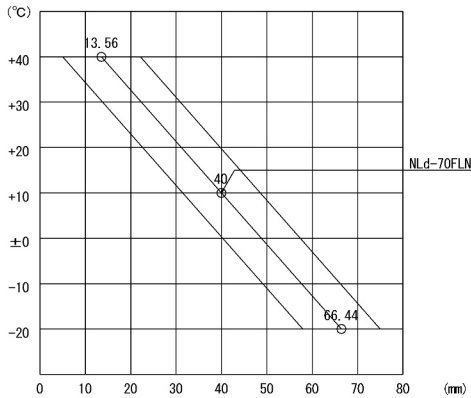
鉄筋加工図



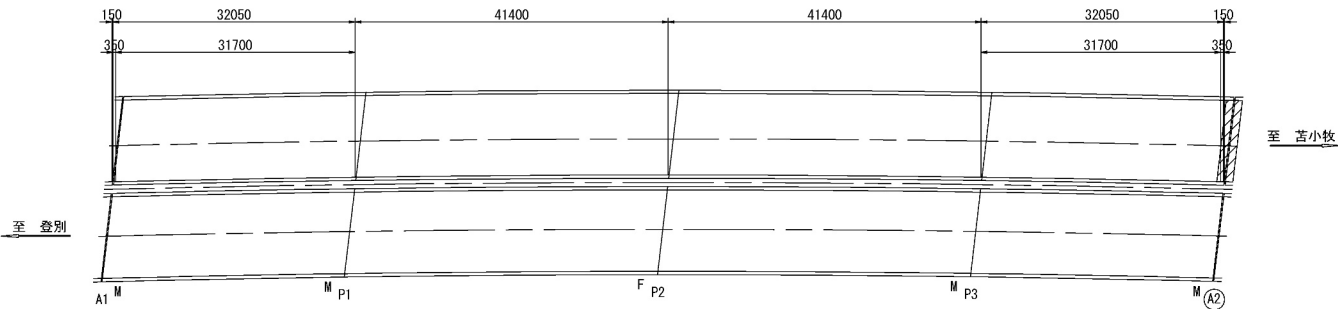
材料表

品名	仕様	単位	A2 下り線	備考
車道用伸縮装置	伸縮量70mm	m	10.806	車道部
地覆用伸縮装置	伸縮量70mm	m	0.400	地覆部
二次止水材	連続止水材本体取付型	m	11.206	
後打ちコンクリート	σ _{ck} =50N/mm ²	m ³	2.63	P6-5
シール材		L	3.4	
補強鉄筋	S1 D16x5400	kg	151.6	
	S2 D16x430	kg	18.1	27本
	計	kg	169.7	
アンカー鉄筋	E1 D16x590	kg	46.3	54本
コンクリートアンカー	D16	本	135	

伸縮装置遊間設定表



位置図

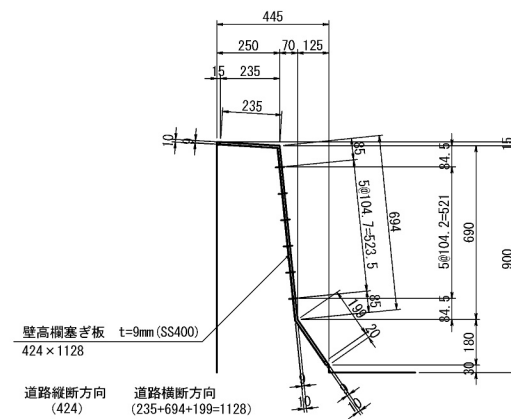


至 苫小牧

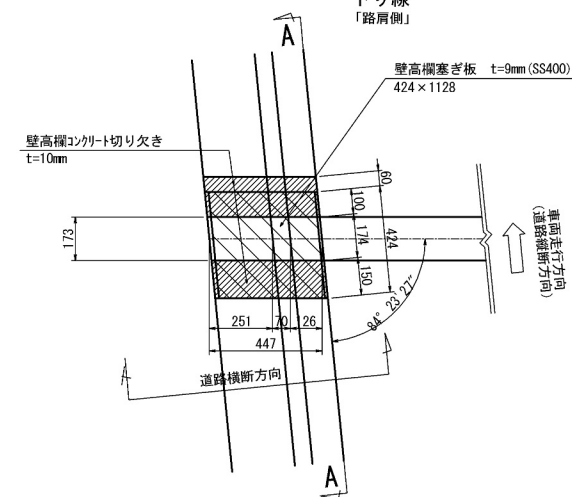
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その4)
(A2橋台 塞ぎ板)

道路横断方向～断面図



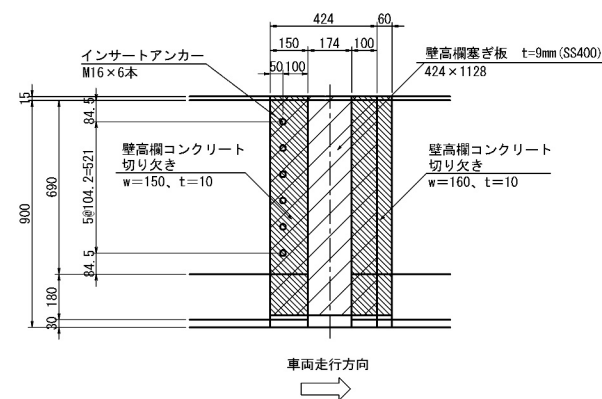
平面图 1:30



側面図 1:30

A-A

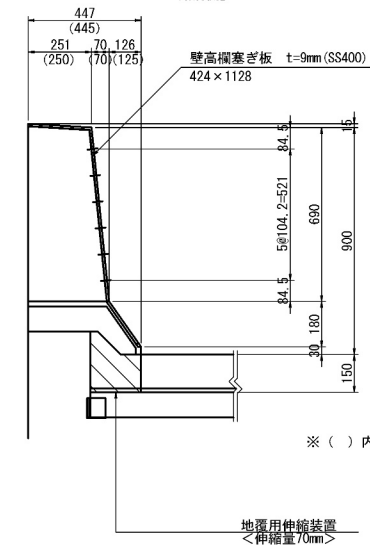
「路肩側」



断面图 1:30

下り線
「路肩側」

「附例」



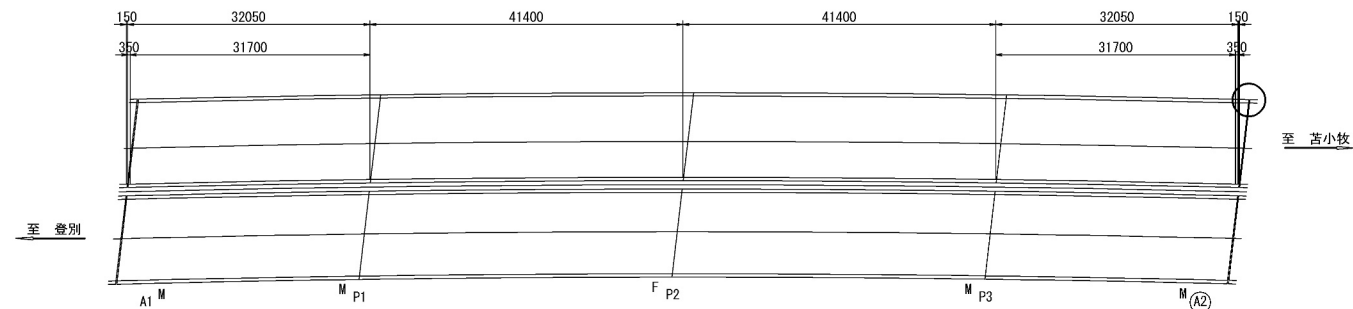
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A2橋台數量

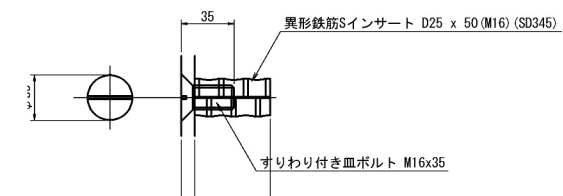
- ※ 1-PL 424 x 9 x 1128(SS400)
 ※ 6-異形鉄筋Sインサート D25 x 50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35(SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図



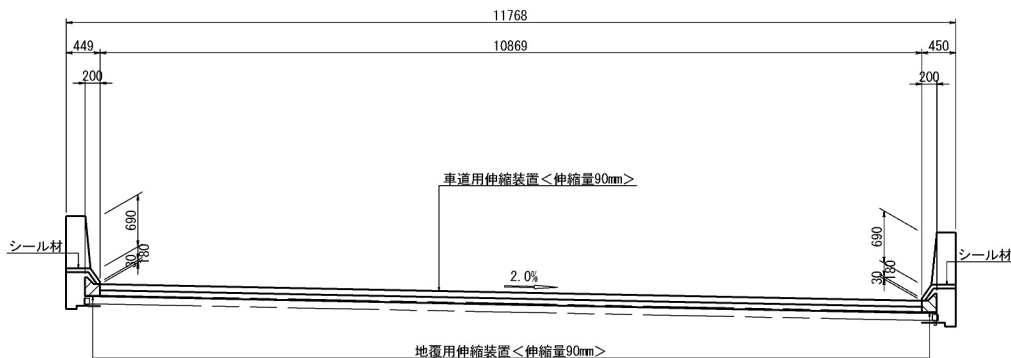
取付ボルト詳細 S=1:5



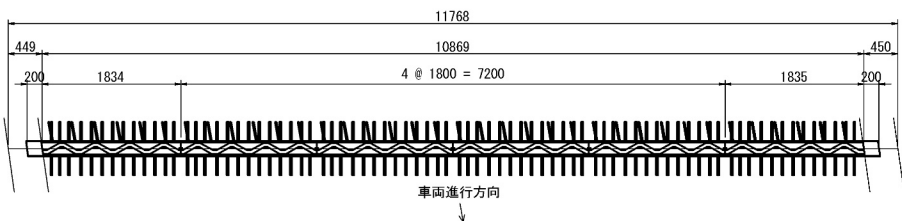
道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋仮床取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地蔵川		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その1)
(A1橋台)

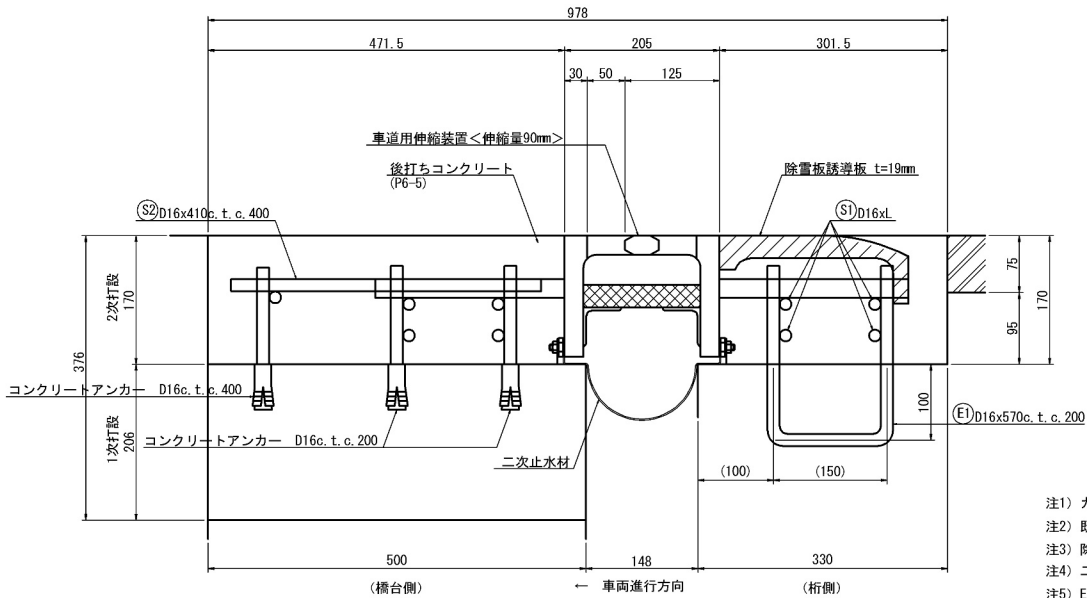
断面図 S=1:100



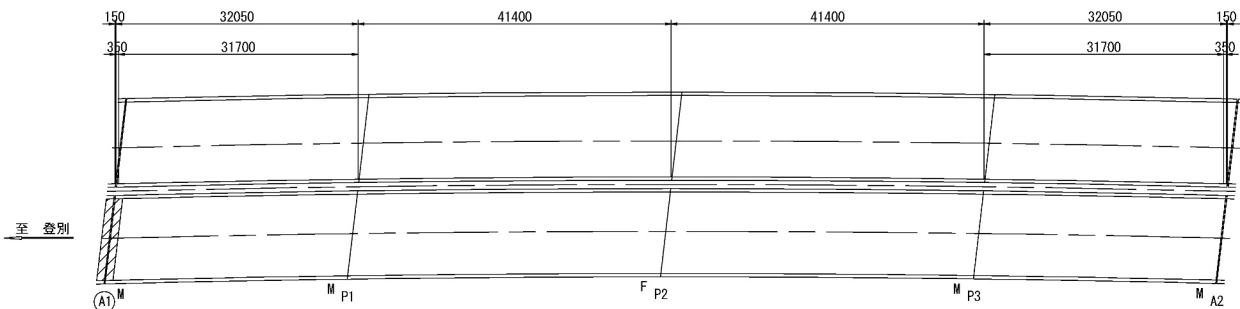
平面図 S=1:100



取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



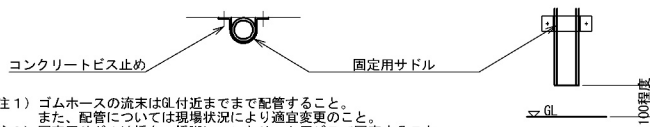
位置図



二次止水材端部部材名称



繊維補強入ゴムホース（内径φ25）取付図

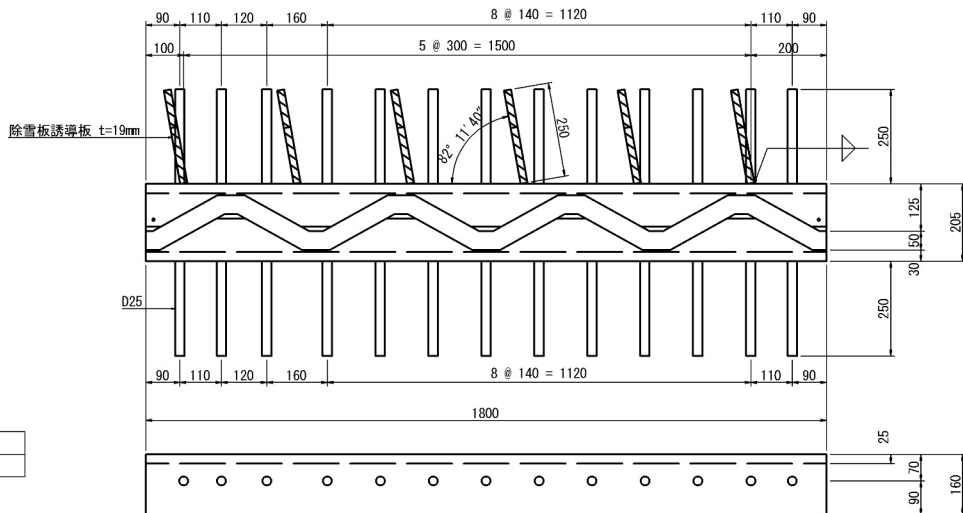


- 注1) ゴムホースの流末は取付近までまで配管すること。
また、配管については現場状況により適宜変更のこと。
注2) 固定用サドルは橋台・橋脚にコンクリート用ビスで固定すること。
注3) 固定用サドルは3m程度に1箇所程度設置すること。

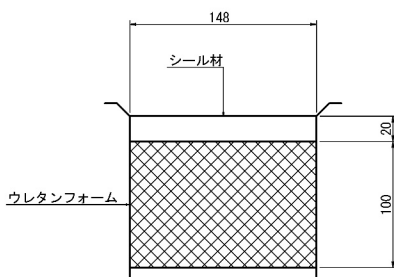
- 注1) カッター幅及び研り深さについては、現場の状況により変更の事。
注2) 既設鉄筋が利用可能の場合は、あと施工アンカーを使用せず加工鉄筋等を使用の事。
注3) 除雪板誘導板については、車両進行方向に対し平行に伸縮装置の手前に設置の事。
注4) 二次止水材は施工境界部に継目が無い構造である事。
注5) E1鉄筋は橋軸方向に配筋する事。
注6) 除雪板誘導板は製作工場においてすみ肉溶接にて取付する事。

製品図 S=1:20

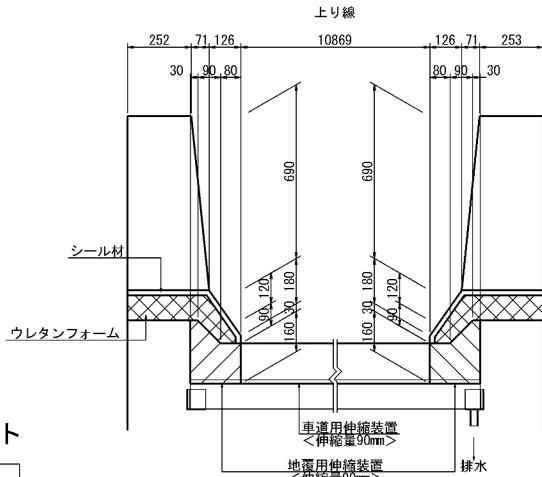
車道用伸縮装置<伸縮量90mm>



シール材詳細図 S=1:6



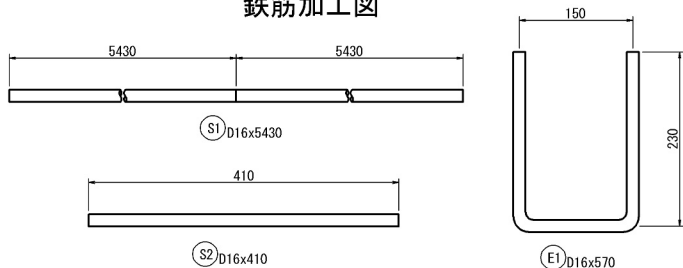
地覆部止水処理図 S=1:30



旧伸縮継手及び既設コンクリート

A1	
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート(σ _{ok} =24N/mm ²)

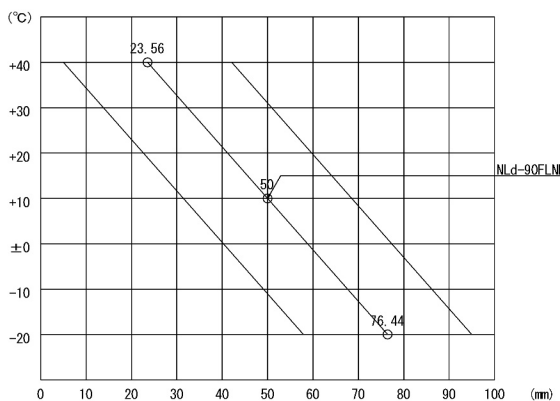
鉄筋加工図



材料表

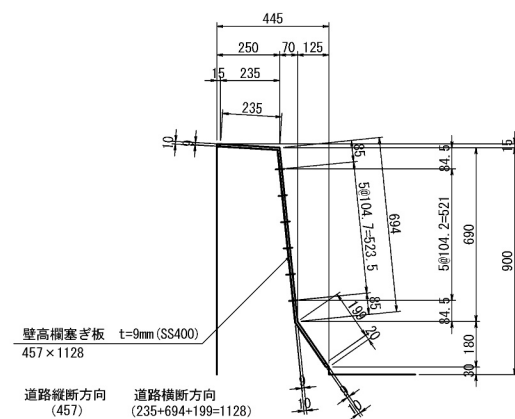
品 名		仕 様	単位	A1	備 考
				上り線	
車道用伸縮装置		伸縮量90mm	m	10.869	車道部
地覆用伸縮装置		伸縮量90mm	m	0.400	地覆部
二次止水材		連続止水材本体取付型	m	11.269	
後打ちコンクリート		σ _{ok} =50N/mm2	m3	2.67	P6-5
シール材			L	3.4	
補強鉄筋	S1	D16x5430	kg	152.5	27本
	S2	D16x410	kg	17.3	
	計		kg	169.8	
アンカー鉄筋		D16x570	kg	48.0	54本
コンクリートアンカー		D16	本	135	

伸縮装置遊間設定表

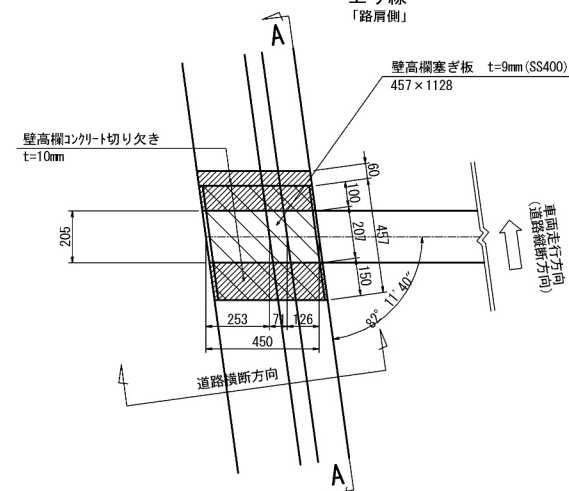


道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地蔵JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

道路横断方向～断面図



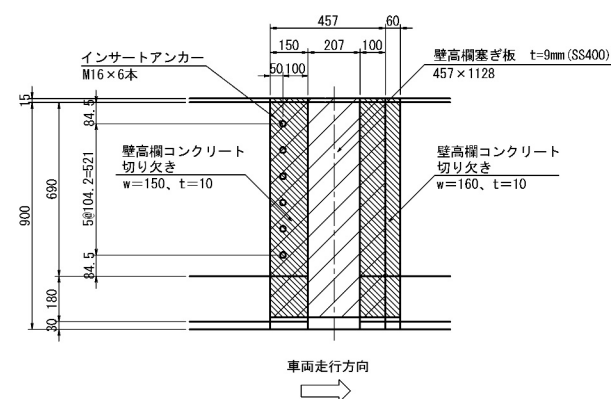
平面图 1:30



側面図 1:30

A-A

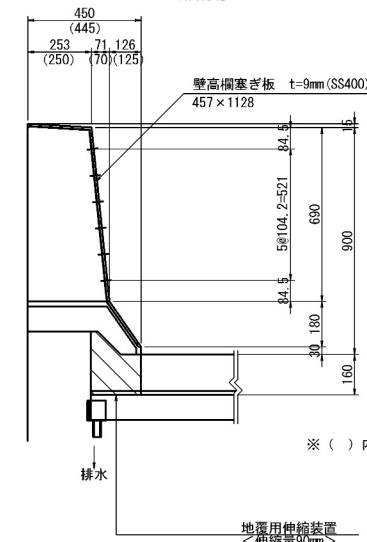
「路肩側」



断面図 1:30

上り線

「路肩側」



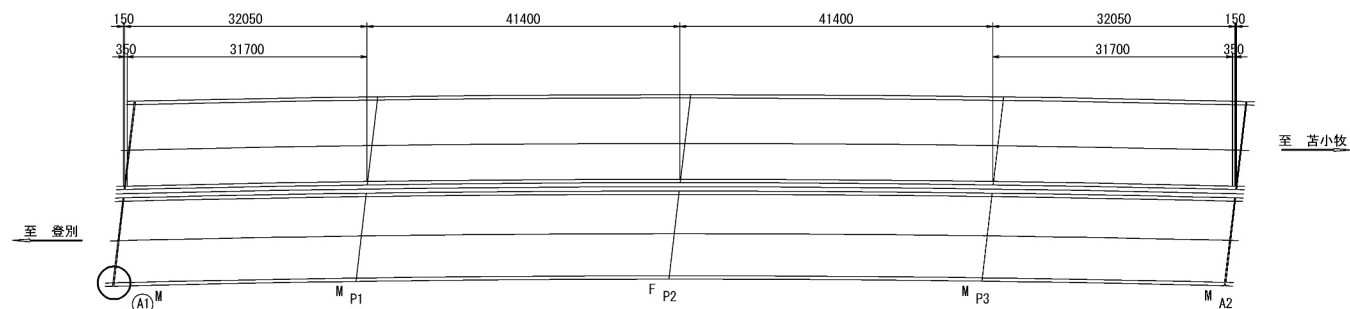
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A1橋台數量

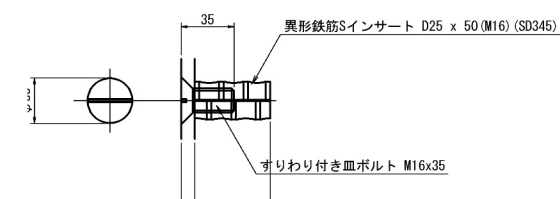
- ※ 1-PL 457 x 9 x 1128 (SS400)
 ※ 6-異形鉄筋Sインサート D25 x 50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35 (SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図

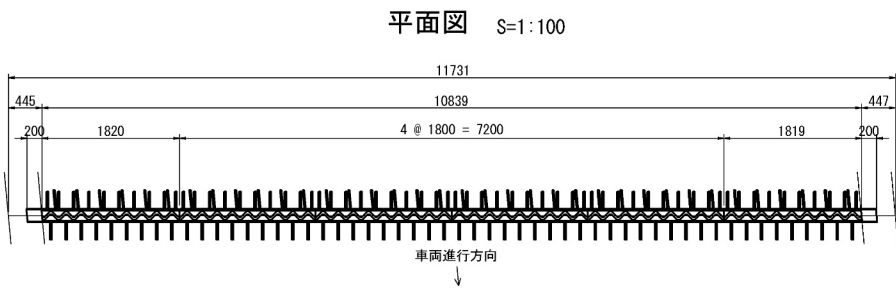
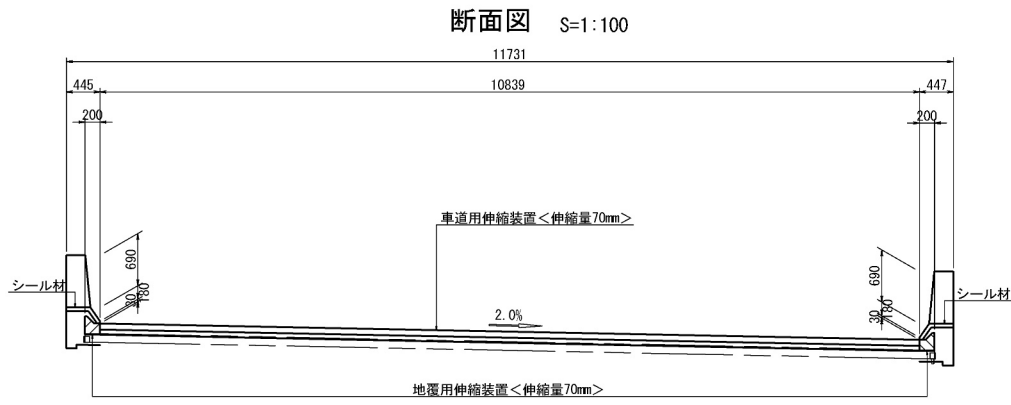


取付ボルト詳細 S=1:5

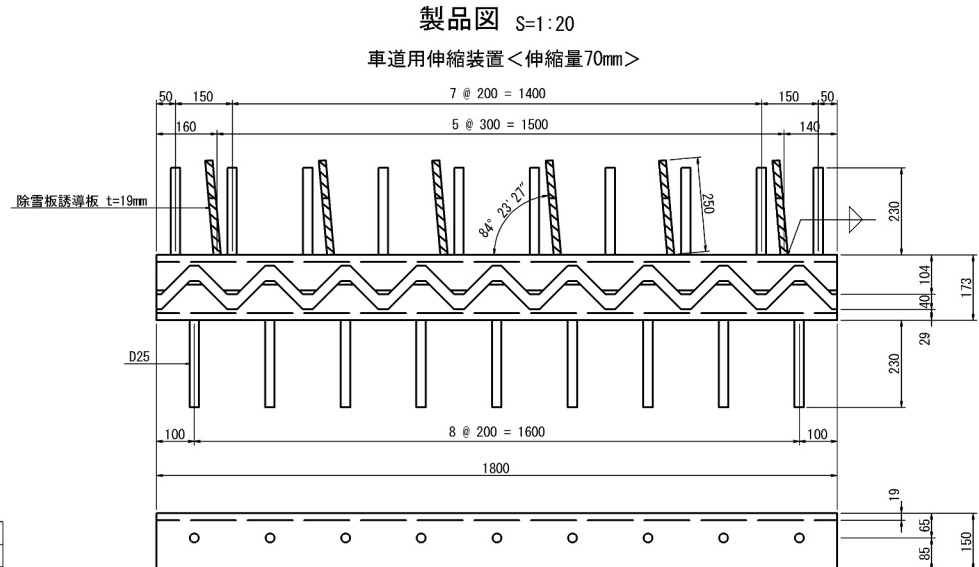


道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類		錦多峰川橋（上り線） 桁架設置詳細図（その2）	
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速度道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

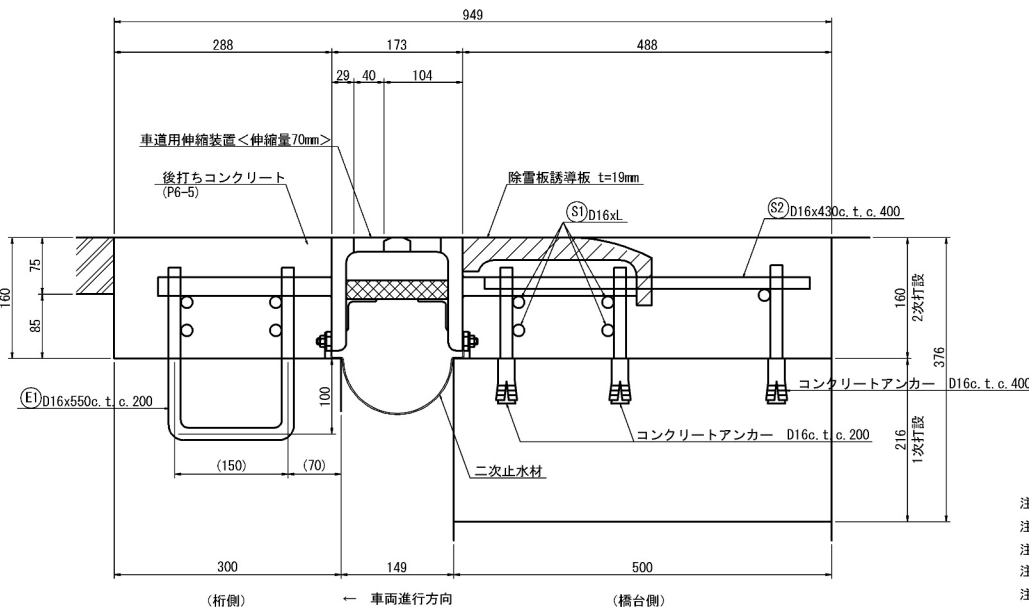
錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その3)
(A2橋台)



項目	単位	数量	備考
伸縮装置E (S=70mm)	m	10.839	



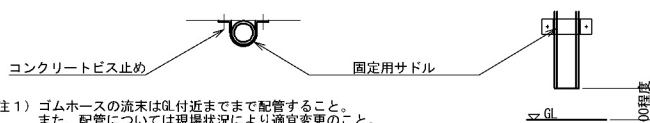
取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



二次止水材端部部材名称



繊維補強入ゴムホース（内径φ25）取付図

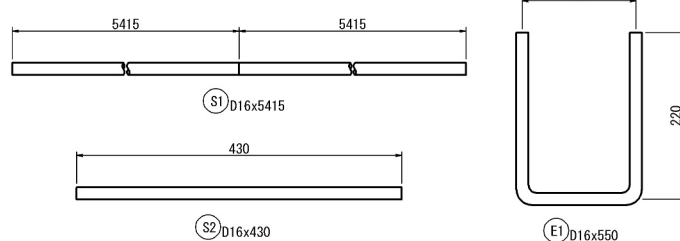


- 注1) ゴムホースの流末は流付近までで配管すること。
また、配管については現場状況により適宜変更のこと。
注2) 固定用サドルは橋台・橋脚にコンクリート用ビスで固定すること。
注3) 固定用サドルは3m程度に1箇所程度設置すること。

旧伸縮継手及び既設コンクリート

	A2
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート (σ _{ok} =24N/mm ²)

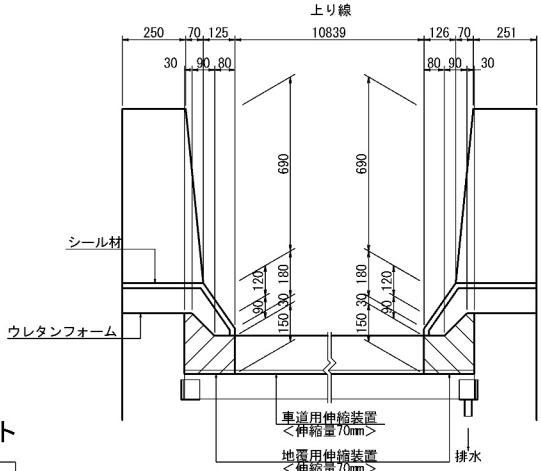
鉄筋加工図



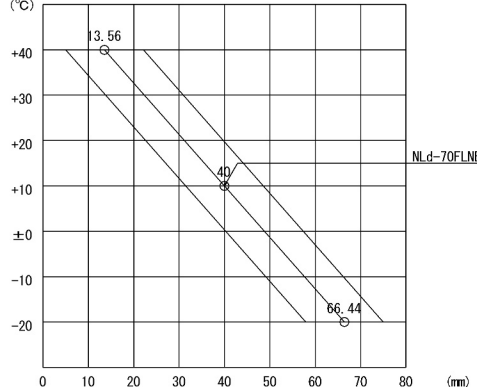
材料表

品名	仕様	単位	A2 上り線	備考
車道用伸縮装置	伸縮量70mm	m	10.839	車道部
地覆用伸縮装置	伸縮量70mm	m	0.400	地覆部
二次止水材	連続止水材本体取付型	m	11.239	
後打ちコンクリート	σ _{ok} =50N/mm ²	m ³	2.64	P6-5
シール材		L	3.4	
補強鉄筋	S1 D16x5415	kg	152.1	
	S2 D16x430	kg	18.1	27本
計		kg	170.2	
アンカー鉄筋	E1 D16x550	kg	46.3	54本
コンクリートアンカー	D16	本	135	

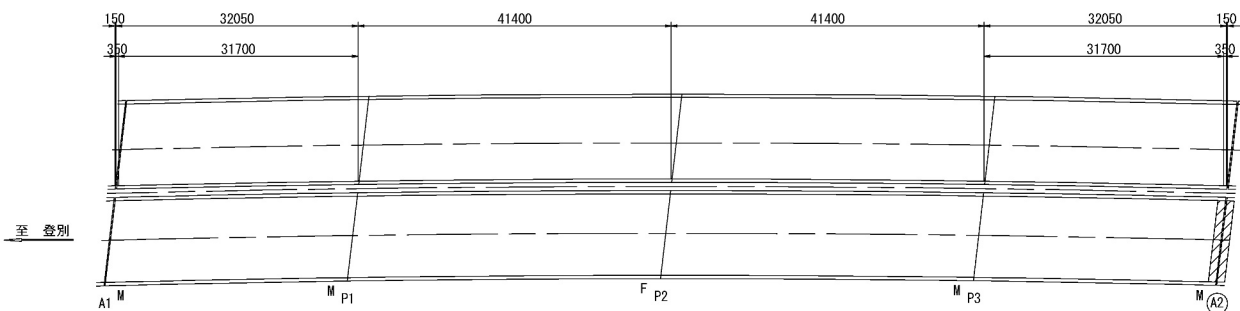
地覆部止水処理図 S=1:30



伸縮装置遊間設定表



位置図



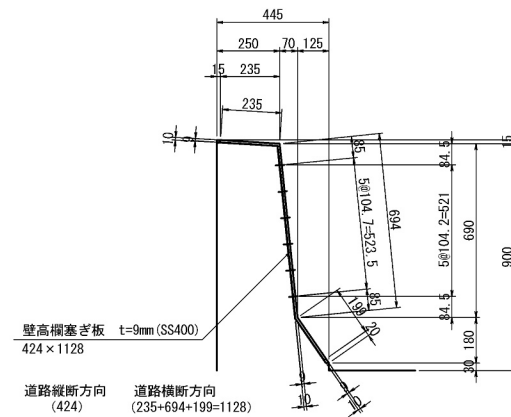
至 苫小牧

至 登別

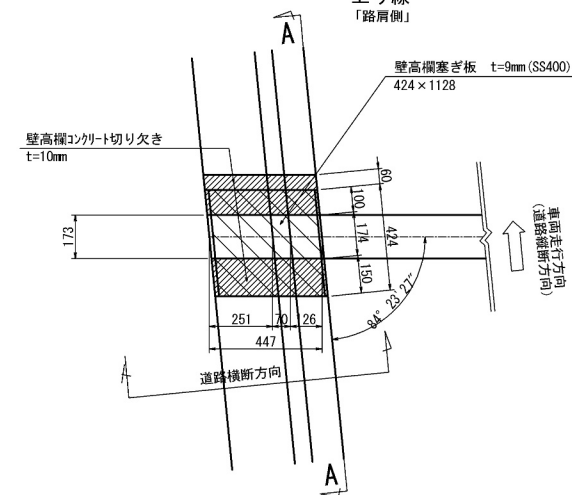
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その4)
(A2橋台 塞ぎ板)

道路横断方向～断面図



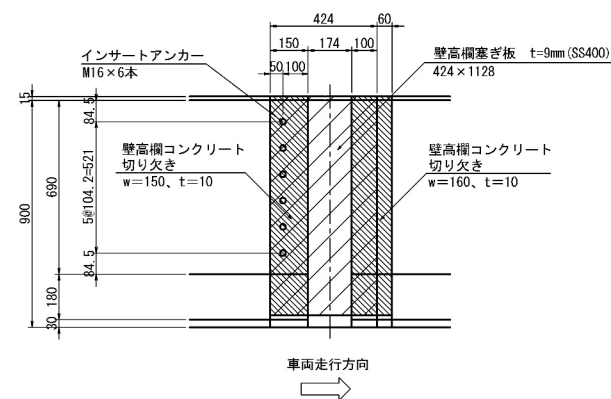
平面图 1:30



側面図 1:30

A-A

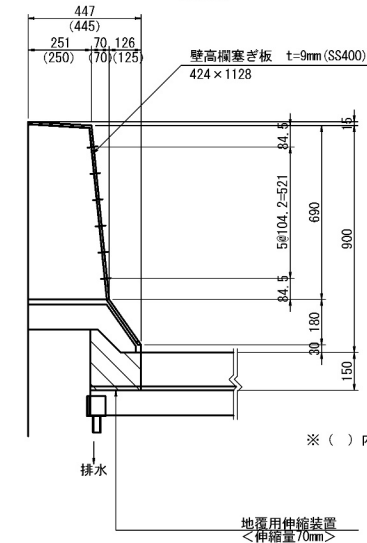
「路肩側」



断面図 1:30

上り線

「路肩側」



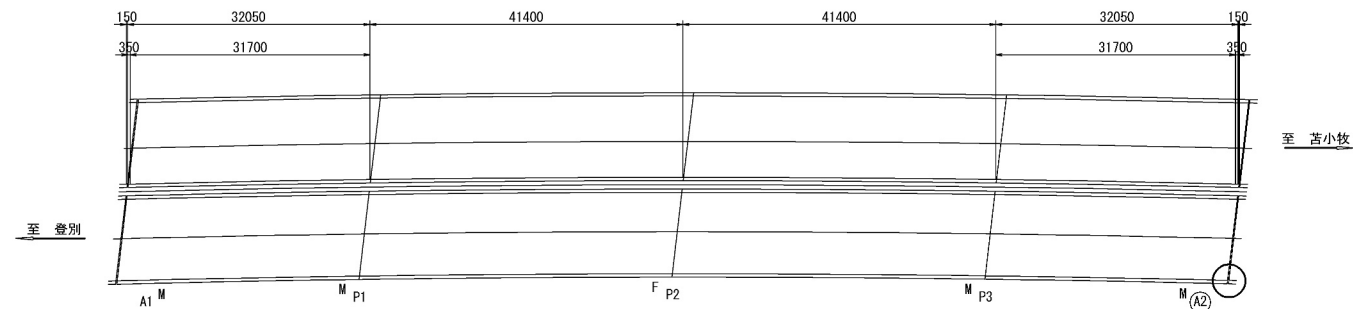
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A2橋台數量

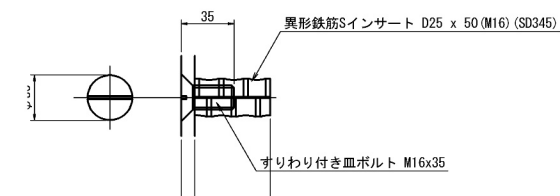
- ※ 1-PL 424 x 9 x 1128(SS400)
 ※ 6-異形鉄筋スインサート D25 x 50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35(SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、
鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図



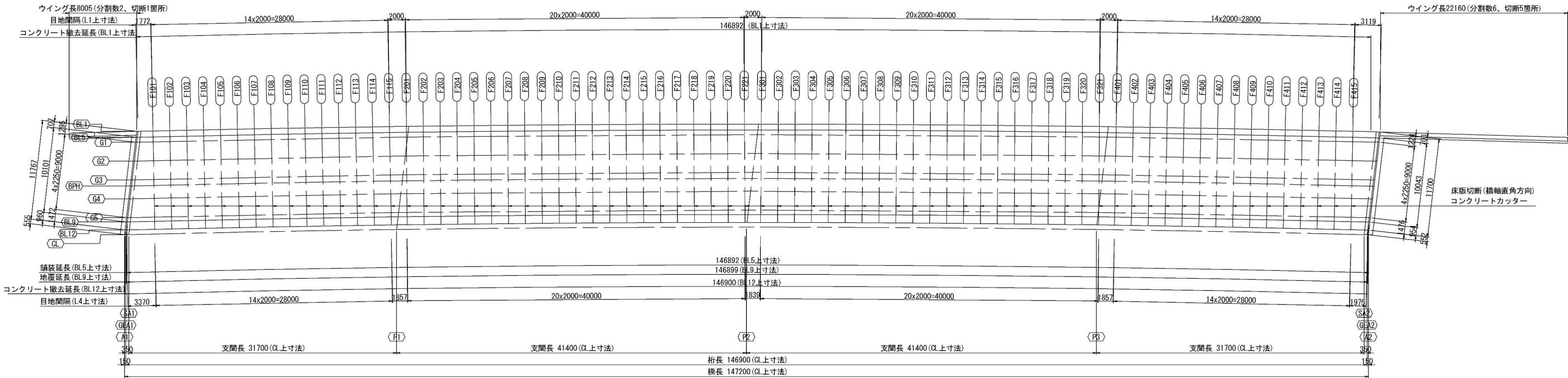
取付ボルト詳細 S=1:5



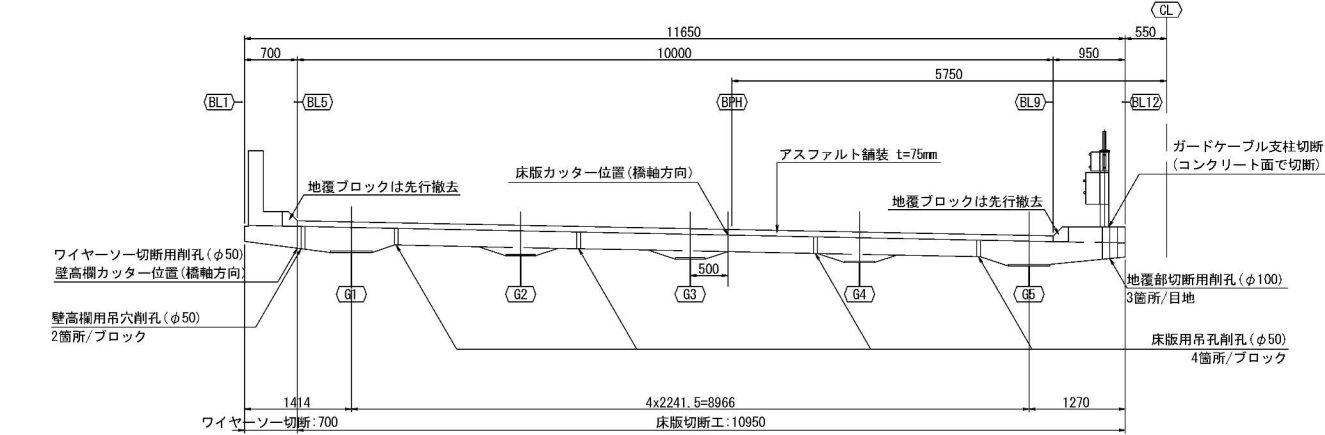
道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋（上り線） 伸縮装置詳細図（その４）		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地蔵川		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) 撤去概要図

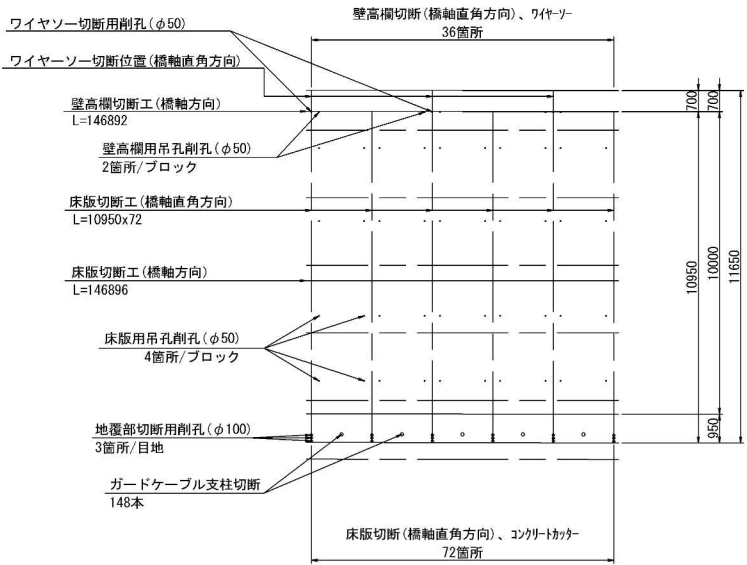
平面図 S=1:500



断面図 S=1:100



切断・削孔箇所 平面位置図 S=1:250



撤去数量

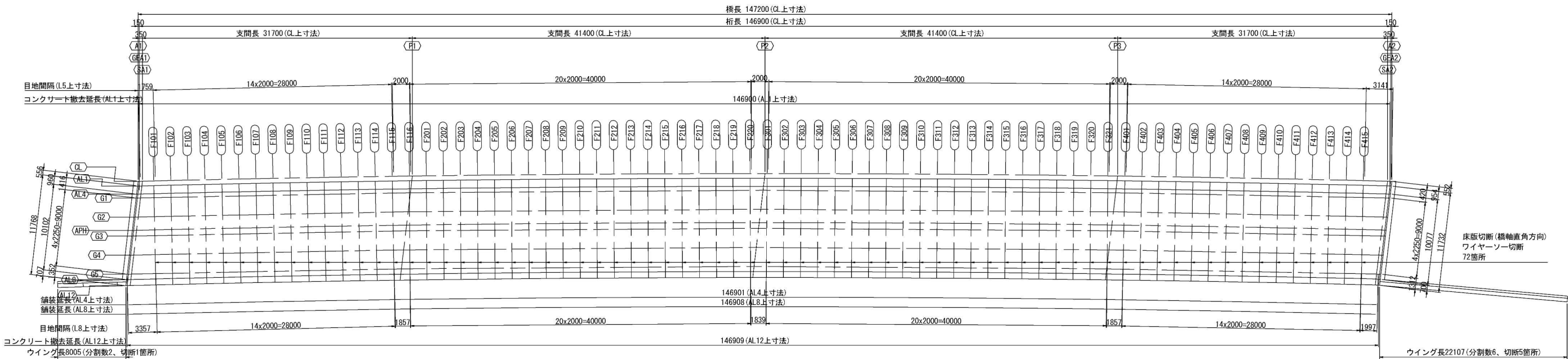
項目		単位		備考
アスファルト 舗装版取壊し	撤去面積	m2	1469.0	t=75mm
	撤去体積	m3	110.2	
	撤去質量	t	259.0	
床版切断工	橋軸方向	m	146.9	コンクリートカッター
	橋軸直角方向	〃	788.4	〃
壁高欄切断工(橋梁部)	橋軸方向	〃	146.9	〃
	橋軸直角方向	m2	15.1	ワイヤーソー
壁高欄切断工(ウイング部)	橋軸方向	〃	15.1	〃 水平方向、L=30.2m、B=0.5m
	橋軸直角方向	〃	1.43	〃
コンクリート 撤去工	床版部	撤去体積	m3	437.8
		撤去質量	t	1094.5
	地覆ブロック	撤去体積	m3	9.3
		撤去質量	t	23.3
	壁高欄部 (橋梁部)	撤去体積	m3	61.7
		撤去質量	t	154.3
	壁高欄部 (ウイング部)	撤去体積	m3	7.2
		撤去質量	t	18.0
	合計	撤去体積	m3	516.0
		撤去質量	t	1290.1
コンクリートコア 削孔工	床版	箇所	584	床版用吊孔削孔φ50
	地覆	〃	216	地覆部切断削孔φ100
	〃	〃	42	ワイヤーソー切断用削孔φ50
	壁高欄	〃	90	壁高欄用吊孔削孔φ50
ガードケーブル支柱切断		本	148	φ114mm、L=900mm

項目	単位	数量	備考
既設床版撤去工	床版A	m2	1469.0
	壁高欄A	m	177.1

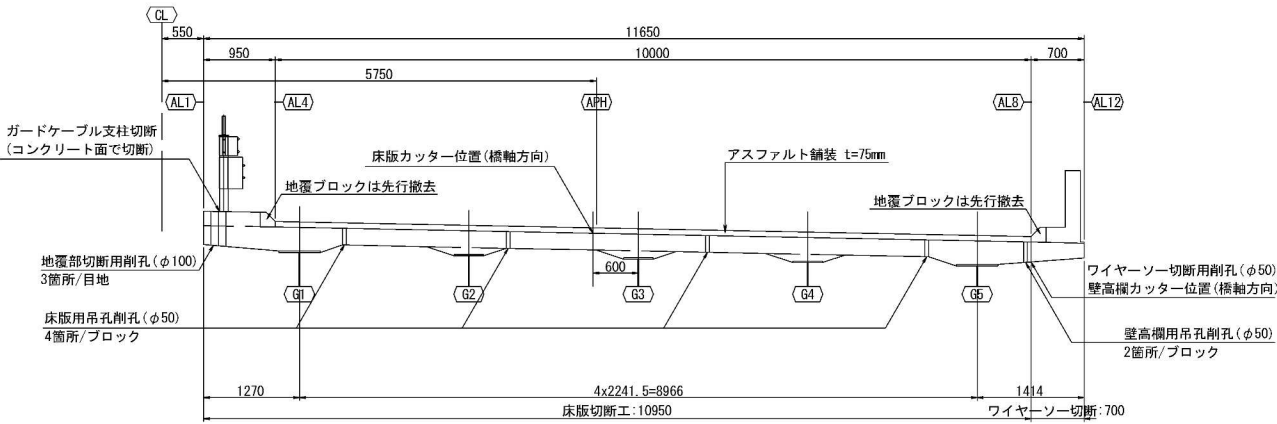
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 撤去概要図		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) 撤去概要図

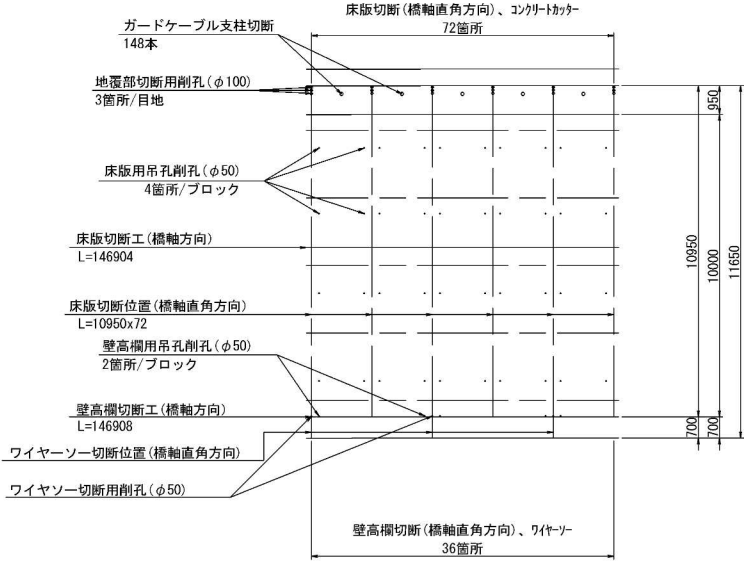
平面図 S=1:500



断面図 S=1:100



切断・削孔箇所 平面位置図 S=1:250



撤去数量

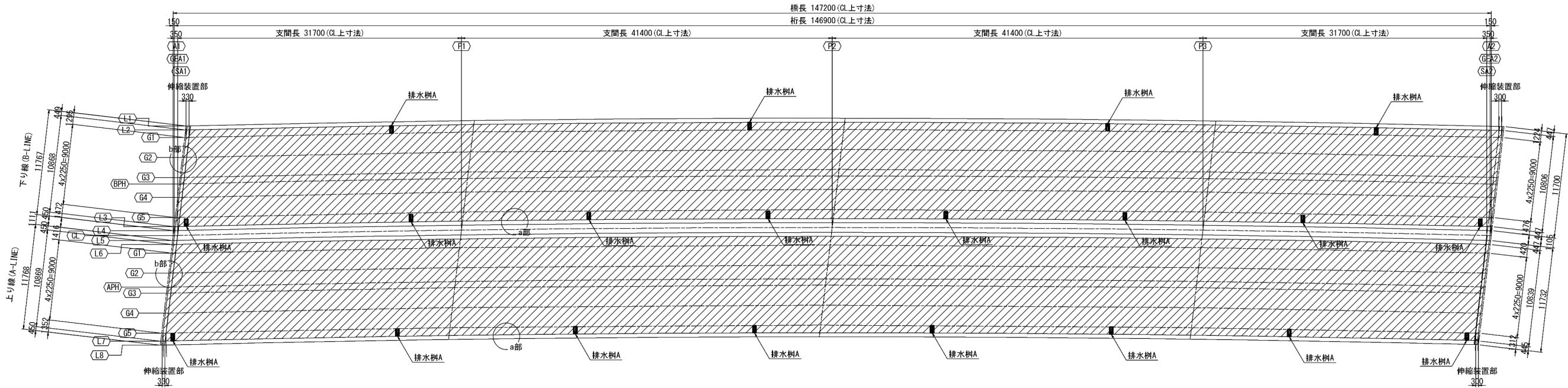
項目		単位		備考
アスファルト 舗装版取壊し	撤去面積	m2	1469.0	t=75mm
	撤去体積	m3	110.2	
	撤去質量	t	259.0	
床版切断工	橋軸方向	m	146.9	コンクリートカッター
	橋軸直角方向	〃	788.4	〃
壁高欄切断工 (橋梁部)	橋軸方向	〃	146.9	〃
	橋軸直角方向	m2	14.9	ワイヤーソー
壁高欄切断工 (ウイング部)	橋軸方向	〃	15.1	〃 水平方向、L=30.1m、B=0.5m
	橋軸直角方向	〃	1.43	〃
コンクリート 撤去工	床版部	撤去体積	m3	438.6
		撤去質量	t	1096.5
	地覆ブロック	撤去体積	m3	9.3
		撤去質量	t	23.3
	壁高欄部 (橋梁部)	撤去体積	m3	60.8
		撤去質量	t	152.0
	壁高欄部 (ウイング部)	撤去体積	m3	7.2
		撤去質量	t	18.0
	合計	撤去体積	m3	515.9
		撤去質量	t	1289.8
コンクリートコア 削孔工	床版	箇所	584	床版用吊孔削孔φ50
	地覆	〃	216	地覆部切断削孔φ100
	〃	〃	42	ワイヤーソー切断用削孔φ50
	壁高欄	〃	90	壁高欄用吊孔削孔φ50
ガードケーブル支柱切断		本	148	φ114mm、L=900mm

項目	単位	数量	備考
既設床版撤去工	床版A	m2	1469.0
	壁高欄A	m	177.0

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 撤去概要図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋 アスファルト舗装工・床版防水工詳細図

平面図 S=1:500



舗装面積(下り線)

項目	数量	備考
有効面積	1580.6	
控除面積	3.9	排水樹12箇所 0.328㎡/箇所
	6.8	伸縮装置部 A1 3.586㎡ A2 3.242㎡
舗装面積	1569.9	

数量表(下り線)

項目	単位	数量	備考
アスファルト舗装工	㎡	1569.9	t=4.0cm
	㎡	1569.9	t=4.0cm
床版防水工	㎡	1569.9	

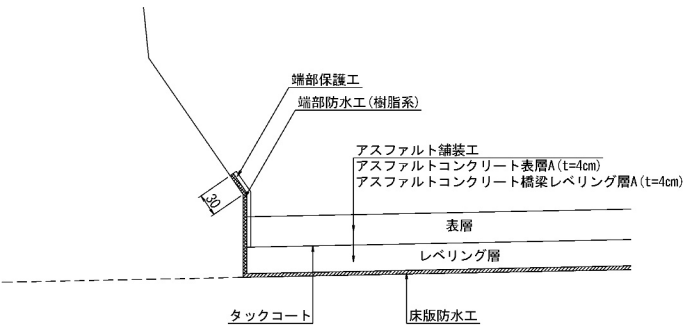
舗装面積(上り線)

項目	数量	備考
有効面積	1580.7	
控除面積	2.6	排水樹8箇所 0.328㎡/箇所
	6.8	伸縮装置部 A1 3.587㎡ A2 3.252㎡
舗装面積	1571.3	

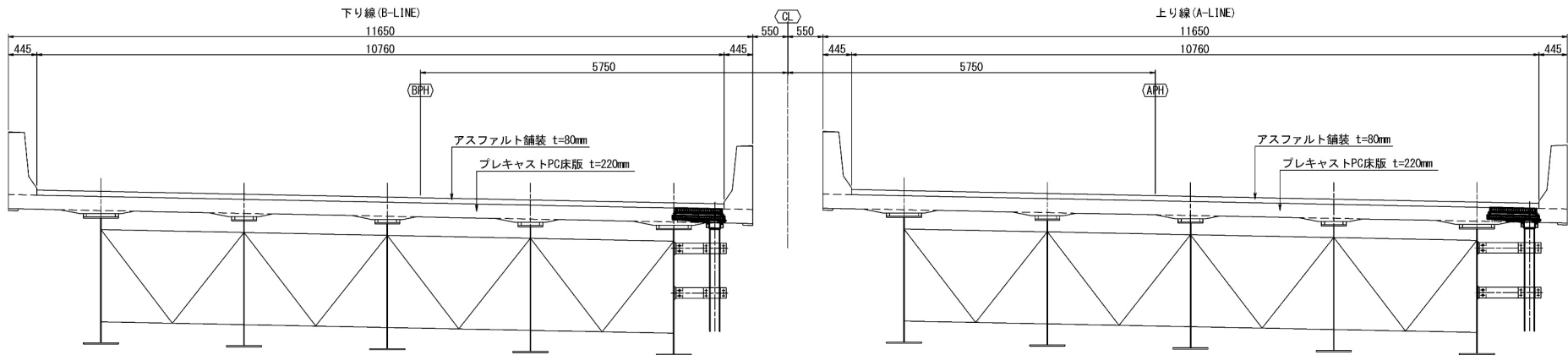
数量表(上り線)

項目	単位	数量	備考
アスファルト舗装工	㎡	1571.3	t=4.0cm
	㎡	1571.3	t=4.0cm
床版防水工	㎡	1571.3	

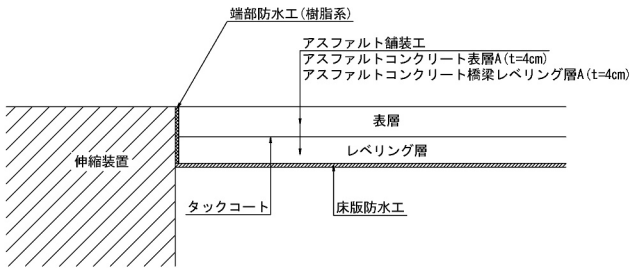
“a”部詳細図 S=1:10



標準断面図 S=1:100

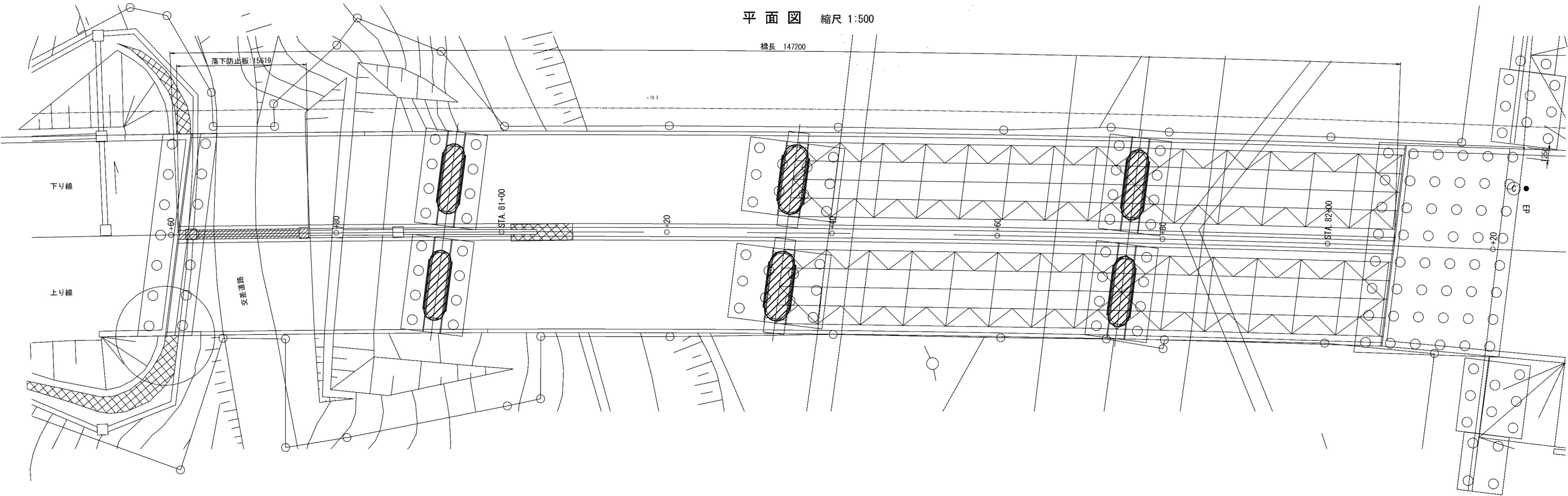


“b”部詳細図 S=1:10



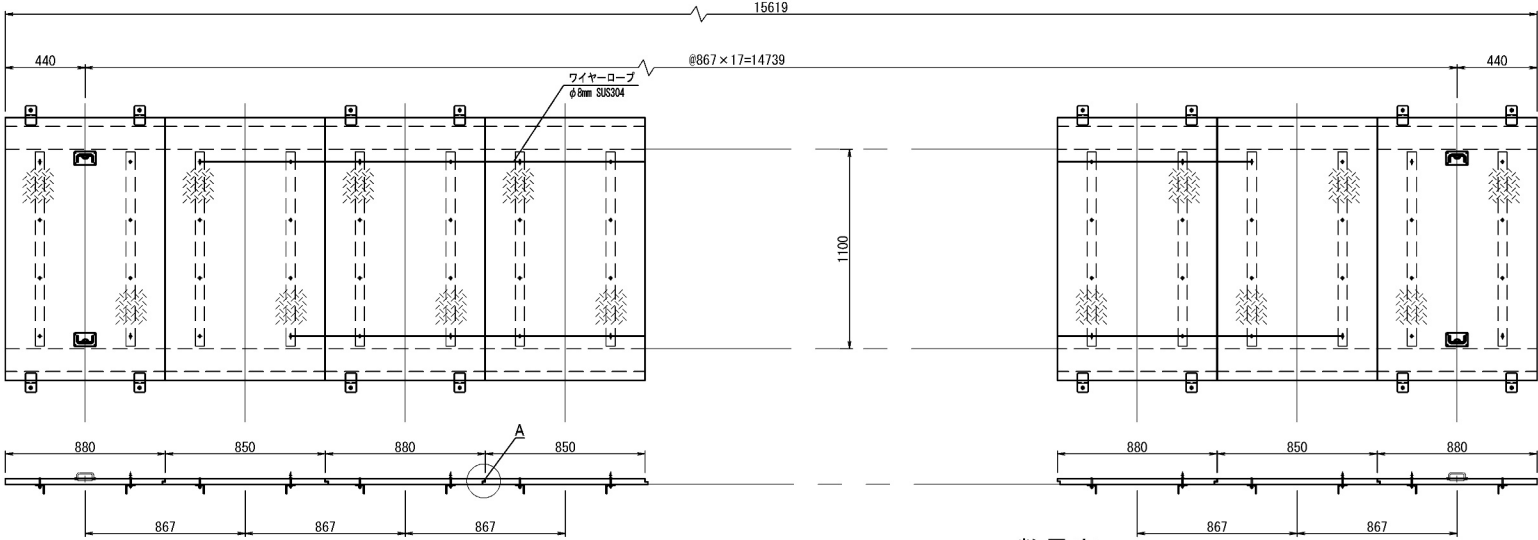
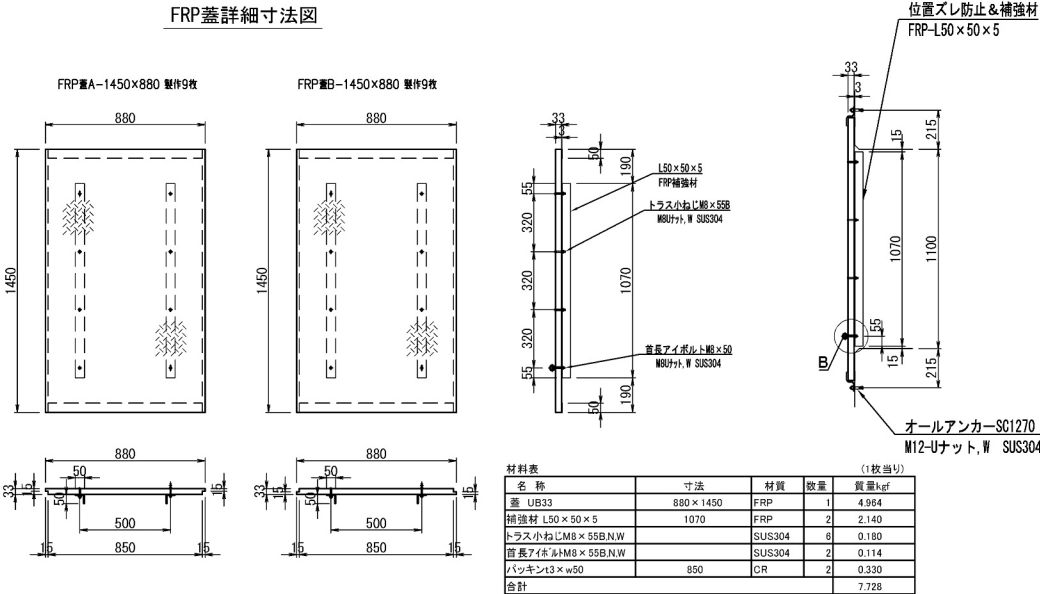
※
1. アスファルト舗装工の継ぎ目は、表層とレベリング層で10cmずらして施工すること。
2. アスファルト舗装工の施工継ぎ目は、わだち位置にならないよう施工すること。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 アスファルト舗装工・床版防水工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



全体配置図
S=1:40

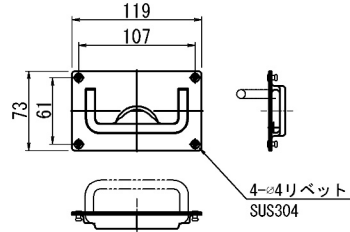
FRP蓋詳細寸法図



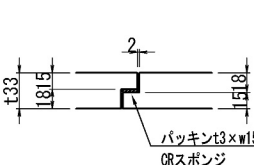
数量表

項目	単位	数量	備考
中央分離帯転落防止板	m ²	22.6	

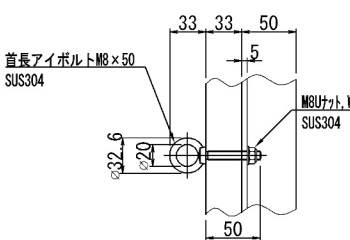
平面取手詳細図
S=1:10



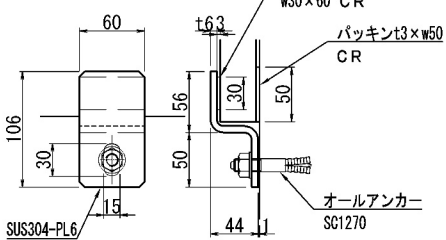
A部詳細
S=1:10



B部詳細
S=1:10



飛散防止金具詳細図
S=1:10



品 名	質量kg/枚	数 量	合計質量kg
飛散防止金具PL6	0.390	36	14.04
CRパッキンt3×30×60	0.007	36	0.252
オールアンカーSC1270	0.075	36	2.700
M12-Uナット	0.017	36	0.612
合計			17.604

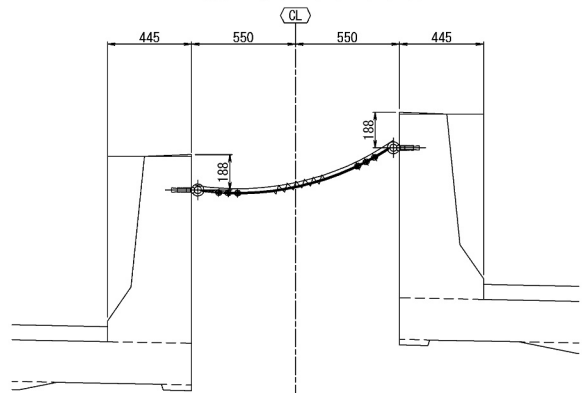
品 名	質量kg/枚	数 量	合計質量kg
平面取手	0.246	8	1.968

品 名	質量kg	数 量	合計質量kg
φ8mm ワイヤロープ	0.188	28	5.554
φ8mm ワイヤークリップ	0.017	24	0.578
SUS 首長アイボルト M8×50 N-W付	0.057	36	2.052
合計			8.184

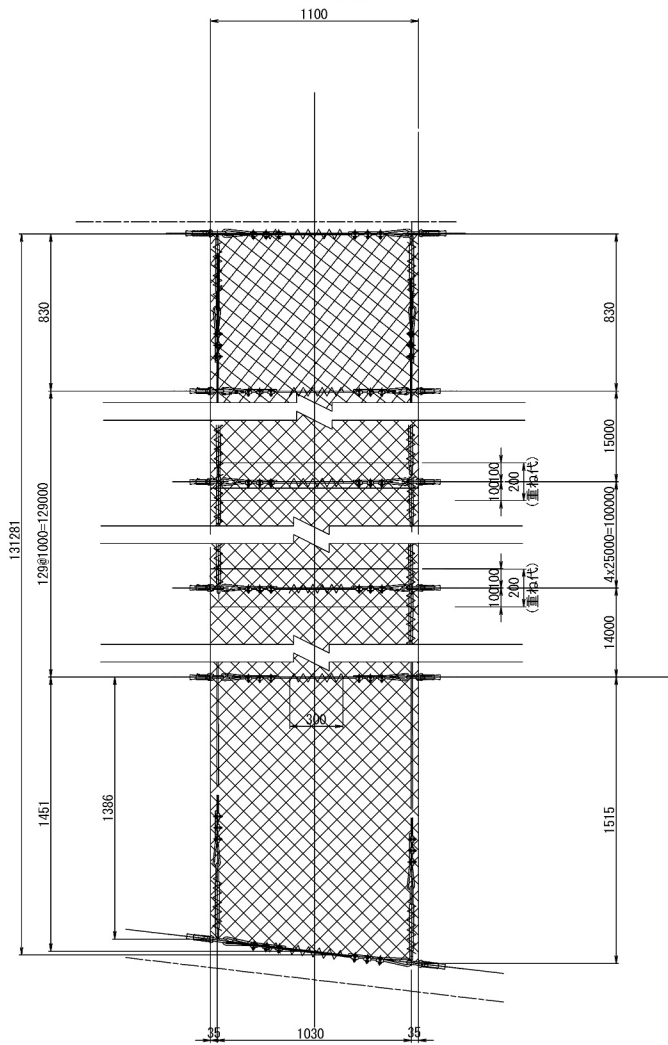
※蓋には、7枚目又は10枚目ごとに平面取手を設置すること。
※蓋の材質はFRP製とし、全面ふっ素塗装仕上げとすること。(色:N7)
※ワイヤーロープは、取手付の蓋には適さないこと。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 中央分離帯転落防止板工図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

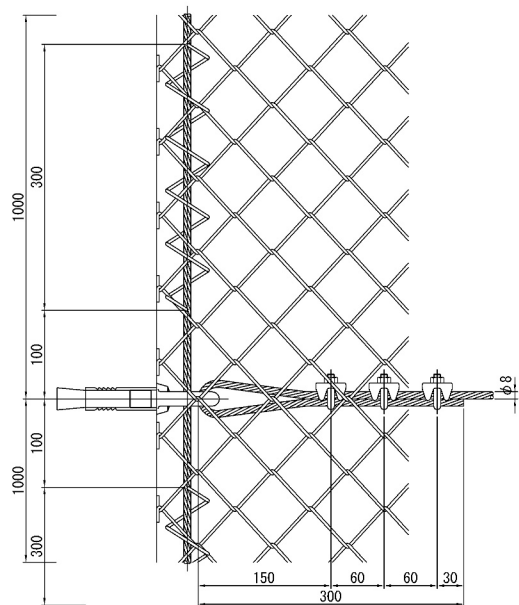
断面図 S=1:40



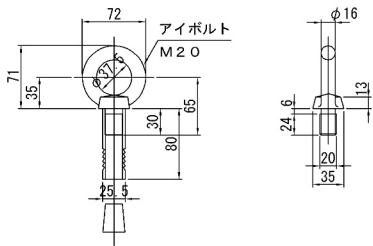
平面図 S=1:40



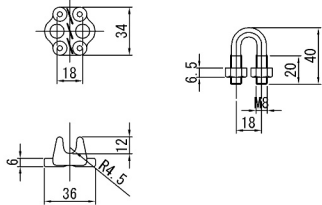
金網およびワイヤーロープ取付詳細図 S=1:8



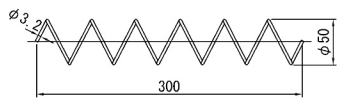
アンカーボルト S=1:8



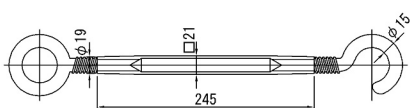
ワイヤークリップ S=1:5



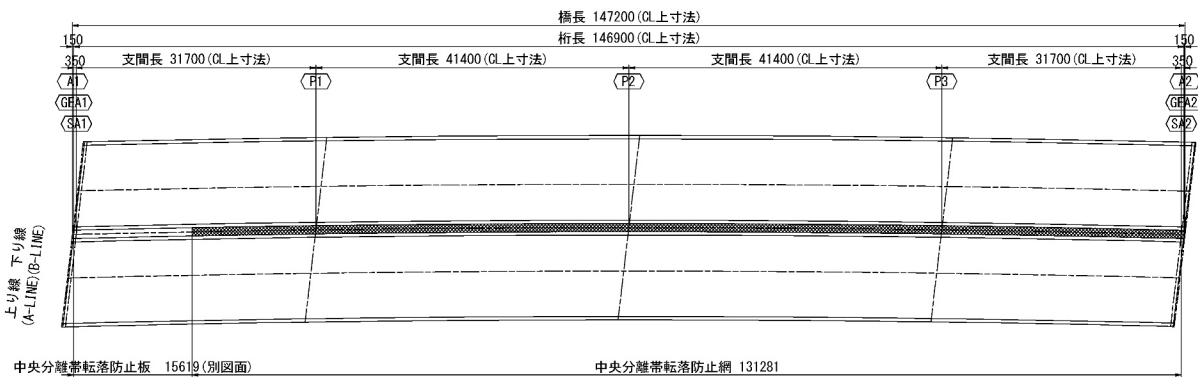
結合コイル S=1:8



ターンバックル S=1:8



配置図 S=1:1000



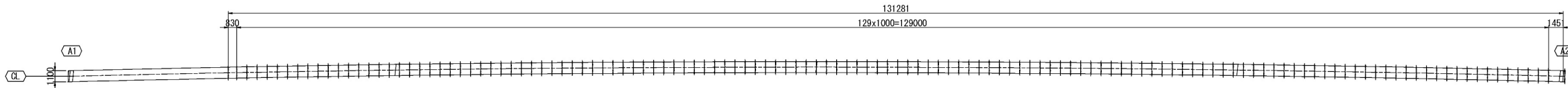
材料表

名称	寸法	摘要
ひし形金網	φ3.2mm×56mm	JIS G 3562 JIS G 3537 (亜鉛メッキ鉄線 4種)
ワイヤーロープ	φ8mm	JIS G 3525 (普通Zより亜鉛メッキ4号ロープ)
結合コイル	φ3.2mm×50mm ×250mm	JIS G 3537 (亜鉛メッキ鉄線 4種)
ワイヤークリップ	FOR φ8mm	
ターンバックル	φ15mm	
アンカーボルト	φ19mm	JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材第二種)

数量表

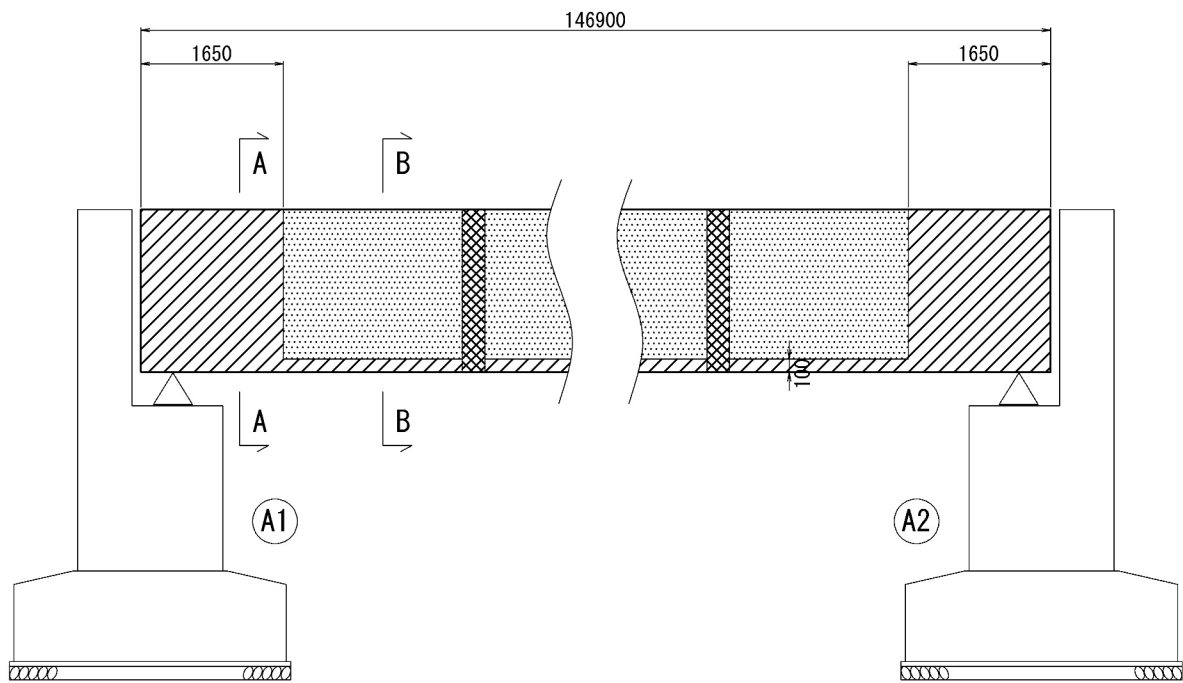
項目	単位	数量	備考
中央分離帯転落防止網	m ²	144.4	

割付図 S=1:500



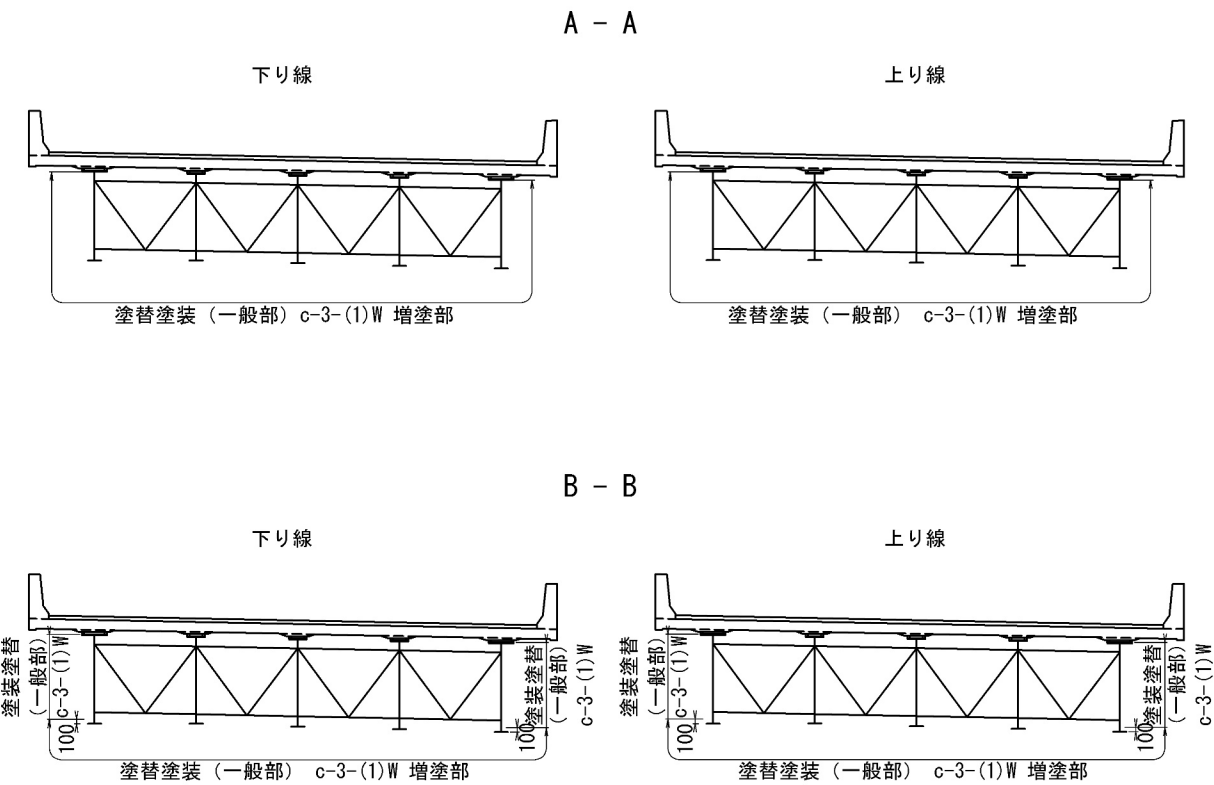
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 中央分離帯落下防止網工図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

側面図



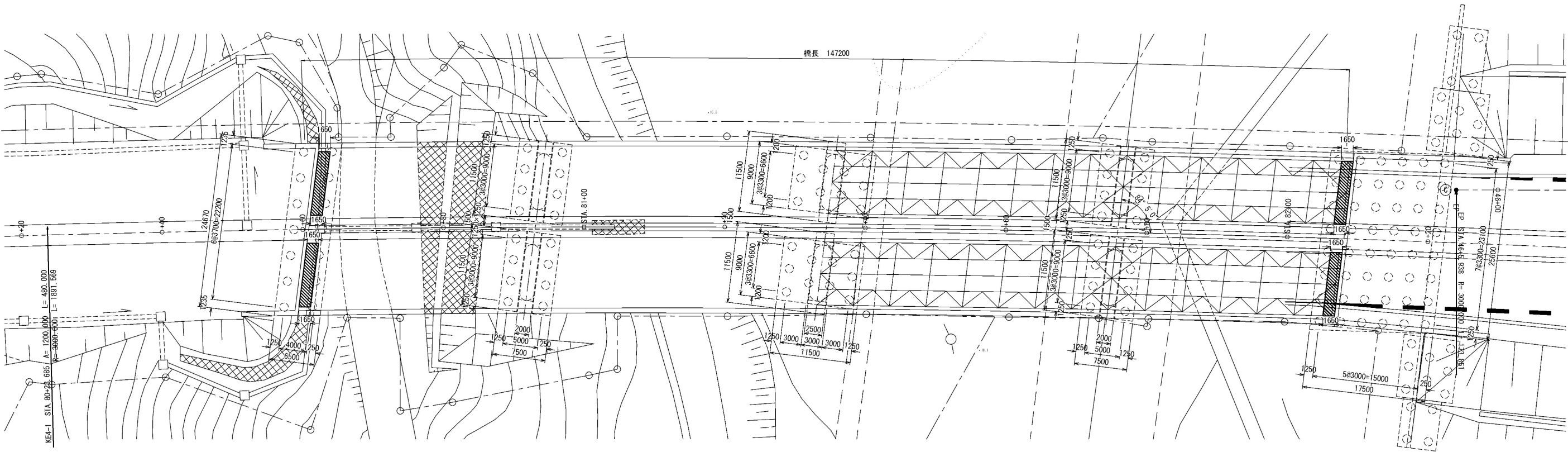
- 斜線: 塗替塗装(一般部) c-3-(1)W
※増塗部
- 点線: 塗替塗装(一般部) c-3-(1)W
- 格子線: 塗替塗装(特殊部) g-3-(1)W
※添接部

断面図



道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
	塗替塗装 種別詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

平面図 縮尺 1:600



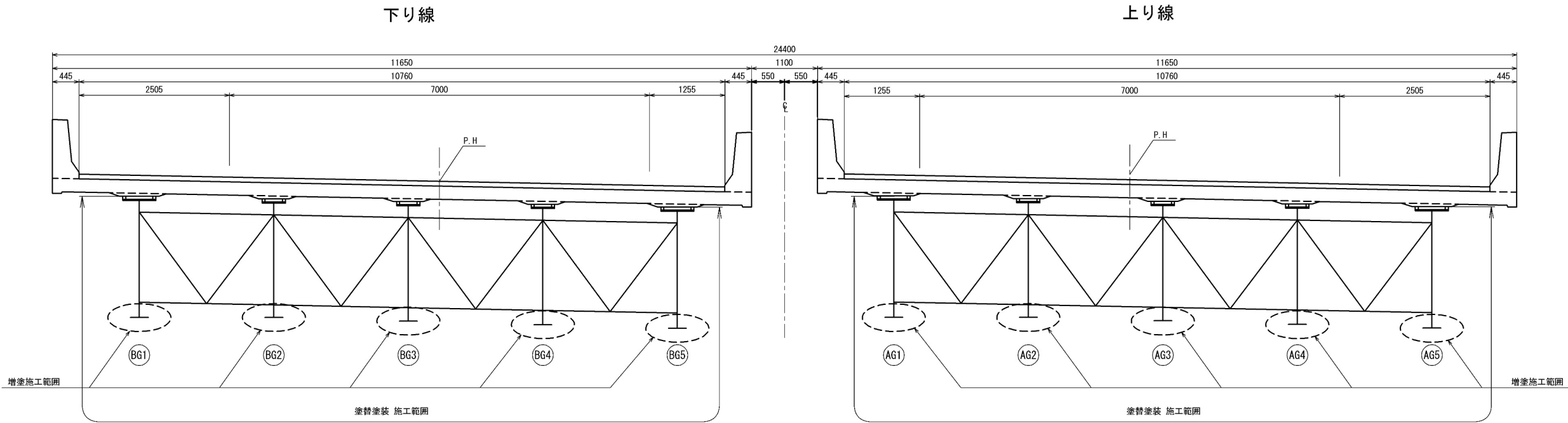
▨ : 増塗施工範囲

数量表 (A1~A2)

項目			単位	数量		備考
				上り線	下り線	
塗替塗装	一般部	c-3-(I)W	m ²	4816.9	4818.2	
	特殊部	g-3-(I)W	m ²	348.2	348.2	
	曲面加工	(R面取り)	m	5876.0	5876.0	

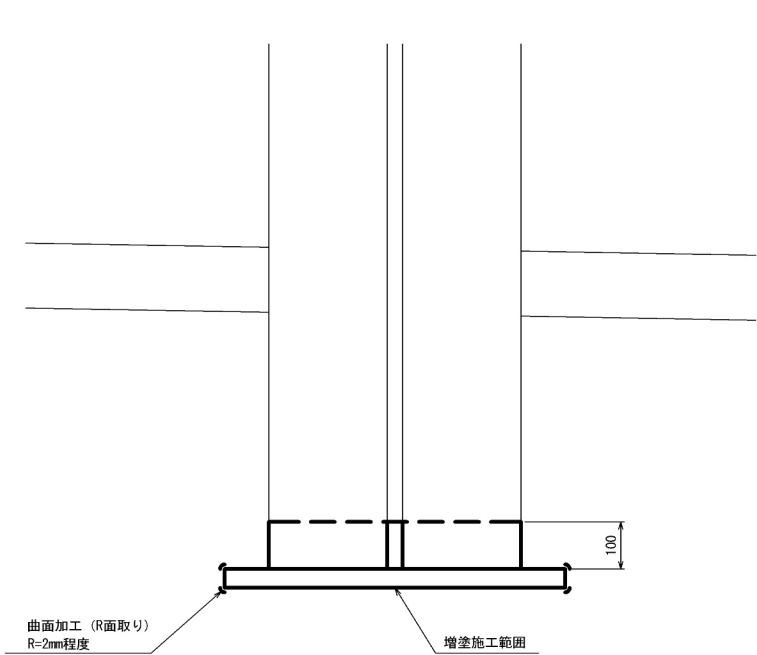
※対象範囲内の部材（主桁・横桁・対傾構等）は、すべて増塗とする。ただし、特殊部は除く。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
	塗替塗装	増塗・桁端部詳細図	
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

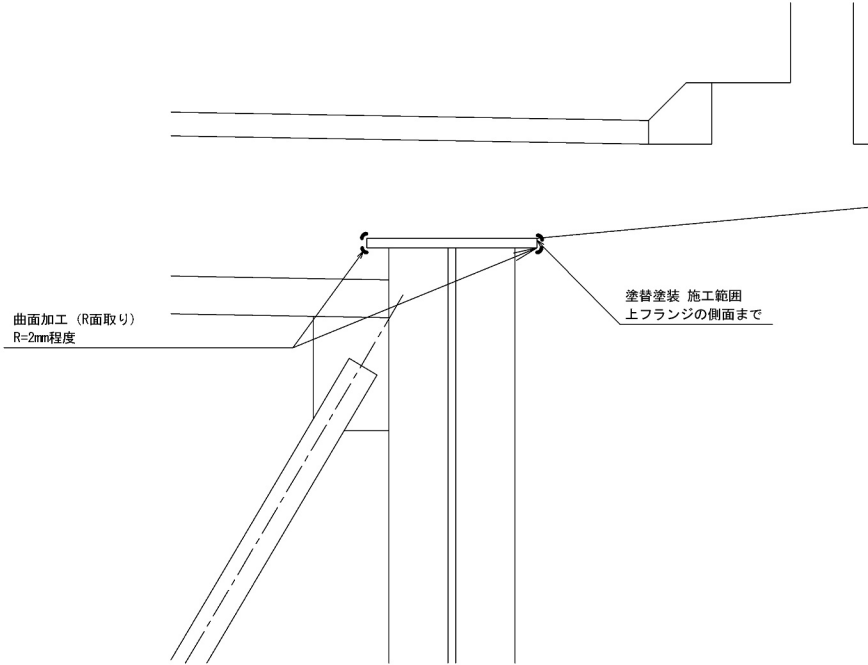


※増塗、曲面加工（R面取り）について
・下フランジと接するウェブの立ち上がり部分10cm及び桁端部については、塗替塗装系の最終下塗り層を1層増塗することとする。
・主桁の下フランジ角部には、曲面加工（R面取り）を行うこととする。
・主桁の上フランジ角部には、曲面加工（R面取り）を行うこととする。
・増塗の下フランジ範囲は、上面・下面・小口とする。ただし、添接部は除く。

下フランジ増塗部、曲面加工部 詳細図

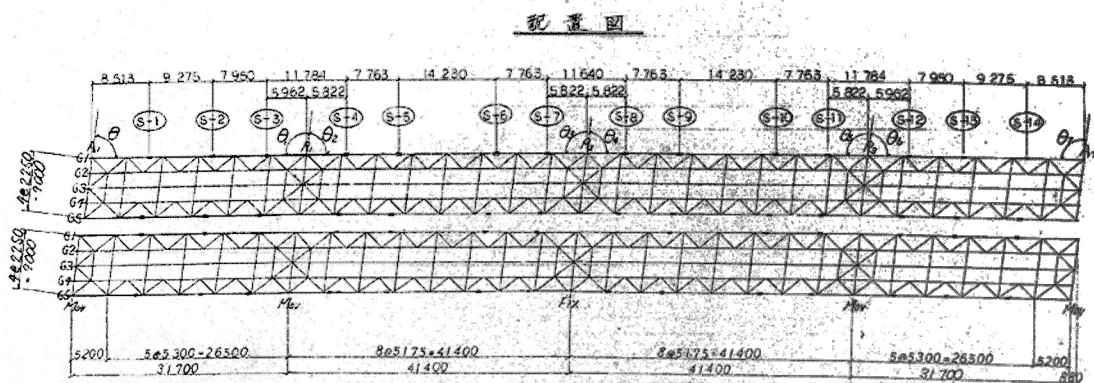
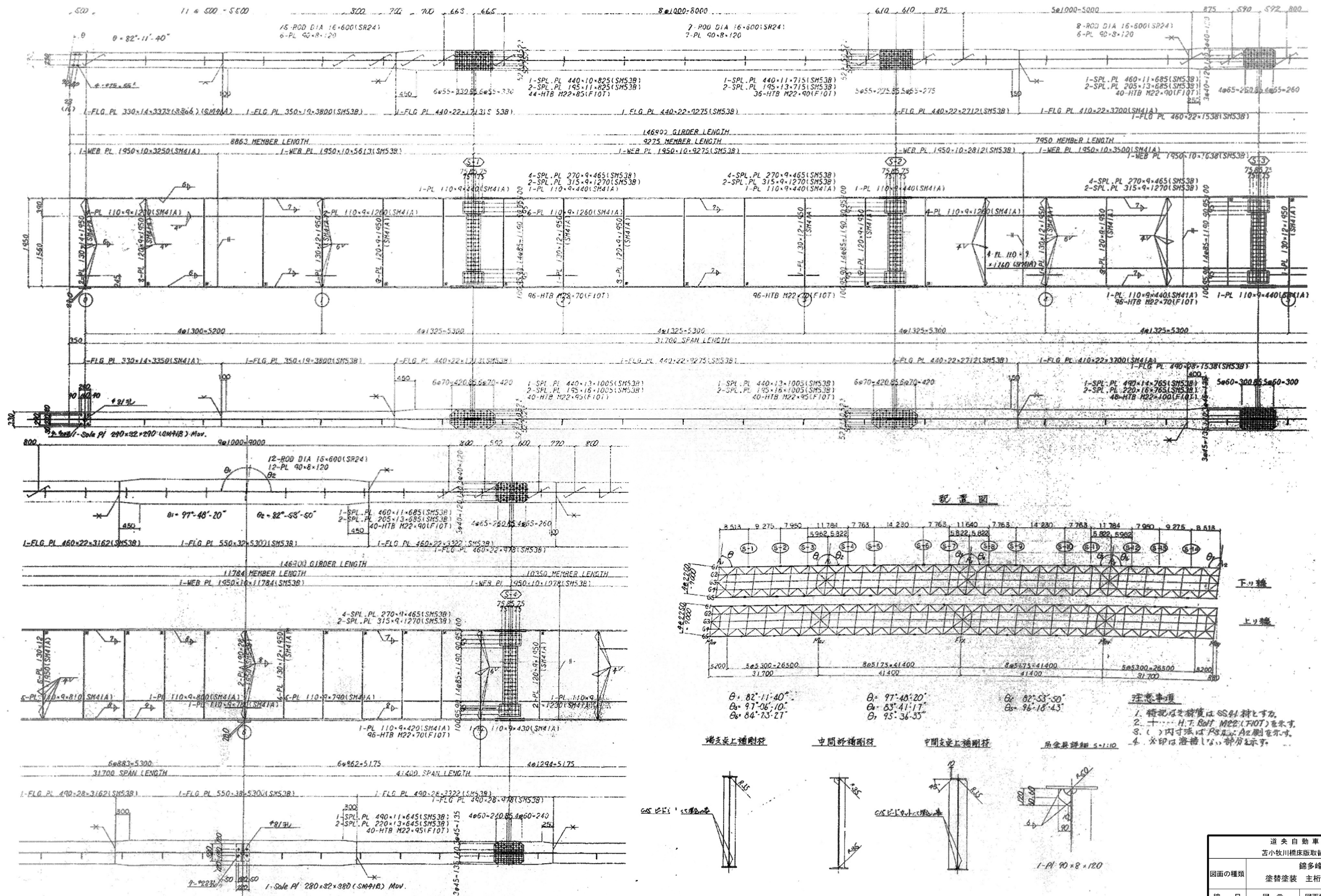


上フランジ部、塗替塗装部 詳細図



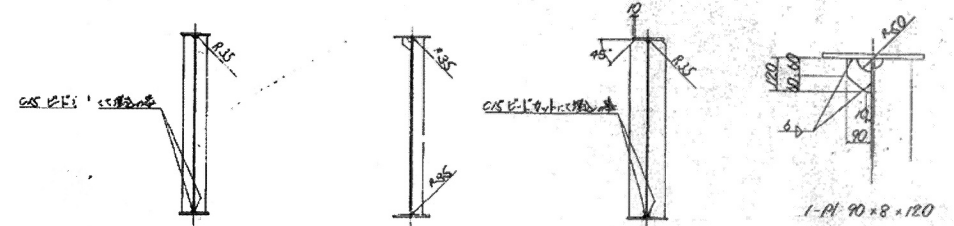
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
	塗替塗装 標準横断図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

主桁 G1.5 (1/2) S=1:30



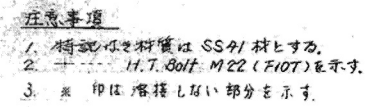
θ = 82° 11' 40" θ = 97° 46' 20" θ = 82° 53' 50" θ = 97° 06' 10" θ = 84° 23' 27" θ = 83° 41' 17" θ = 95° 36' 35" θ = 96° 18' 43"

端支上補剛材 中間部補剛材 中間支上補剛材 角金具詳細 S=1:10



注意事項
1. 特記の支保はSS材とする。
2. 十……H.T. Bolt M22(F10T)を示す。
3. ()内寸法はRSJに示す。
4. *印は溶接しない部分を示す。

道央自動車道	吉小牧川橋床版取替工事
図面の種類	錦多峰川橋
縮尺	図示 図面番号
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社
事務所名	北広島管理事務所

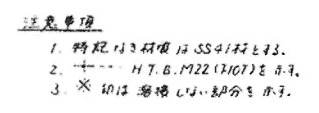


道央自動車道 苫小牧川橋仮設取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 塗替塗装 主桁 G1.65 (2/2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



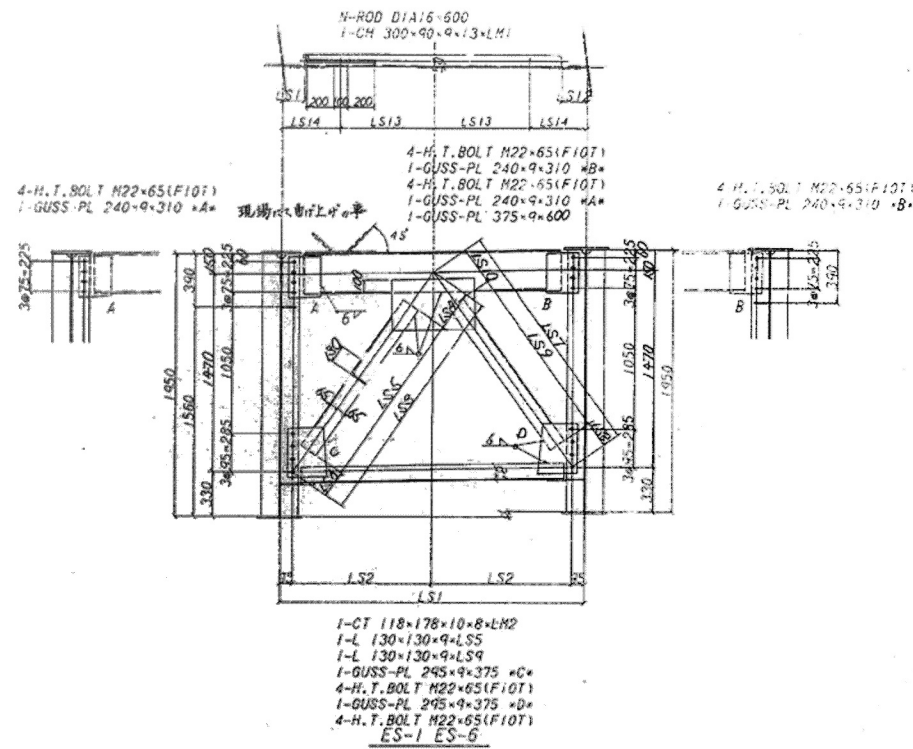
1. 待記分主程等時ハ75391778F2
2. + H.T.B M22(FJOT) 王来す。
3. () 内寸法は P8及 A2個に示す。
4. * 印刷内容に(裏)部分を示す。

道 央 自 動 車 道		
吉小牧川橋床設置工事		
図面の種類	錦多峰川橋	
	塗装塗装 主桁 G2, G3, G4 (1/2)	
縮 尺	図 示	図面番号
		／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所	

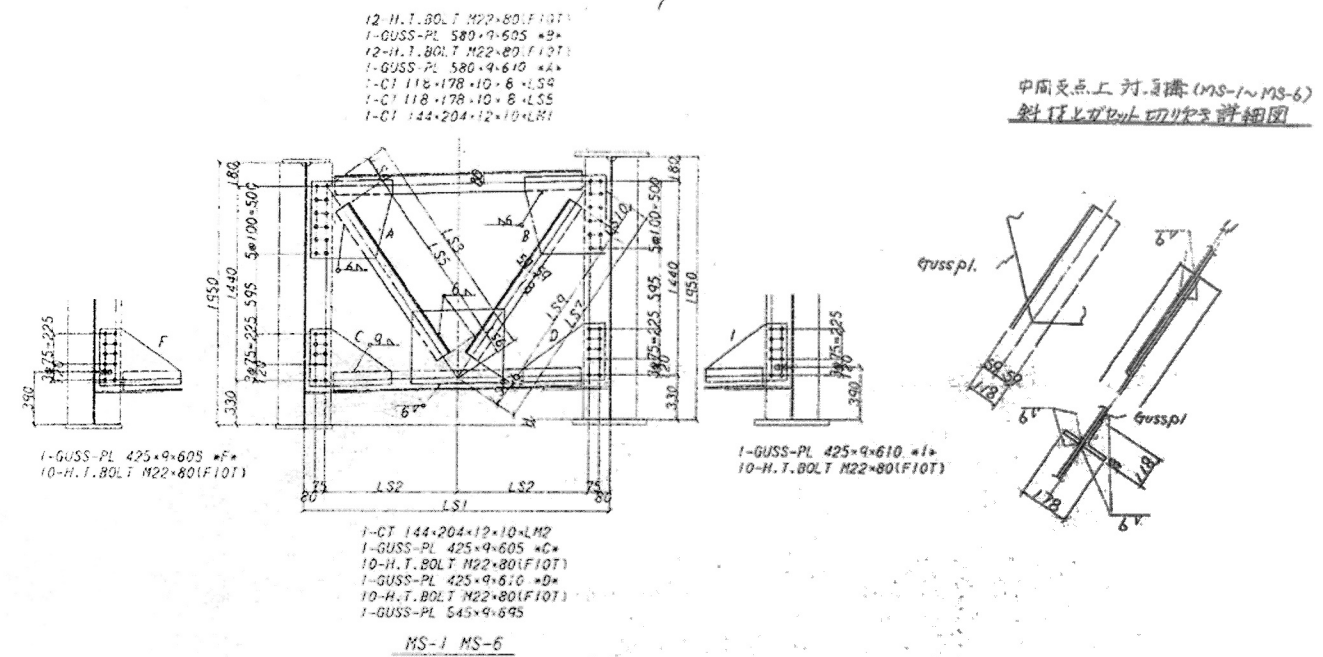


道 央 自 動 車 道		
苫小牧川橋床施設舗工工事		
図面の種類	鎗多峰川橋	
	塗装塗装 主桁 G2, G3, G4 (2/2)	
縮 尺	図 示	図面番号 /
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所	

端・中間支点上対傾構 上り線 S-1.20

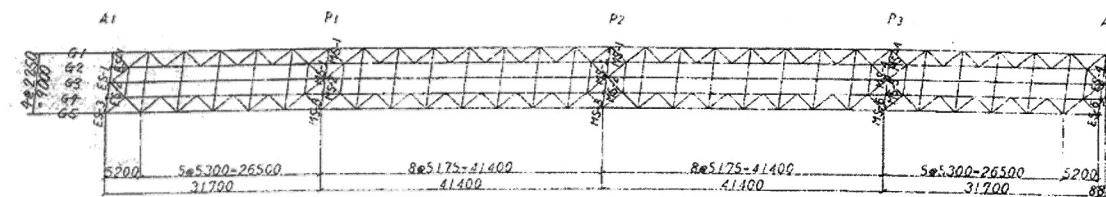


	ES-1	ES-2	ES-3	ES-4	ES-5	ES-6
LS1	2250	2250	2250	2250	2250	2250
LS2	1030	1030	1030	1030	1030	1030
LS3	1811	1811	1811	1778	1778	1778
LS4	291	291	291	278	278	278
LS5	1320	1320	1320	1300	1300	1300
LS6	200	200	200	200	200	200
LS7	1779	1779	1779	1812	1812	1812
LS8	200	200	200	200	200	200
LS9	1300	1300	1300	1320	1320	1320
LS10	279	279	279	292	292	292
LS11	165	165	165	165	165	165
LS12	185	185	185	165	165	185
LS13	700	700	700	700	700	700
LS14	425	425	425	425	425	425
H	38	38	38	-41	-41	-41
LM1	1912	1932	1912	1909	1929	1909
LM2	1940	1940	1940	1940	1940	1940
N	3	3	3	3	3	3
GUSS MARK	A B A B A B A B A B A B	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D



	MS-1	MS-2	MS-3	MS-4	MS-5	MS-6
LS1	2250	2250	2250	2250	2250	2250
LS2	970	970	970	970	970	970
LS3	1720	1720	1720	1753	1753	1753
LS4	135	135	135	205	205	205
LS5	1340	1340	1340	1360	1360	1360
LS6	185	185	185	188	188	188
LS7	1752	1752	1752	1719	1719	1719
LS8	187	187	187	189	189	189
LS9	1360	1360	1360	1340	1340	1340
LS10	205	205	205	190	190	190
H	39	39	39	-41	-41	-41
LM1	1820	1820	1820	1820	1820	1820
LM2	1820	1820	1820	1820	1820	1820
GUSS MARK	A B A B A B A B A B A B	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D	C D C D C D C D C D C D C D

配筋図



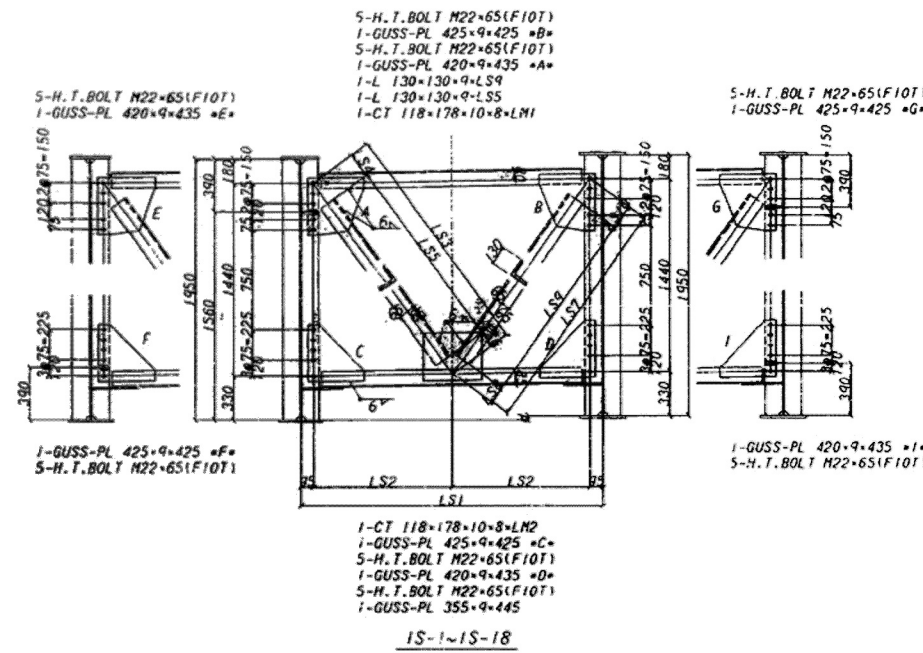
- 注意事項
1. GUSS, PL は SM41A 種とする
 2. 上下弦材は斜材材は SS41 とする
 3. --- H.T.B. M22-(F10T) とする

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 端・中間支点上対傾構 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

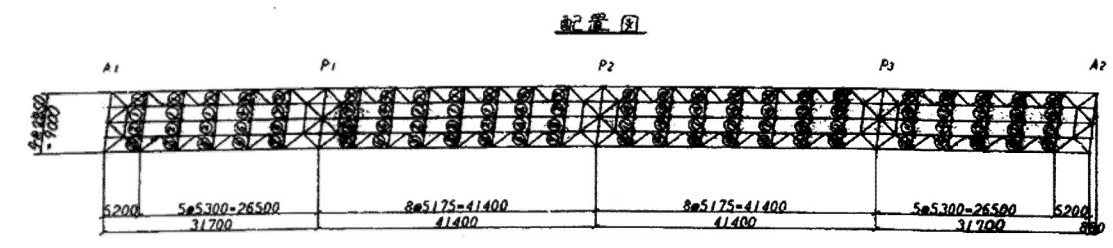
道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版代替工事			
図面の種類	鎗多峰川橋 中間対傾橋（上り線）		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

道 央 自 動 車 道			
吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 端・中間支点上対傾構（下り線）		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

中間対傾構 下り線 S=1:20



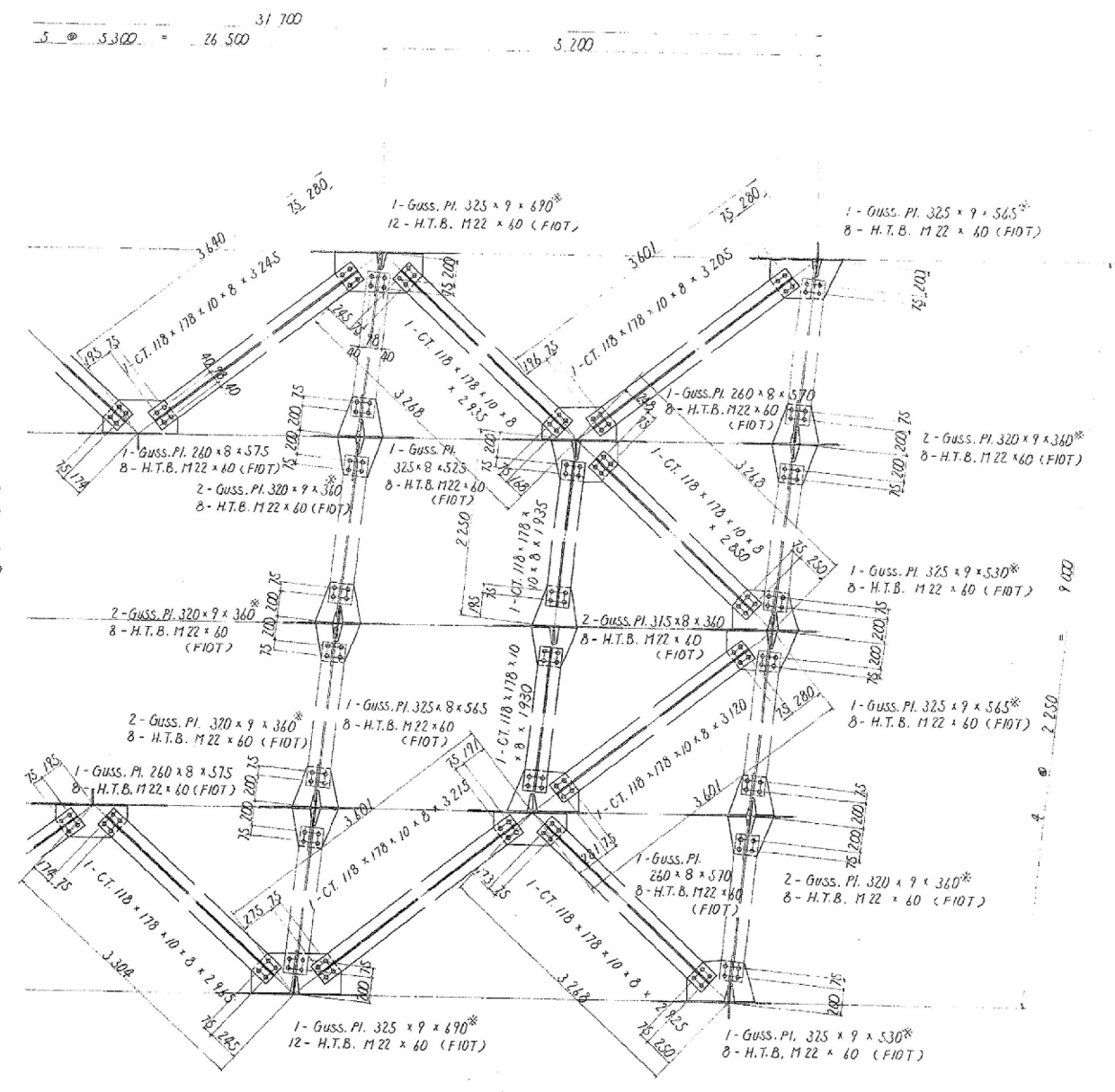
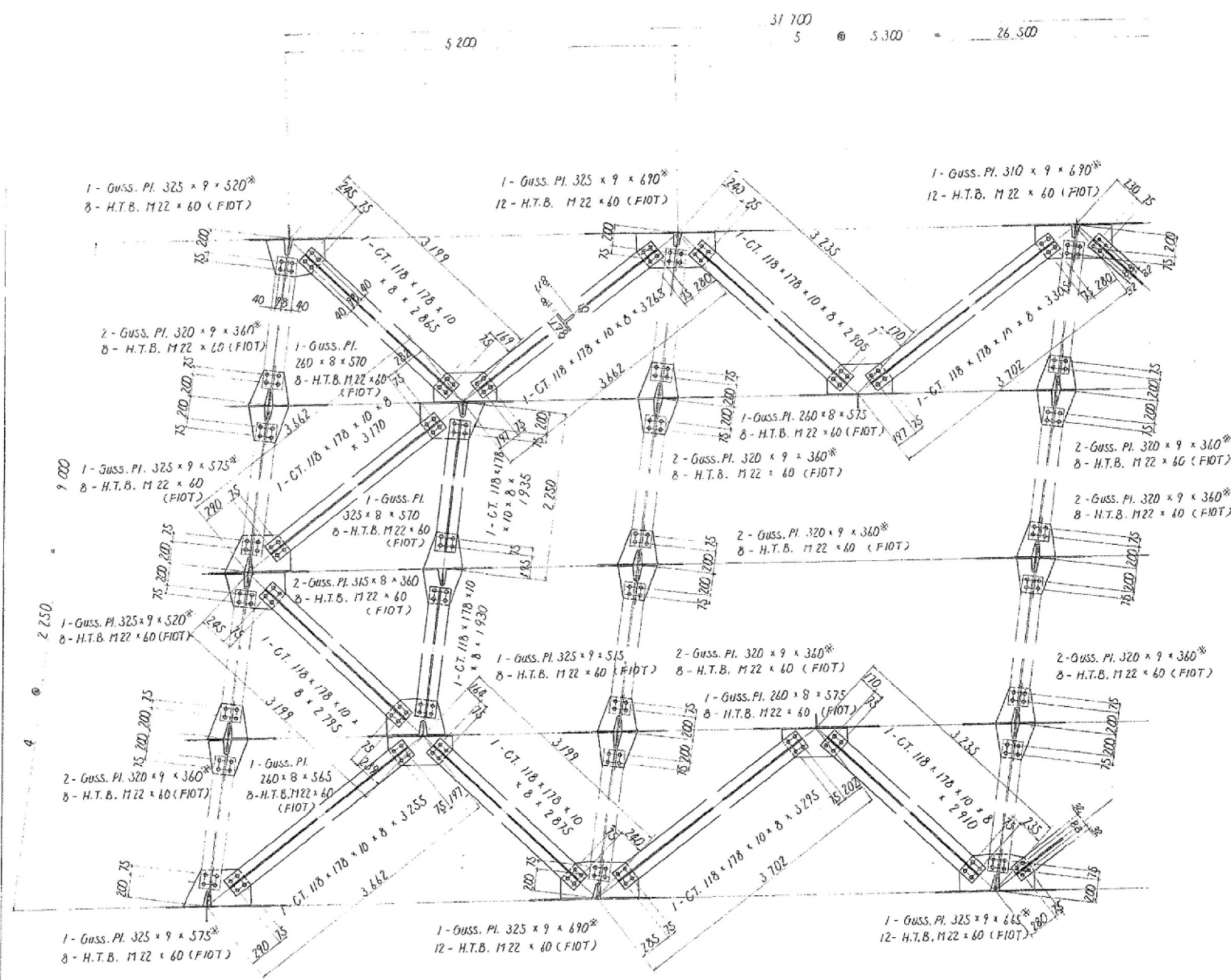
	1S-1	1S-2	1S-3	1S-4	1S-5	1S-6	1S-7	1S-8	1S-9	1S-10	1S-11	1S-12	1S-13	1S-14	1S-15	1S-16	1S-17	1S-18
LS1	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250
LS2	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030
LS3	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758
LS4	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185
LS5	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450
LS6	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123
LS7	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1757	1757	1757	1757	1757	1757	1757	1757	1757
LS8	128	128	128	128	128	128	128	128	128	122	122	122	122	122	122	122	122	122
LS9	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450
LS10	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185
H	31	31	31	31	31	31	31	31	31	-32	-32	-32	-32	-32	-32	-32	-32	-32
LM1	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940
LM2	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940
GUSS	E	G	A	G	A	B	E	G	A	G	A	B	E	G	A	G	A	B
HARK	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D



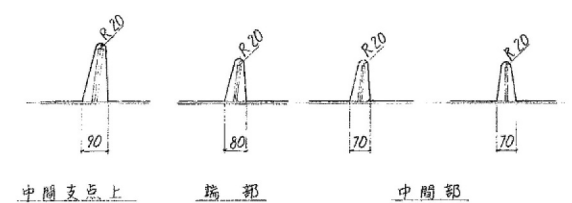
- 寸法表
1. GUSS, PL 425-9-425 *B
 2. 1.75mm 厚钢板 (SS400) 1.75mm
 3. 1.75mm 厚钢板 (SS400) 1.75mm

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 中間対傾構 (下り線)		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		

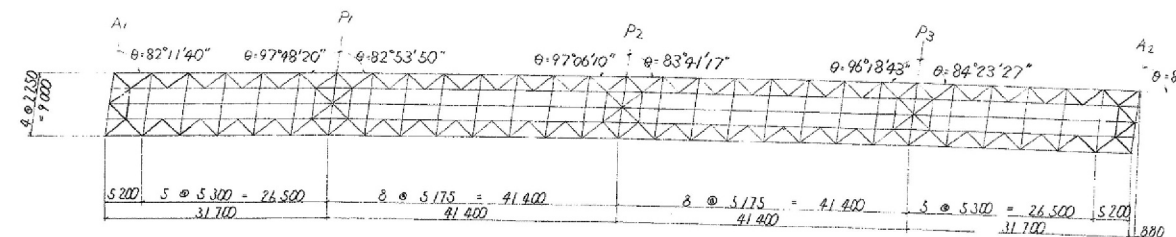
横構 4/5 S = 1/30, 1/20



ガセット切欠詳細 S=1/10

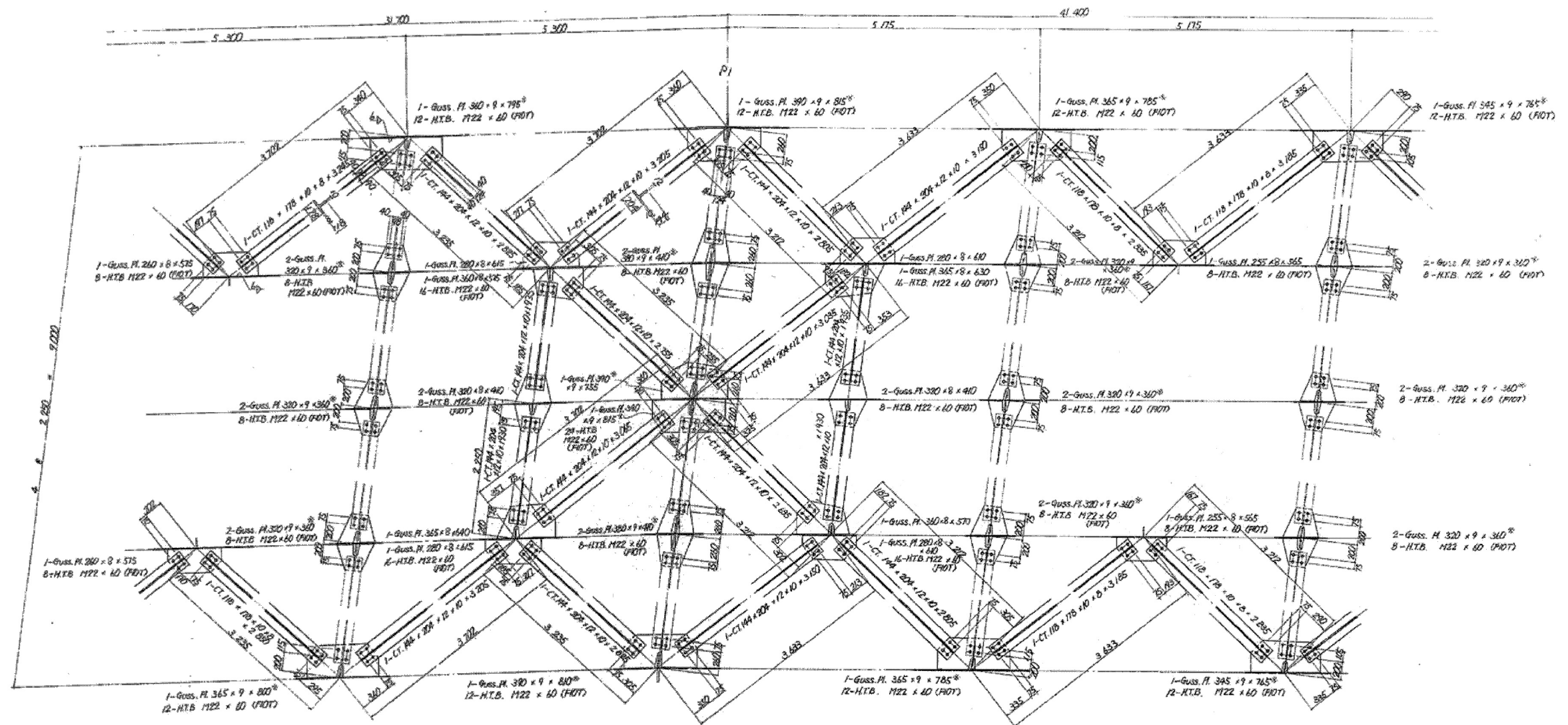


配置図

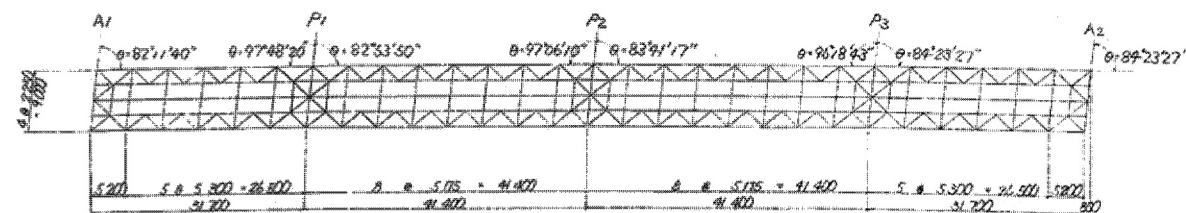


- 注意事項
1. guss.pl. 又は SM41A 材とする
 2. " * 無しは 9/25SS41TF とする
 3. C.T. は 9/25SS41TF とする
 4. " H.T.B. Bolt. M22 (F10T) とする

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 横構 (1/5)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		



祝聖日

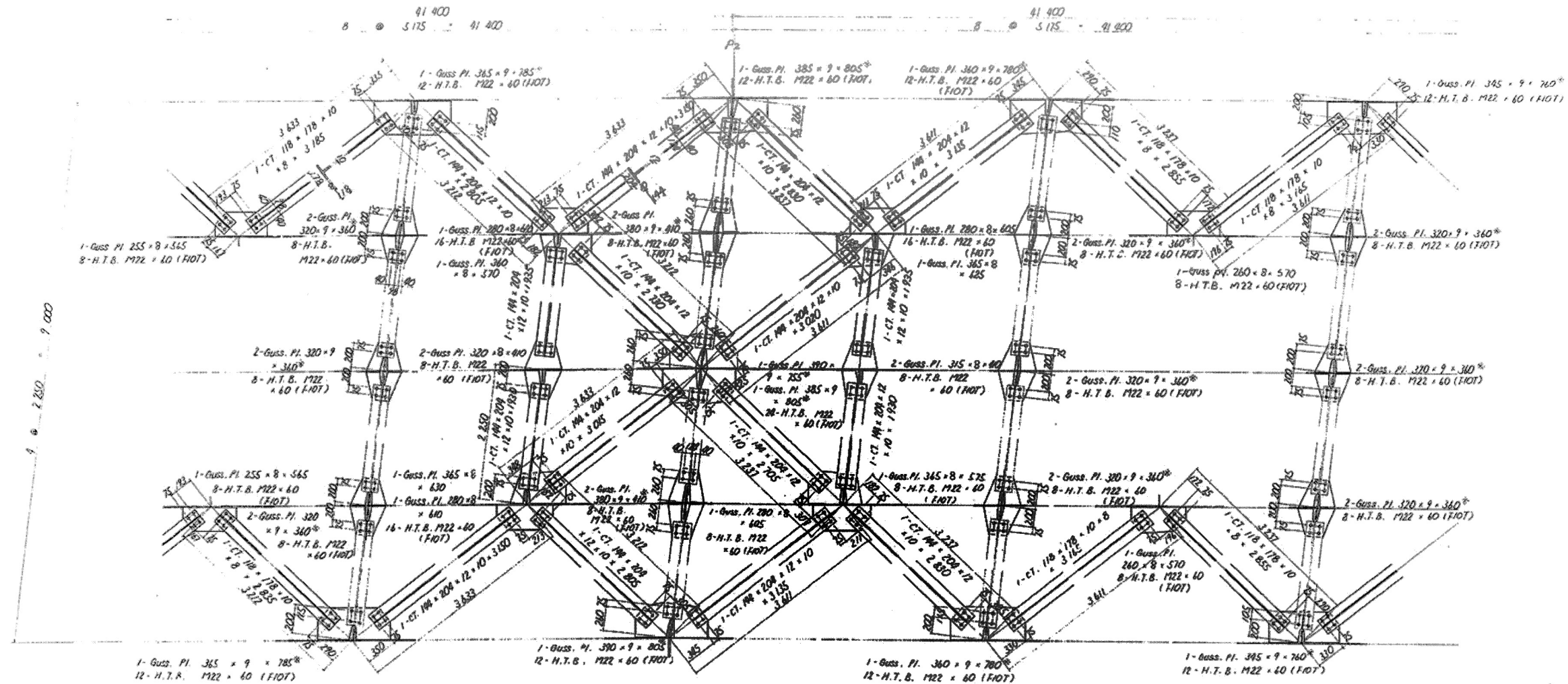


注意事項

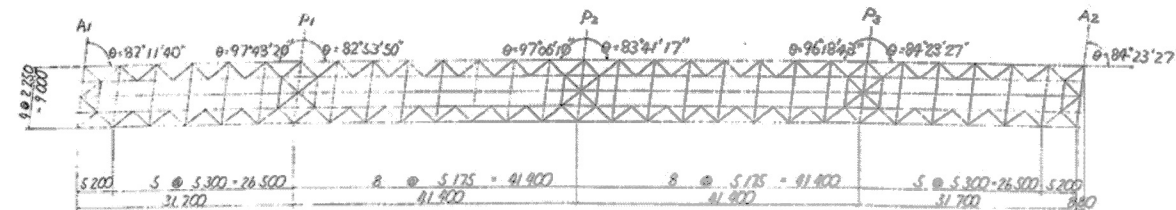
1. *Gusspl.* *は SM41A 材と判。
2. " * 無いは SS41TF と判。
3. C.T は全 7 SS41TF と判。
4. + H.T. Bolt M22 (F107) と判。

道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 横構 (2/5)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地嶋JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

縮 尺 (3/4) 5 - 1/80, 1/30



配 置 図

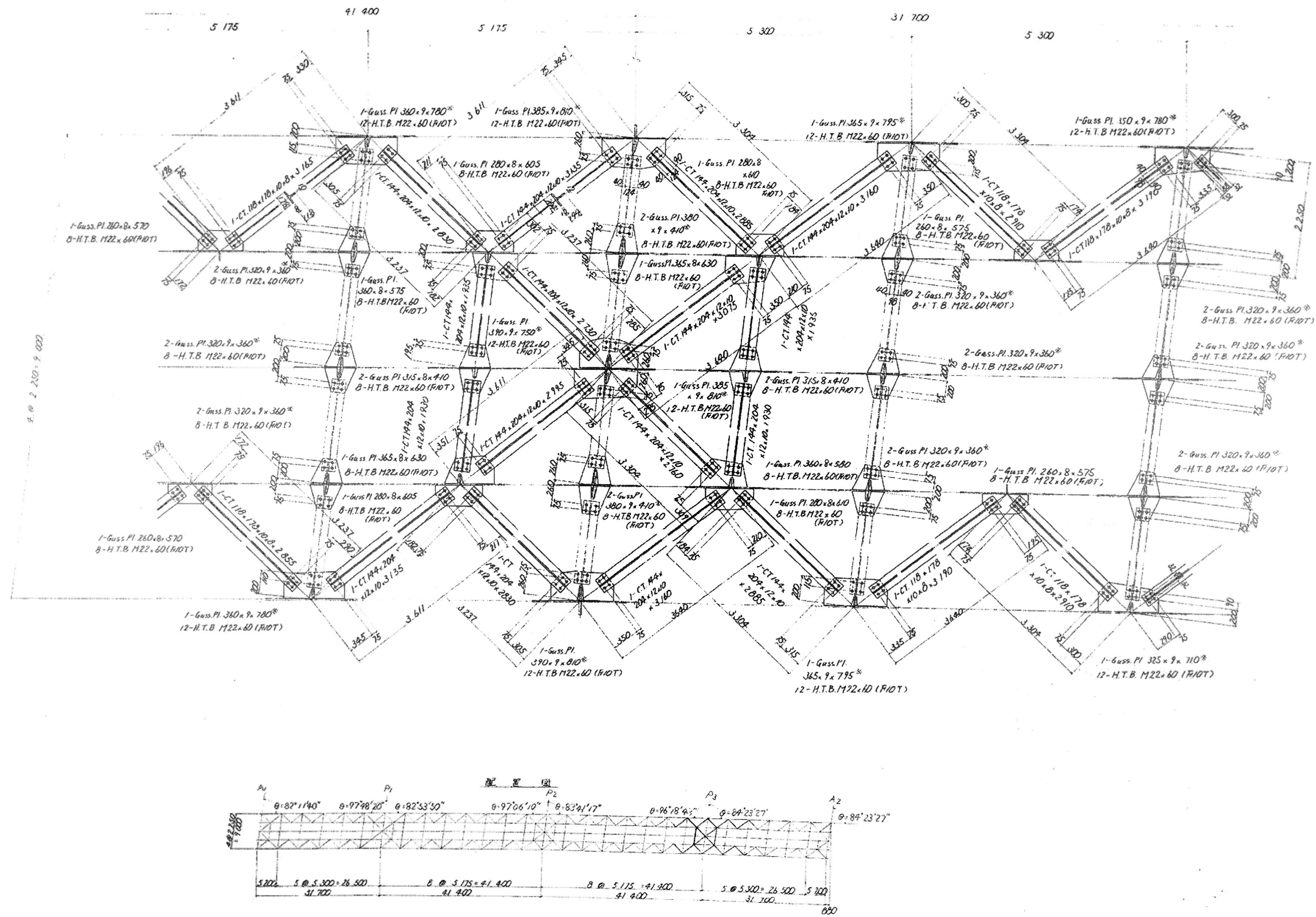


注 意 事 項

1. Guss. Pl. 365 x 9 x 785 (F10T) とする。
2. 3.633, 3.641, 3.642 は全長 (F10T) とする。
3. 3.633, 3.641, 3.642 は全長 (F10T) とする。

道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 橋構 (3/5)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		

横 構 1/31 S=80 1/20

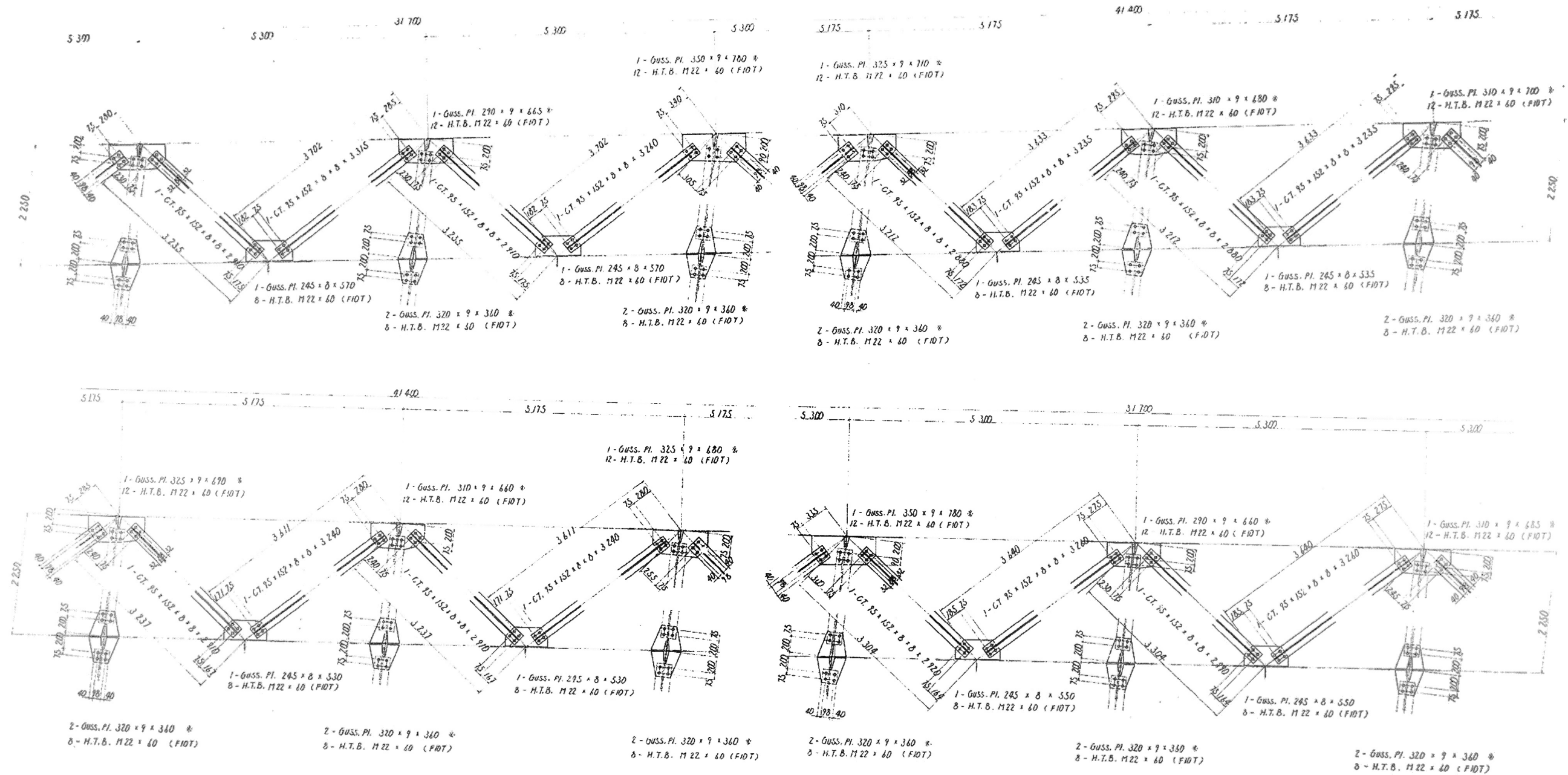


注意事項

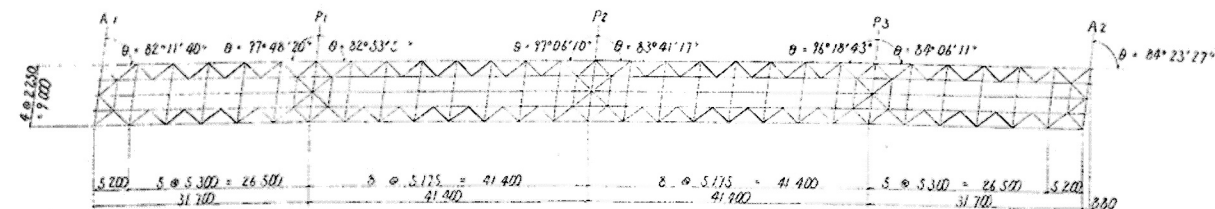
- 1. Guss. Pl. には SM490C を用いる。
- 2. " には 鋼材 235N を用いる。
- 3. " には H.T.B. M22 (F10T) を用いる。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 横構 (4/5)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

横構 (5/5) S = 1/30 1/20



配置図

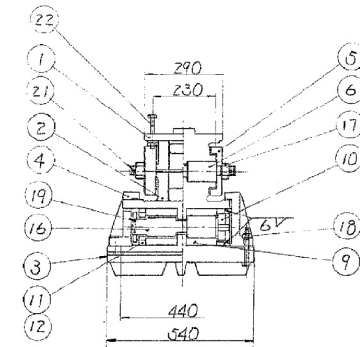
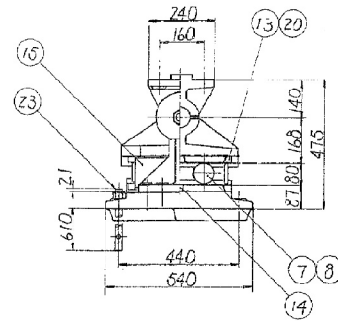
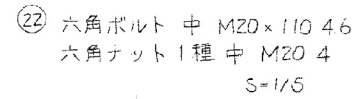
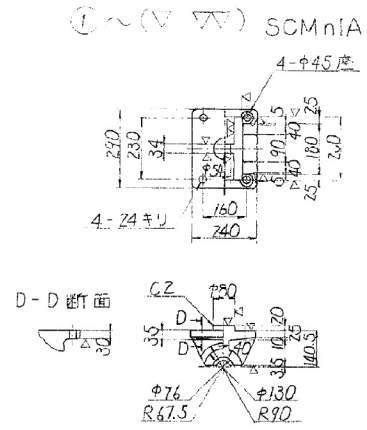


注意事項

1. Guss. Pl. は SM41A 材とする
2. * を施しは全て SS41 材とする
3. C.T. は全て SS41 材とする
4. 十字 H.T. Bolt, M22 (F10T) とする

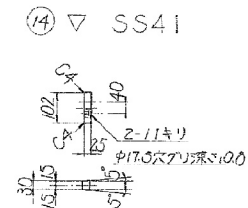
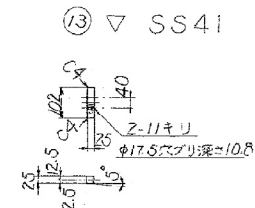
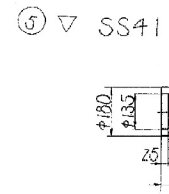
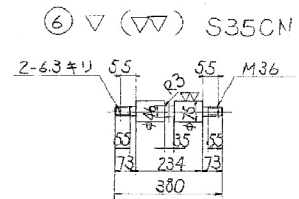
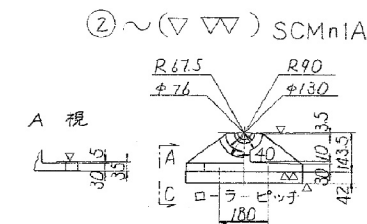
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 横構 (5/5)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

支承 (その1) (A_1, A_2 可動査)



設計条件

全	反	力	R	80.3 ton
死	荷	重 反 力	R_d	42.3 ton
活	荷	重 反 力	R_{live}	33.2 ton
橋	軸	方 向 水 平 力 (移動時)	R_{live}	4.0 ton
橋	軸	方 向 水 平 力 (地震時)	R_{ue}	10.4 ton
橋	軸	軸 角 方 向 水 平 力 (地震時)	R_{use}	10.4 ton
上	揚	力 (地震時)	V	4.4 ton
移動量				
計	算	移 動 量	e_1	60 mm
設	計	移 動 量	e_2	90 mm
全	移	動 可 能 量	e	120 mm
水平摩擦係数				
設	計	水 平 摩 擦 係 数	μ_H	0.24
摩擦係数				
設	計	摩 擦 係 数	μ	0.05
許容支圧応力度				
下	部	工 と の 許 容 支 圧 応 力 度	σ_{ba}	80 Kg/cm^2
上	部	工 と の 許 容 支 圧 応 力 度	σ_{ta}	1100 Kg/cm^2



材 料 表

品番	品名	材質	個数	重量 (kg)	備考
1	上 巻	SCMn1A	1	34.7	
2	下 巻	SCMn1A	1	16.8	
3	底 板	SCMn1A	1	130.7	
4	サイドフロップ	SCMn1A	2	27.2	
5	キマッポ	SS41	2	12.7	
6	ピ ン	S35CN	1	8.3	
7	ローラー (A)	C-13B	1	8.7	
8	ローラー (B)	C-13B	1	9.9	
9	支 柱 板	C-13B	5	18.8	
10	ビニース	SS41	2	2.0	
11	ラ ッ プ	SS41	4	3.1	
12	端 子	SS41	4	2.6	
13	サイドプレート (A)	SS41	8	3.7	
14	サイドプレート (B)	SS41	4	2.4	
15	連 絡 板	SS41	2	8.2	
16	カ バ ー	SS41	2	3.2	
17	六角ナット	—	2	0.81	1本はM5.4
18	六角ボルト・ナット	—	5	3.5	5本は1180
19	六角ボルト	ステンレス鋼	8	0.15	5本は1180 3本はM5.2
20	六角穴付ボルト	—	24	0.6	5本は1176 19本はM5.2
21	割りピ ン	ステンレス鋼	2	—	1本は1180
22	六角ボルト・ナット	—	4	1.6	3本は1180 1本はM5.2
23	アンカボルトナット	SS41	4	26.4	3本は1180 1本はM5.2
全重量				376.8 (kg)	

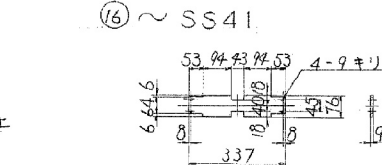
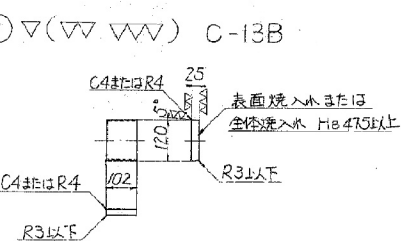
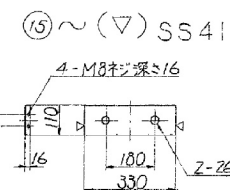
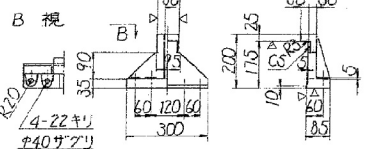
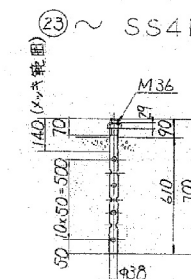
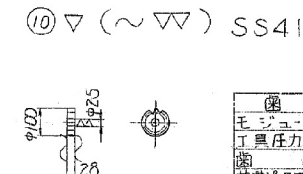
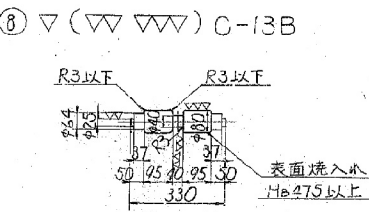
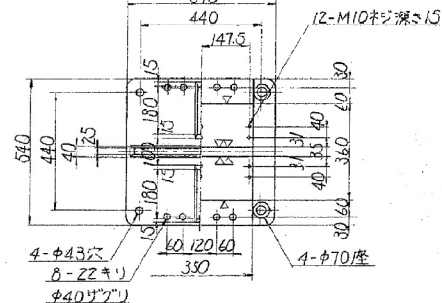
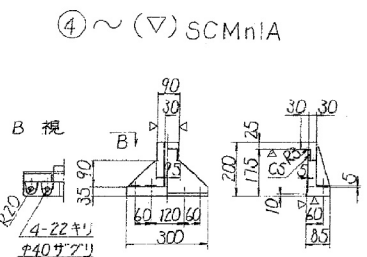
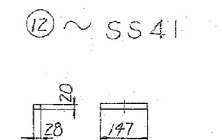
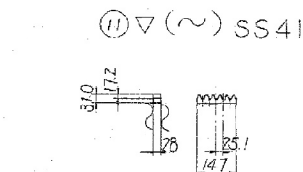
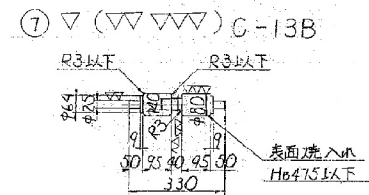
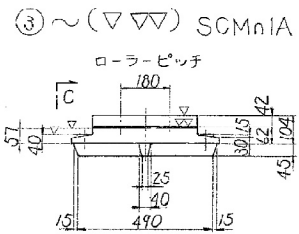
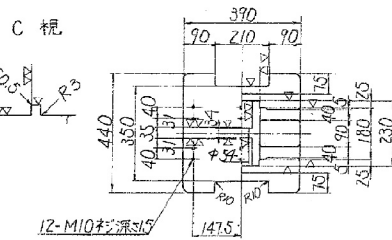
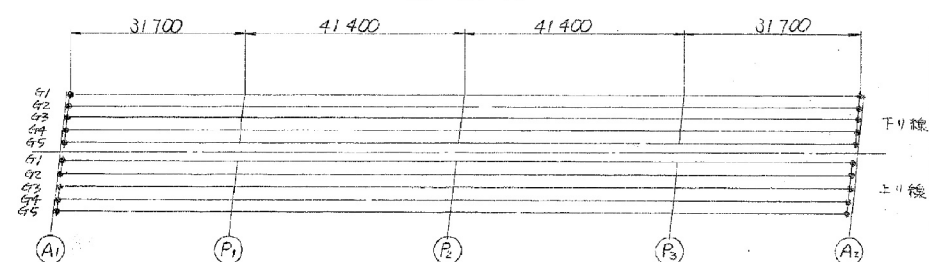


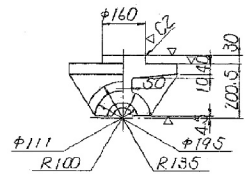
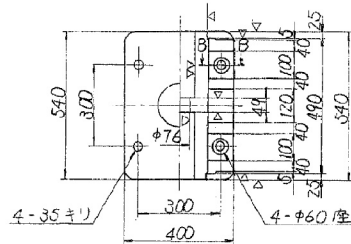
圖 置 圖



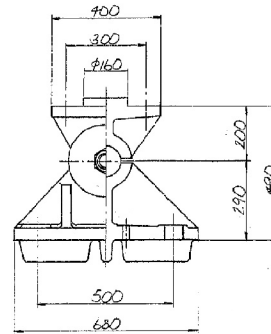
道 央 自 動 車 道			
吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 支承 (その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

支承 (その3) (P_2 固定咎)

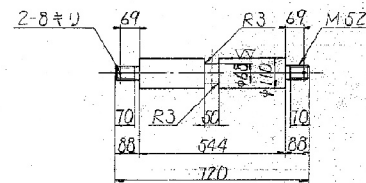
① $\sim (\nabla \nabla) \text{SCM}_{nIA}$



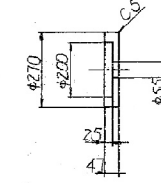
B-B断面



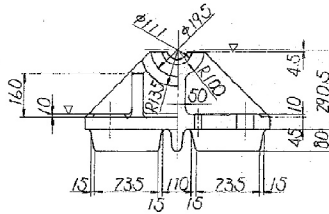
③ $\nabla(\nabla\nabla)$ S35CN



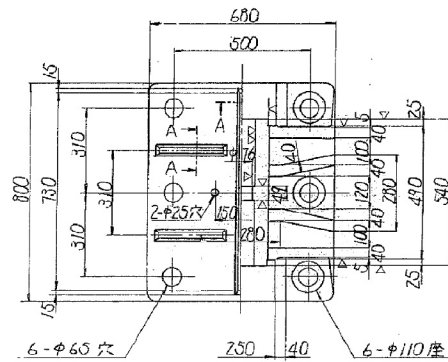
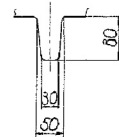
④ ∇ SS41



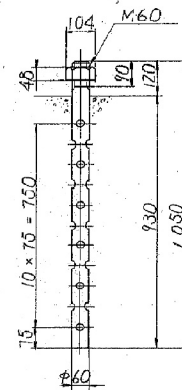
② $\sim (\nabla \nabla) \text{SCMnIA}$



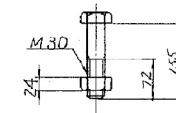
A-A 断面 $S = 1/10$



⑦ ~ SS41



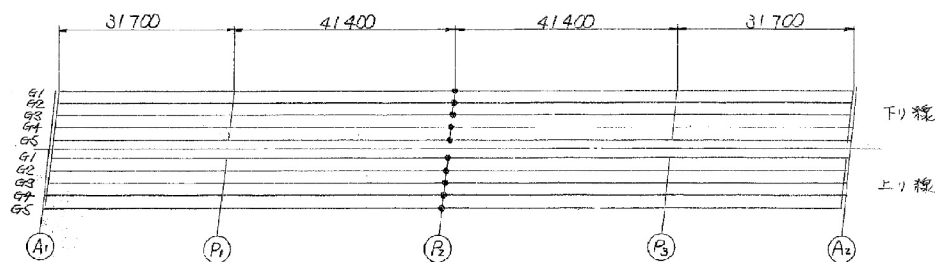
⑧ 六角ボルト 中 M 30×155 10.9
六角ナット 1種 中 M 30 10

$$S = 1/10$$


⑤ 2-六角ナット 1種 中 M5Z

⑥ 2-割りピン 8×71

配置図



設計条件

反	力	
全反力	R	251.4 ton
死荷重反力	R _d	163.3 ton
活荷重反力	R _{live}	88.1 ton
橋軸方向水平力(地震時)	R _{mc}	134.8 ton
橋軸直角方向水平力(地震時)	R _{mce}	39.2 ton
上揚力(地震時)	V	16.3 ton
水平震度		
設計水平震度	K _H	0.24
許容支圧応力度		
下部工との許容支圧応力度	σ _{ba}	80 K _g /cm ²
上部工との許容支圧応力度	σ _{ta}	2,500 K _g /cm ²

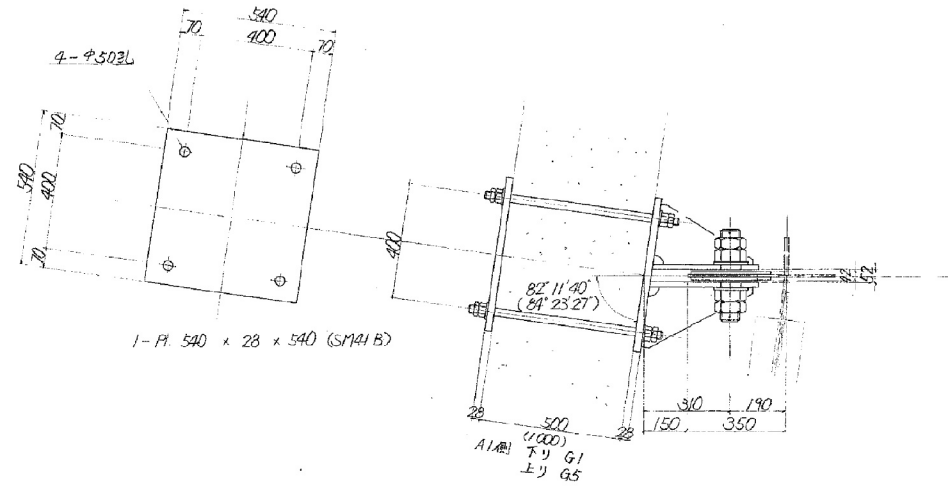
材料表

部番	品名	材質	個数	重量 (kg)	備考
1	上	SCMn1A	1	172.3	
2	下	SCMn1A	1	445.7	
3	ピソ	S35CN	1	41.2	
4	キヤップ	SS41	2	29.1	
5	ナット	SS41	2	24	JIS B1/81
6	割りピソ	ステンレス鋼	2	—	JIS B1351
7	アソカボルト・ナット	SS41	6	149.6	JIS B181 JIS B180
8	六角ボルト・ナット	—	4	5.2	JIS B1181
全重量				845.5	(kg)

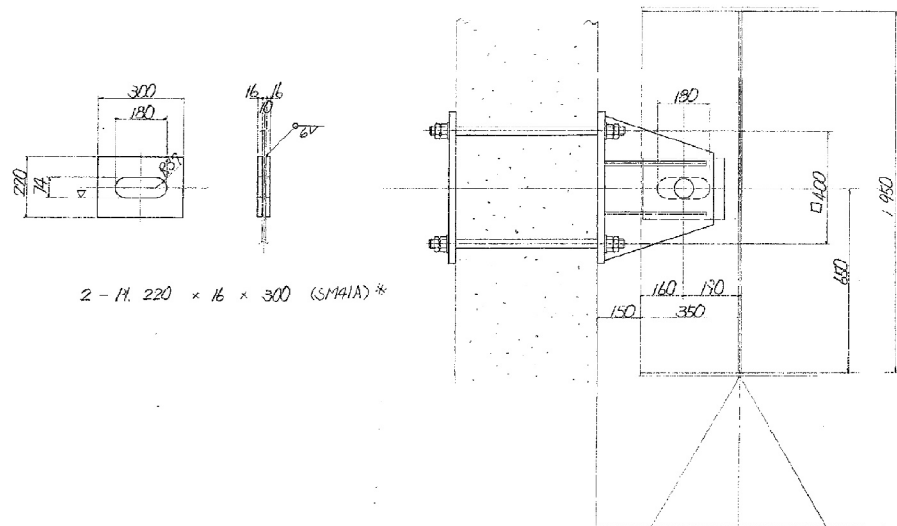
道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版代替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 支 承 (の 3)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

耐震連結装置 S=1/10

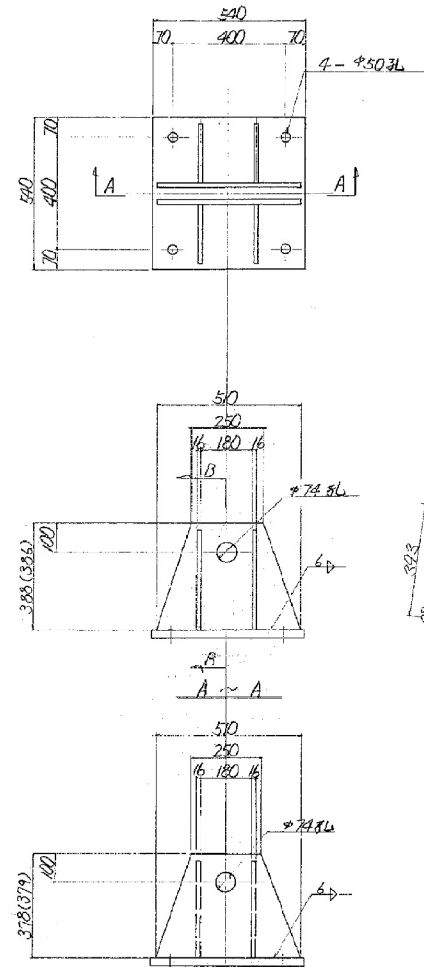
ベースプレート詳細



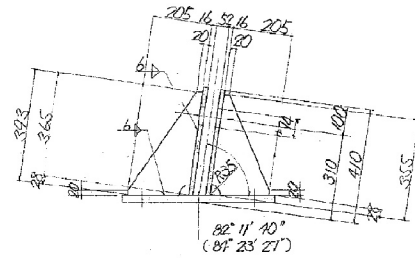
補強板詳細



トラケット詳細

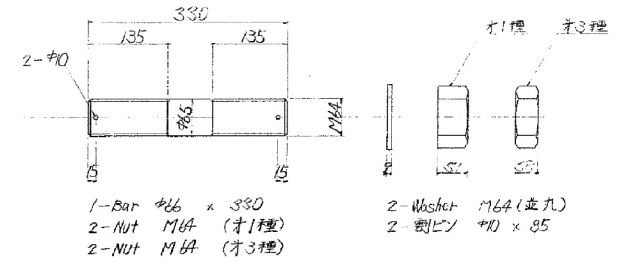


B ~ B

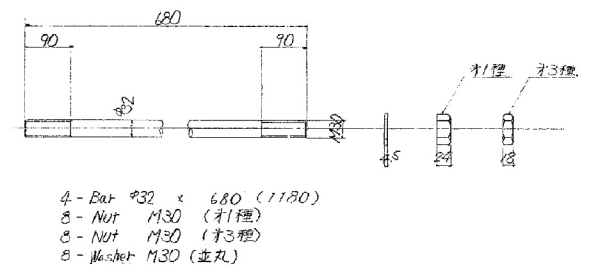


- 1-Pl. 540 × 28 × 540 (SM53B)
- 1-Pl. 510 × 16 × 388 (386) (SM41A)
- 1-Pl. 510 × 16 × 378 (379) ()
- 2-Pl. 205 × 16 × 393 ()
- 2-Pl. 205 × 16 × 355 ()

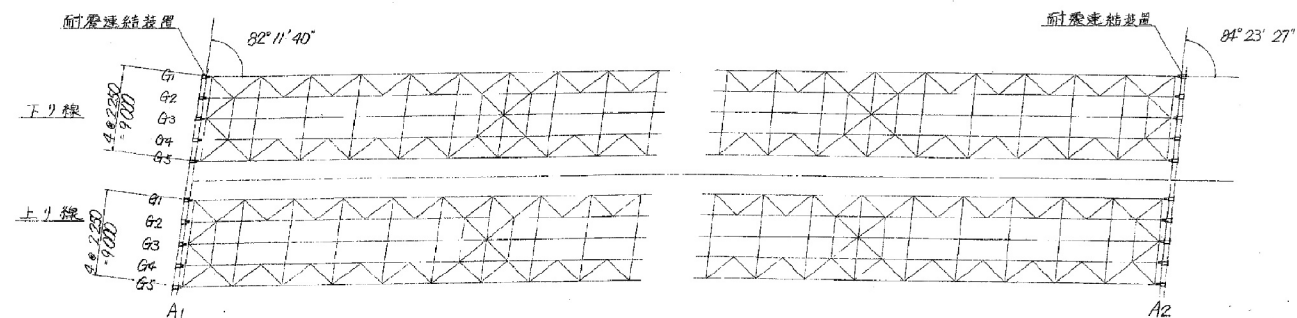
取付ボルト詳細 S=1/5



T/カーボルト詳細 S=1/5



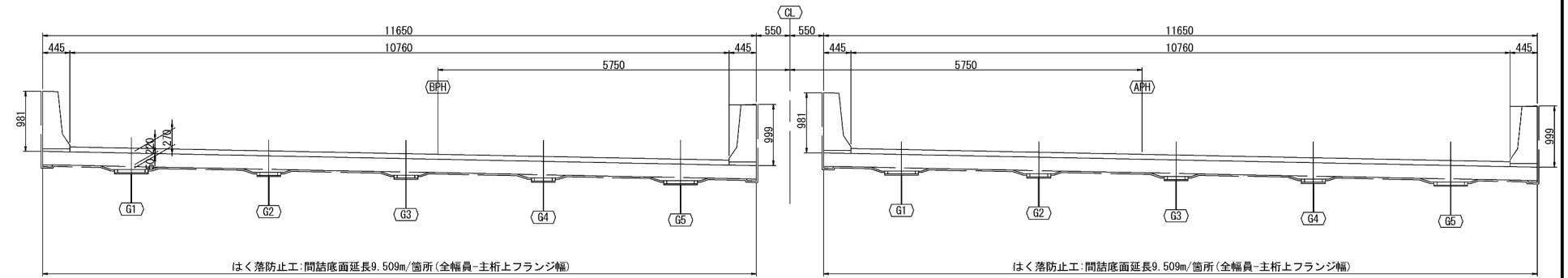
配置図



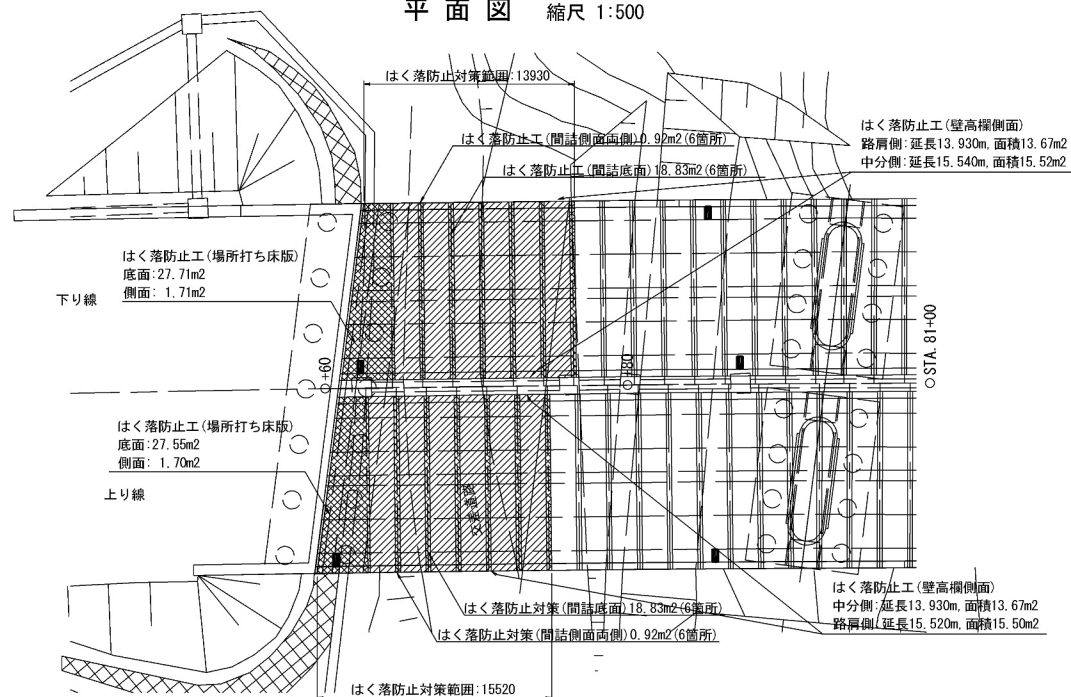
注意事項
 ① 特記なき材質は全てSS41とする。
 ② ()内数値は A2 制を示す。
 ③ *印 材料以外 全て溶融亜鉛メッキとする。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 耐震連結装置		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

断面図 S=1:100



平面図 縮尺 1:500

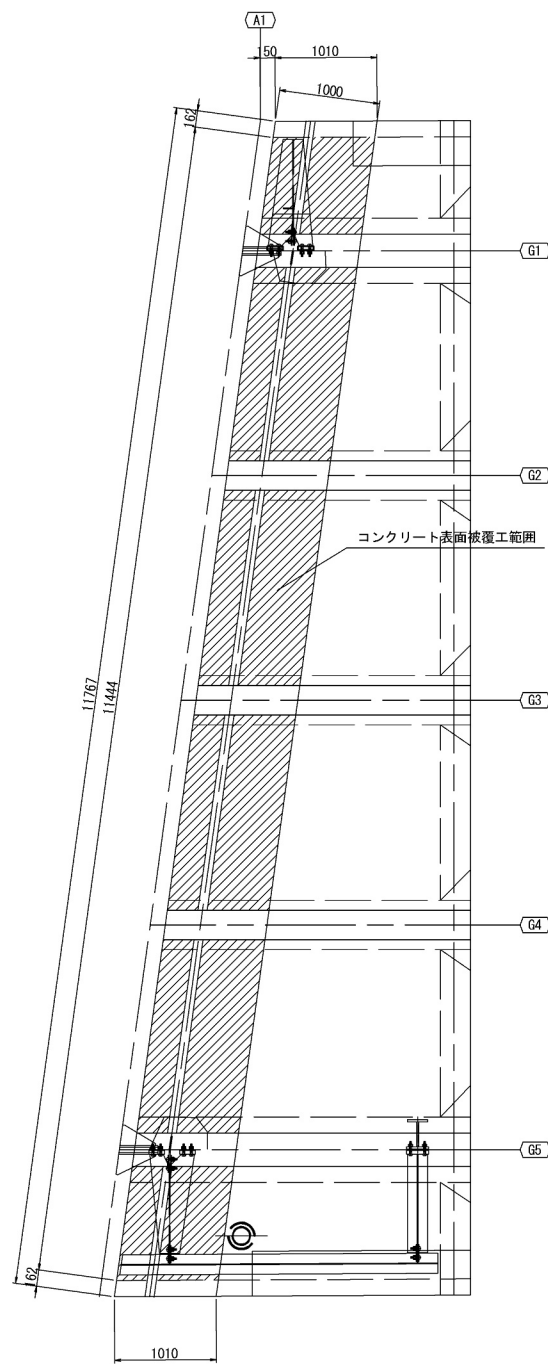


上り線		単位	路肩側	中分側	合計
はく落防止工	間詰側面	m2	—	—	0.92
	間詰底面	〃	—	—	18.83
	場所打ち床版底面	〃	—	—	27.55
	場所打ち床版側面	〃	—	—	1.70
	壁高欄側面	〃	15.50	13.67	29.17

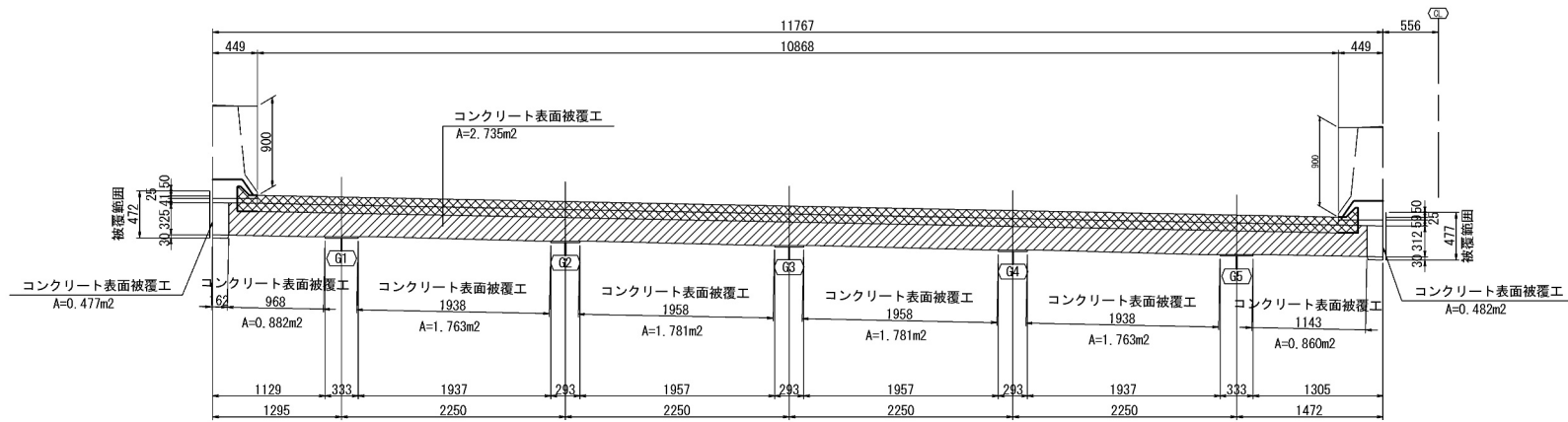
道 史 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 はく落防止対策工図		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その1)
(A1側)

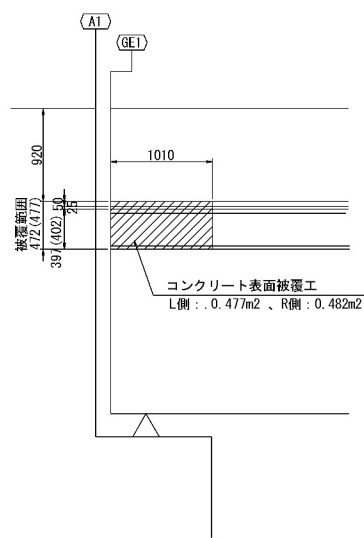
平面図 S=1:75



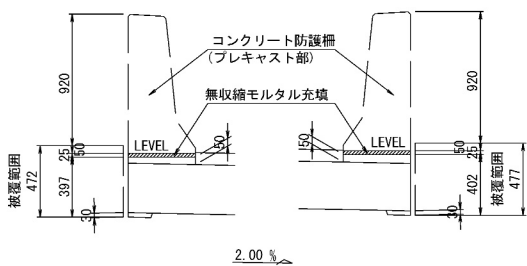
断面図 S=1:75



側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



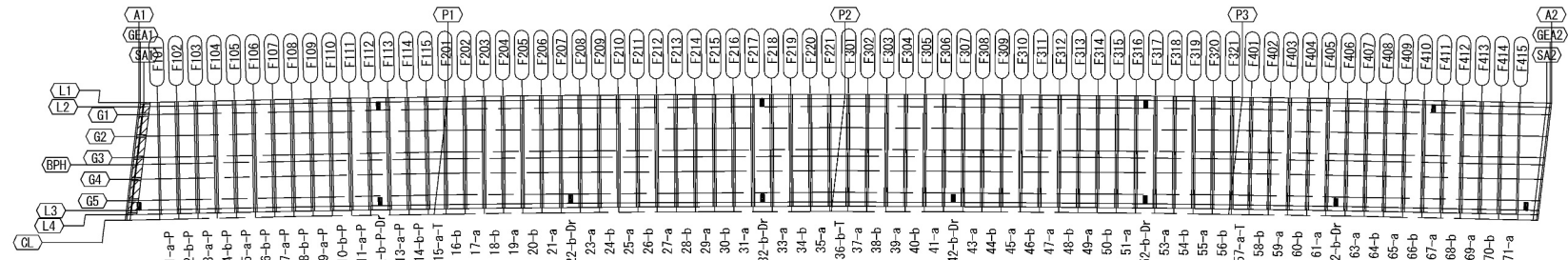
項目	単位	数量	備考
上り線	m2	24.9	
下り線	m2	25.1	
合計	m2	50.0	

数量表

項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12.524	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

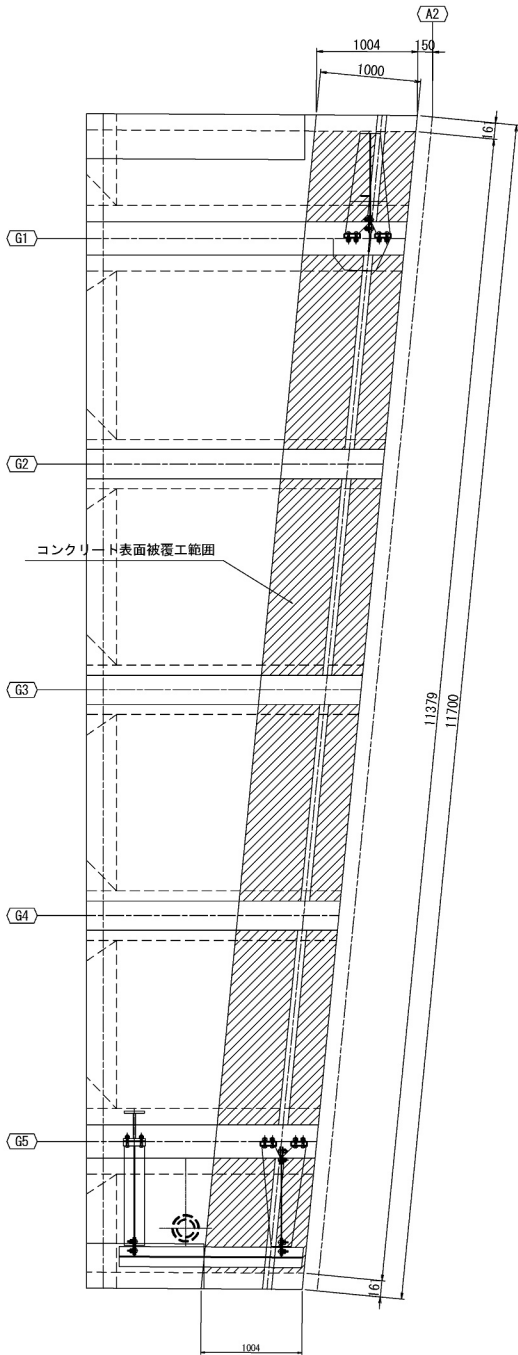
位置図 S=1:750



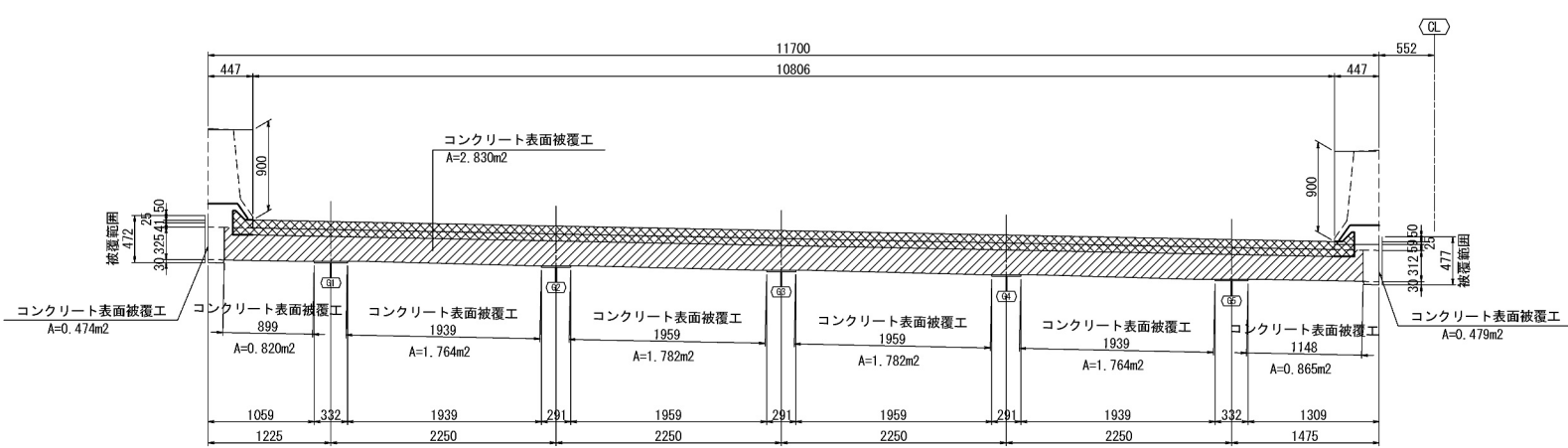
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その2)
(A2側)

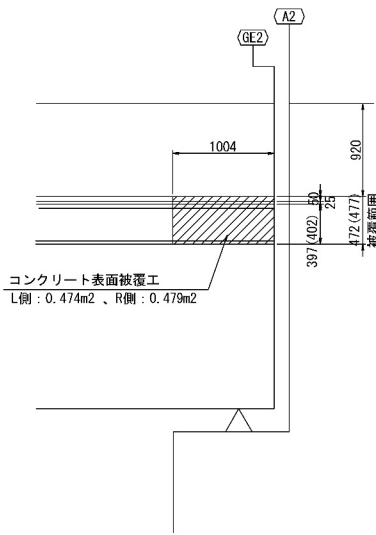
平面図 S=1:75



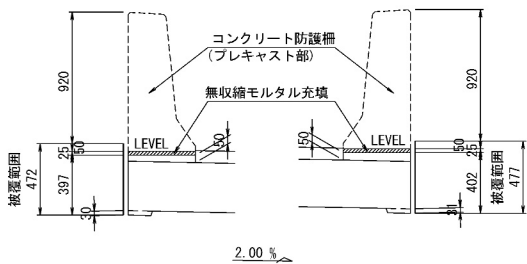
断面図 S=1:75



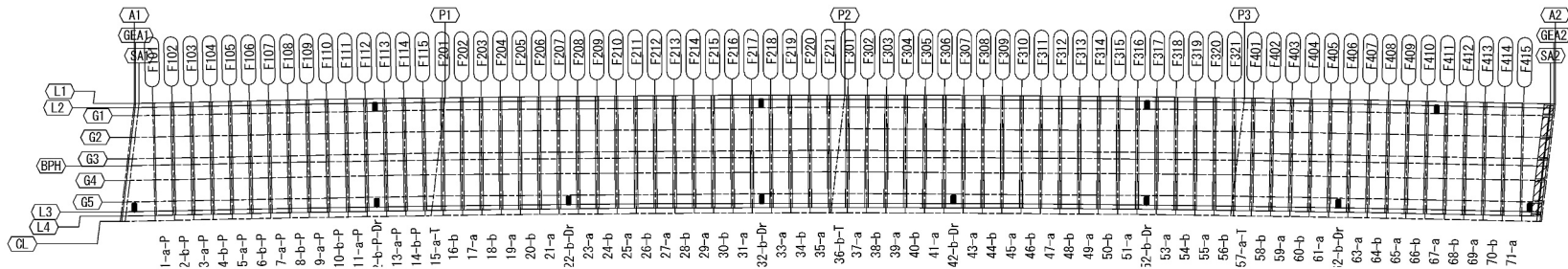
側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



位置図 S=1:750



数量表

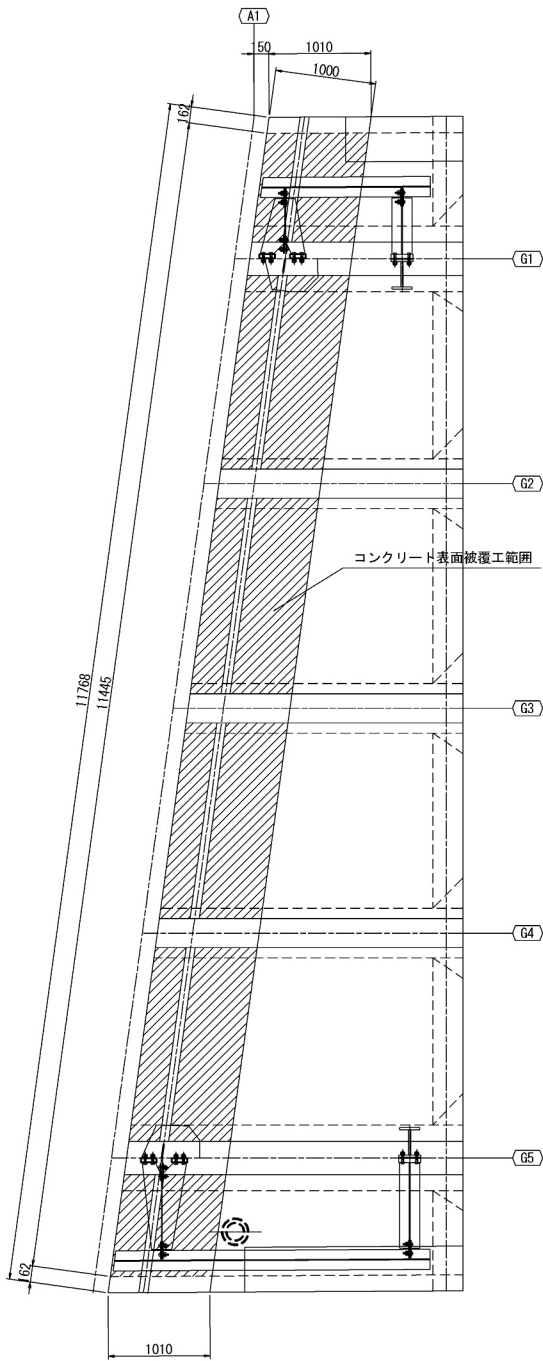
項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12,560	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

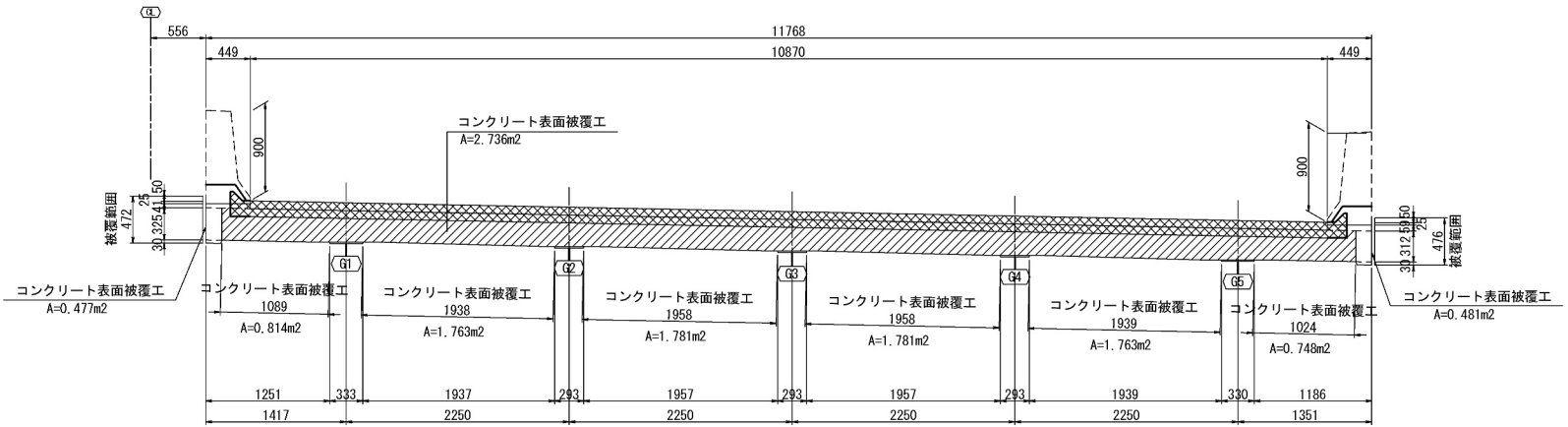
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その1)
 (A1側)

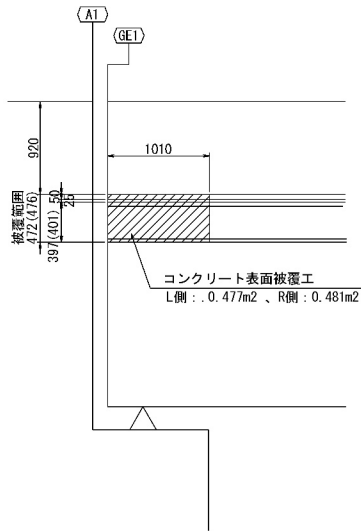
平面図 S=1:75



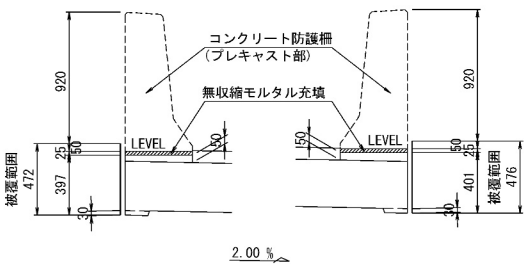
断面図 S=1:75



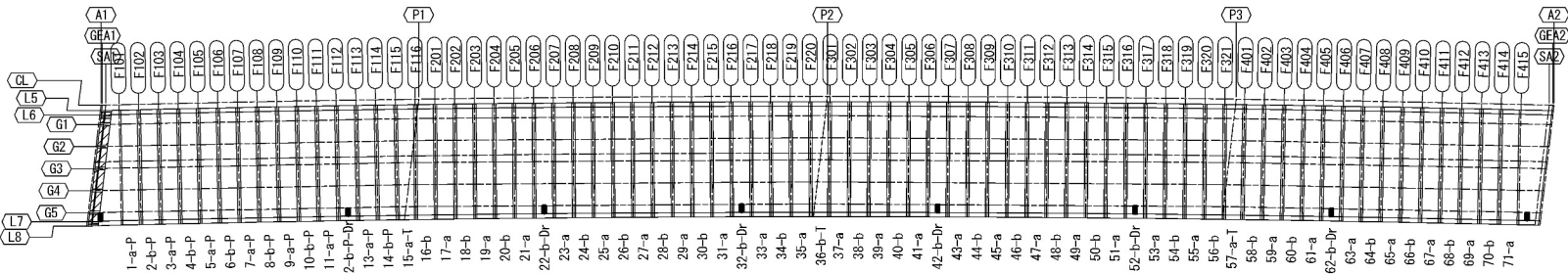
側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



位置図 S=1:750



数量表

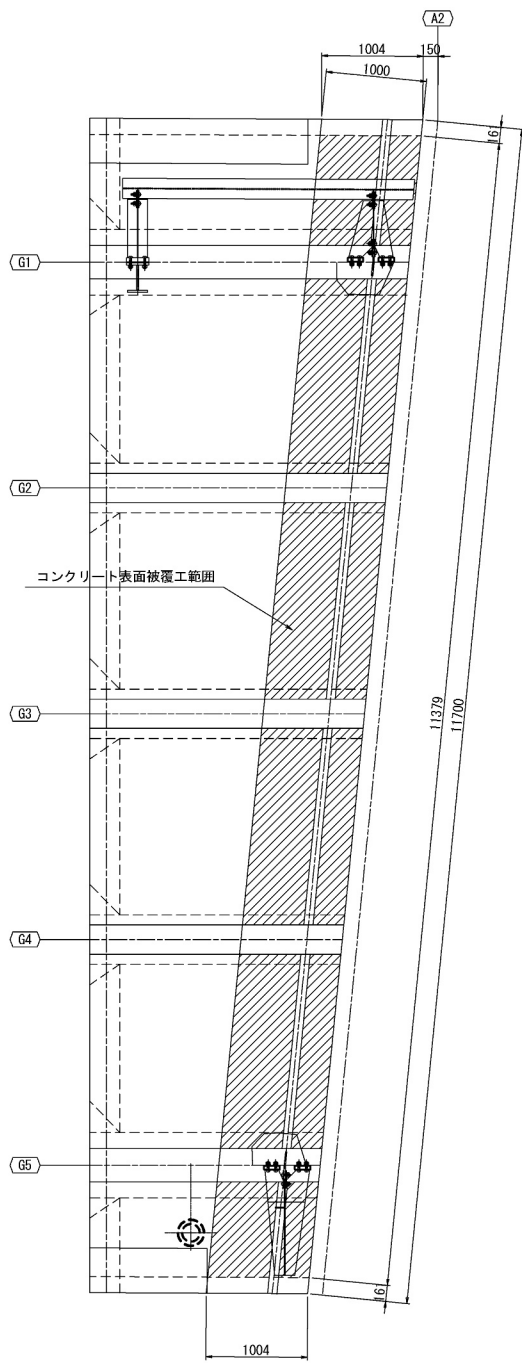
項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12,344	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

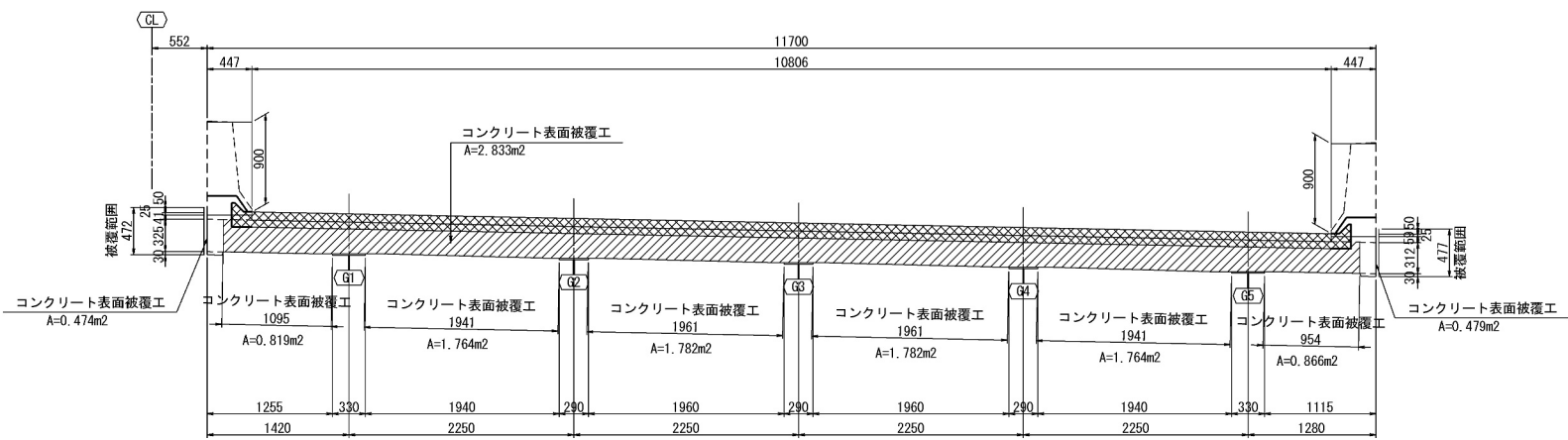
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その2)
(A2側)

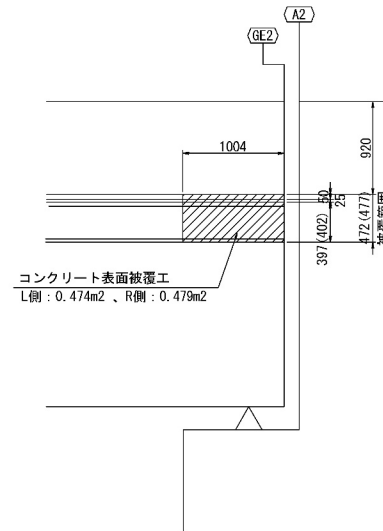
平面図 S=1:75



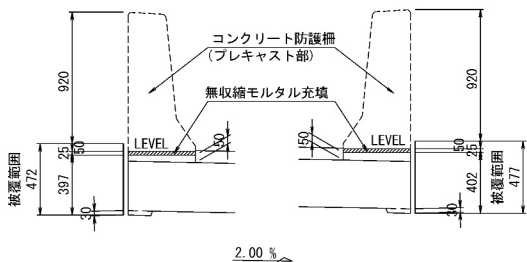
断面図 S=1:75



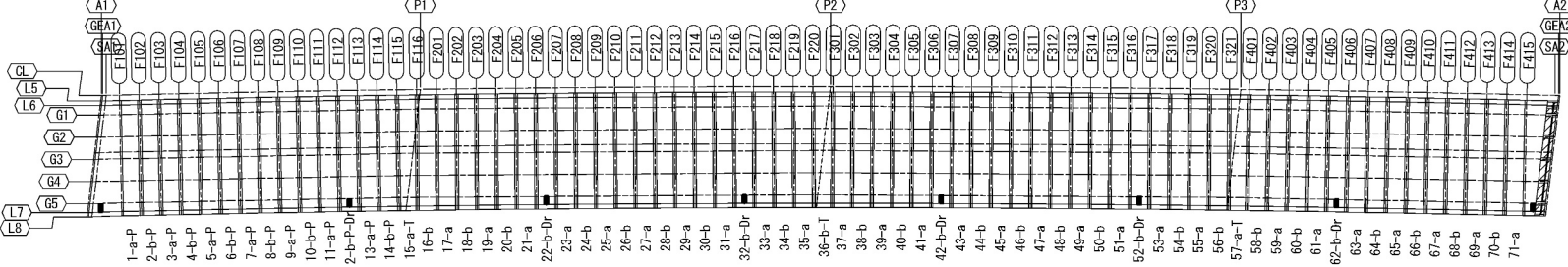
側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



位置図 S=1:750

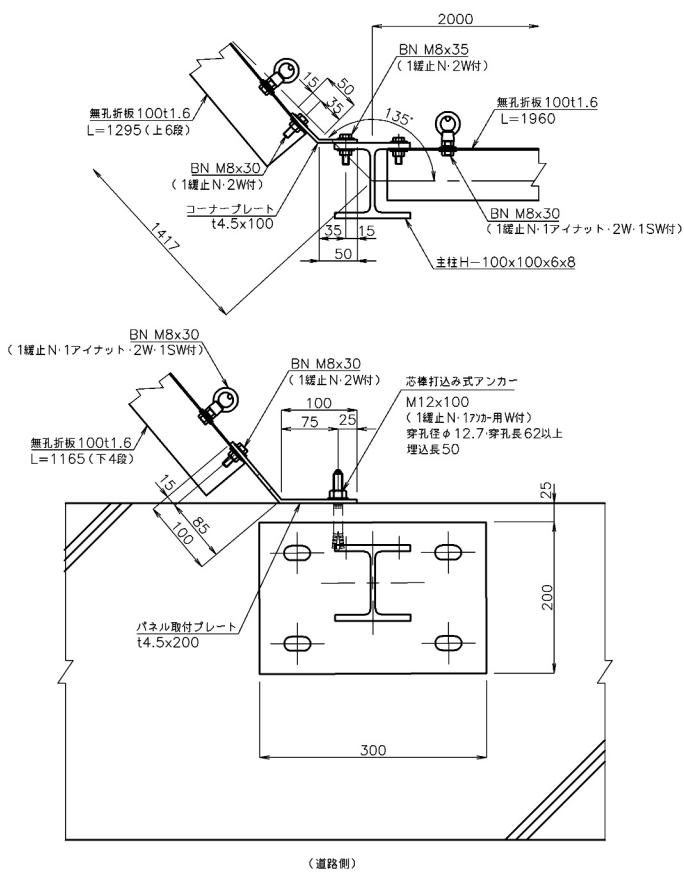
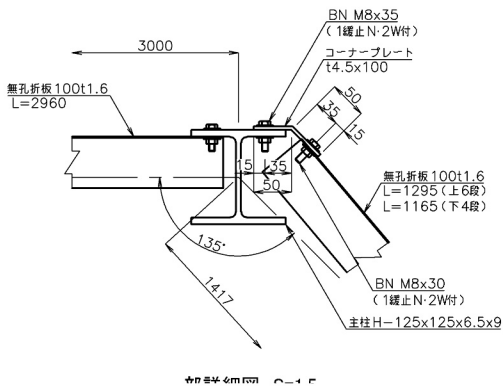
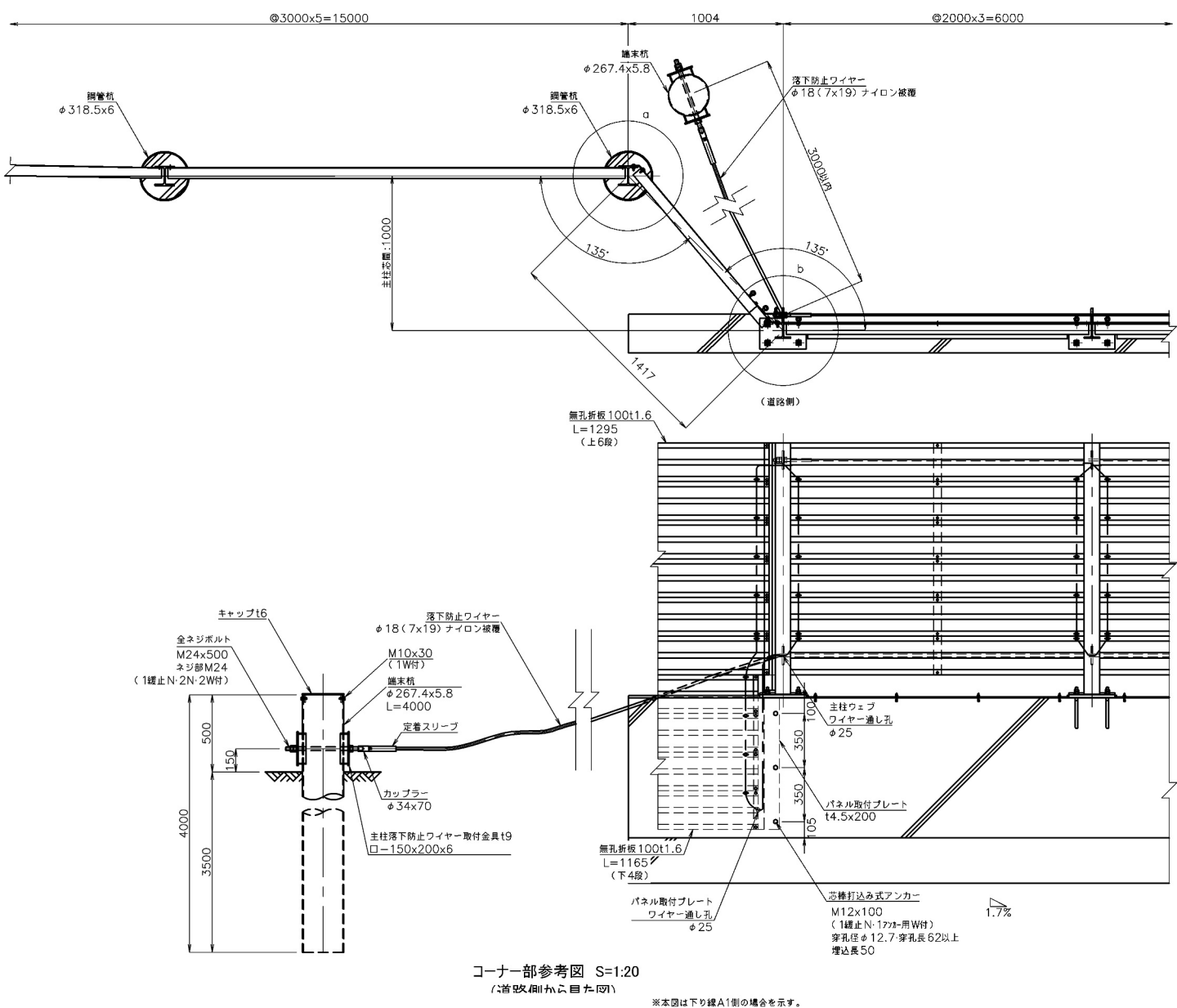
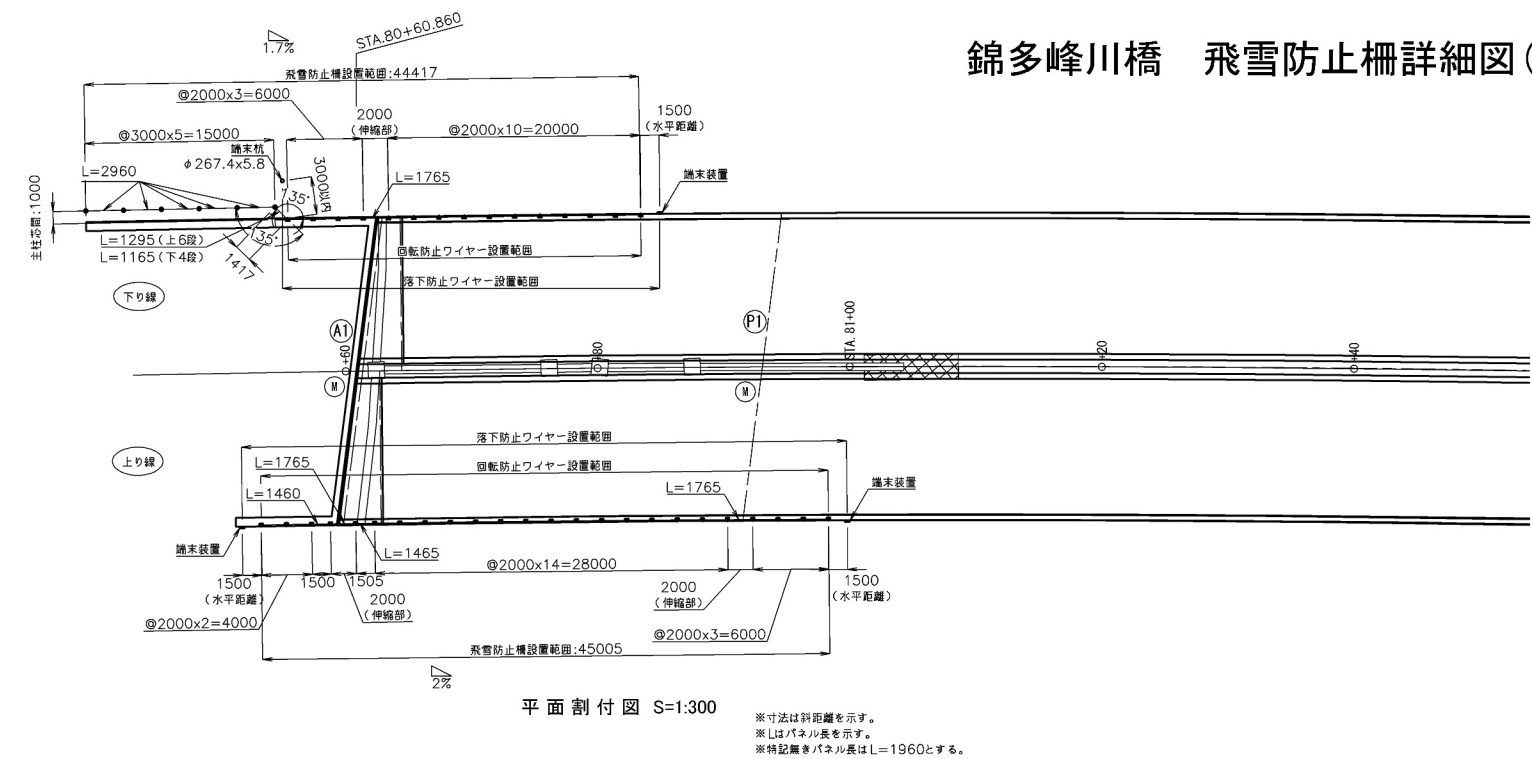


項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12.563	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その1)



b部詳細図 S=1:5

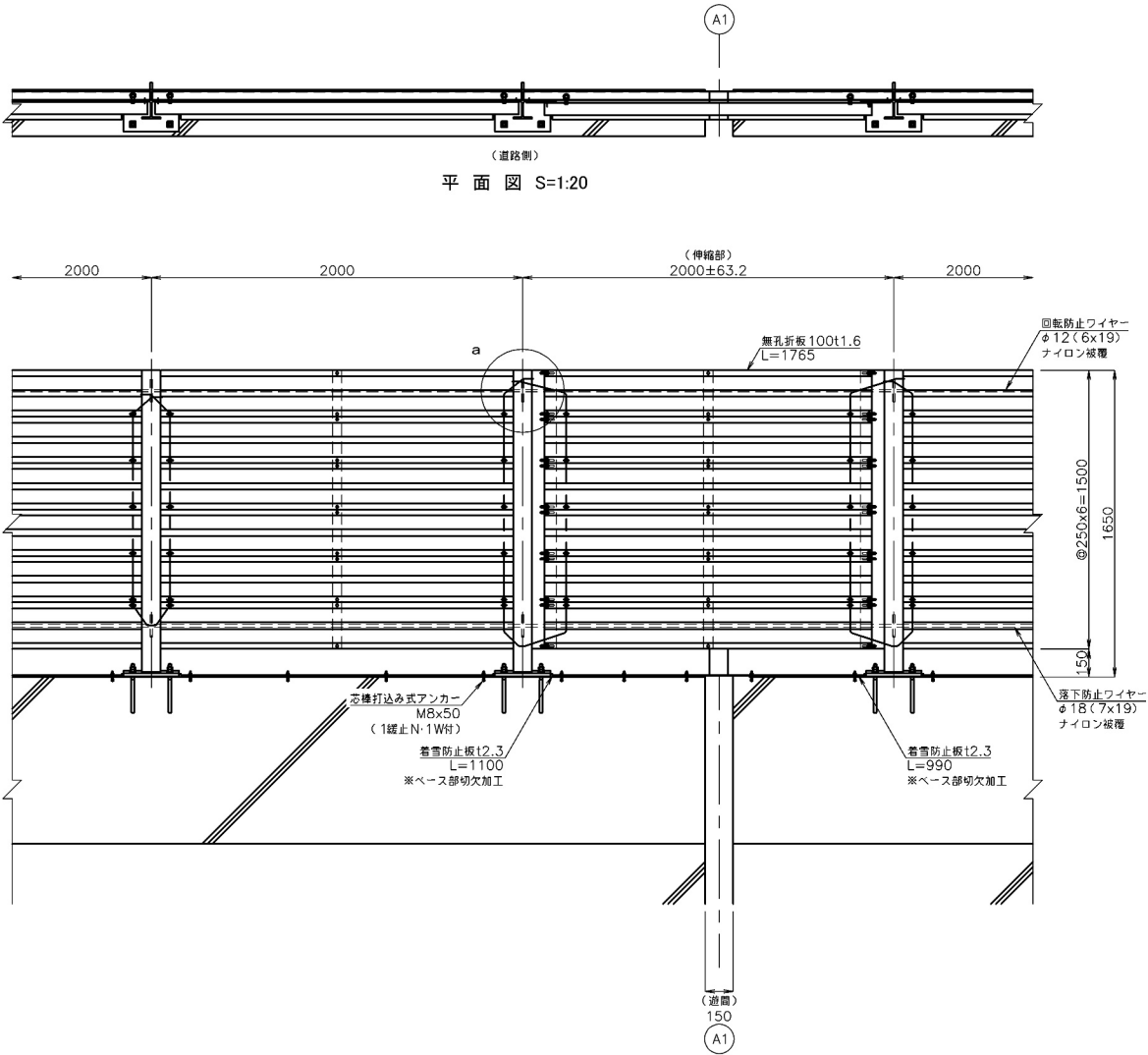
数量表

項目	単位	数量	適用
飛雪防止柵	下り線	m	44.4
	上り線	m	45.0

【注記】1.主柱はレール用(水勾配加工有り)を壁高欄端に垂直に設置する。
2.緩止ナットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
3.落下防止ワイヤーφ18(7x19)の適用長さは11m～398mとする。
4.折板・着雪防止板はJIG G 3323 に準ずる SGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板(Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

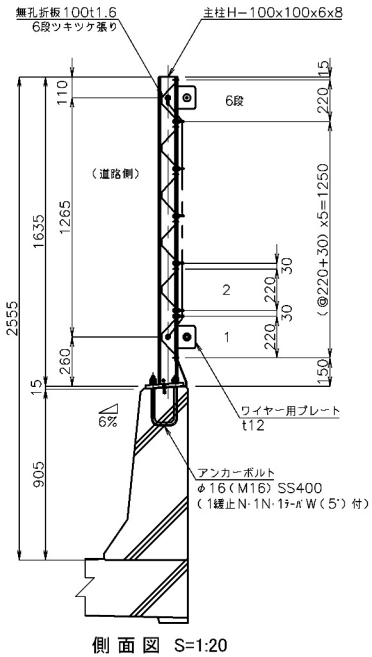
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その2)

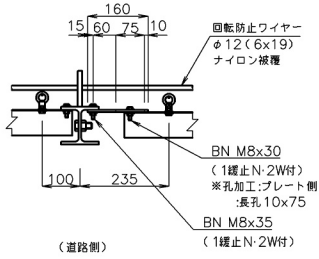


立面図 S=1:20

※本図は下り線の場合を示す。
※芯棒打込み式アンカー位置は現地確認の上決めること。



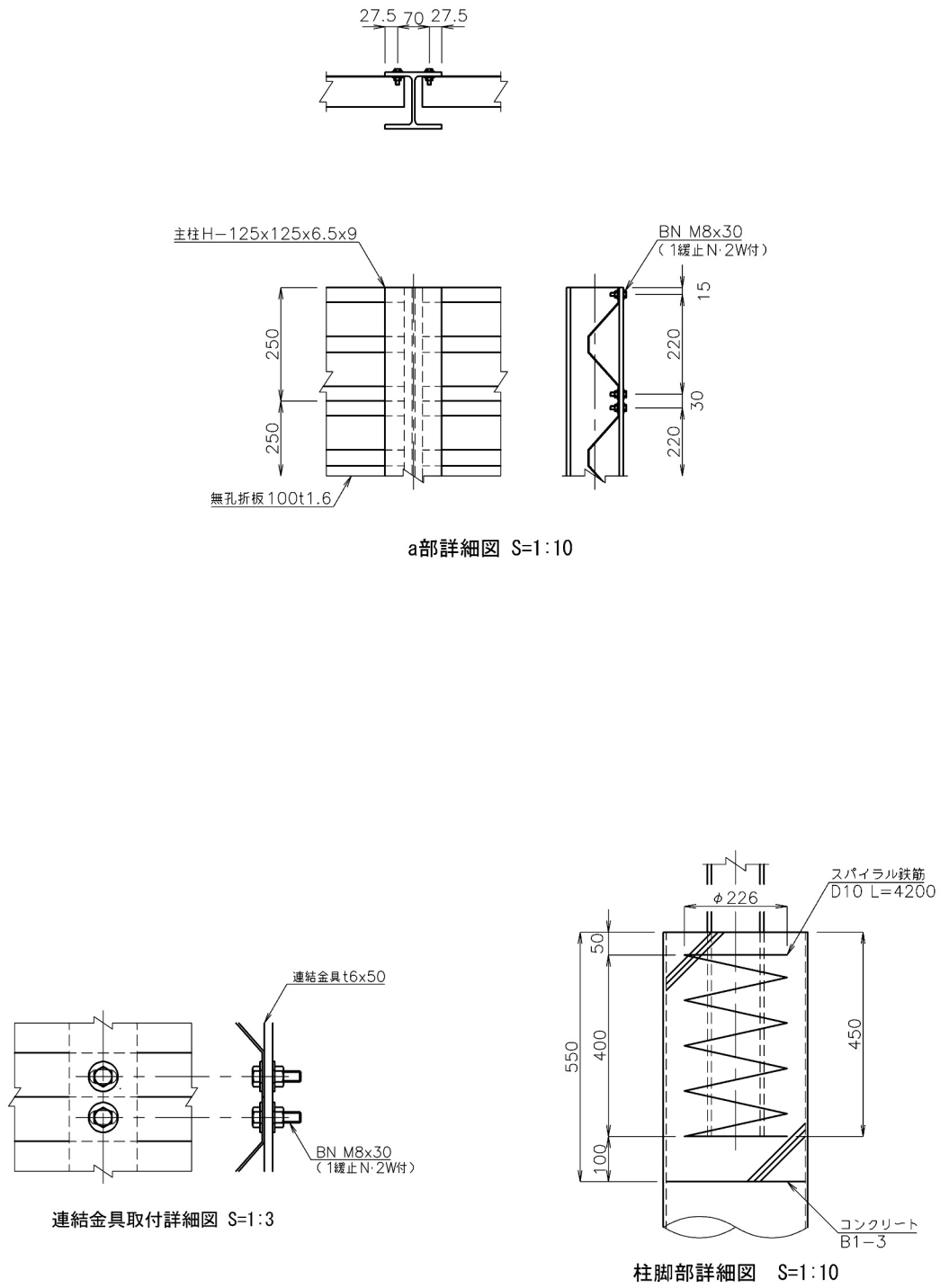
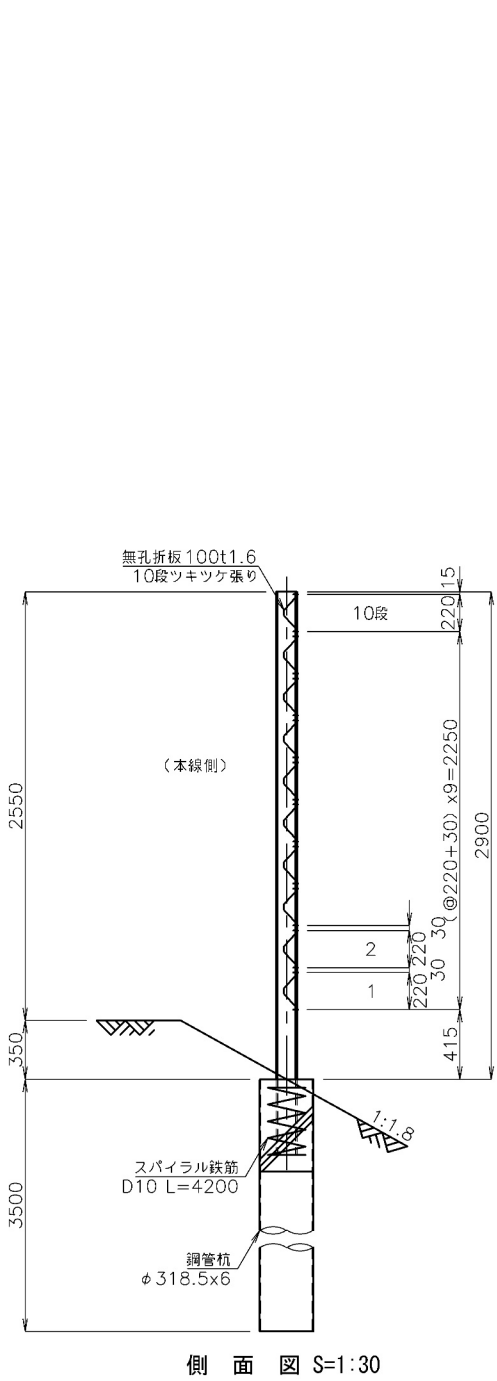
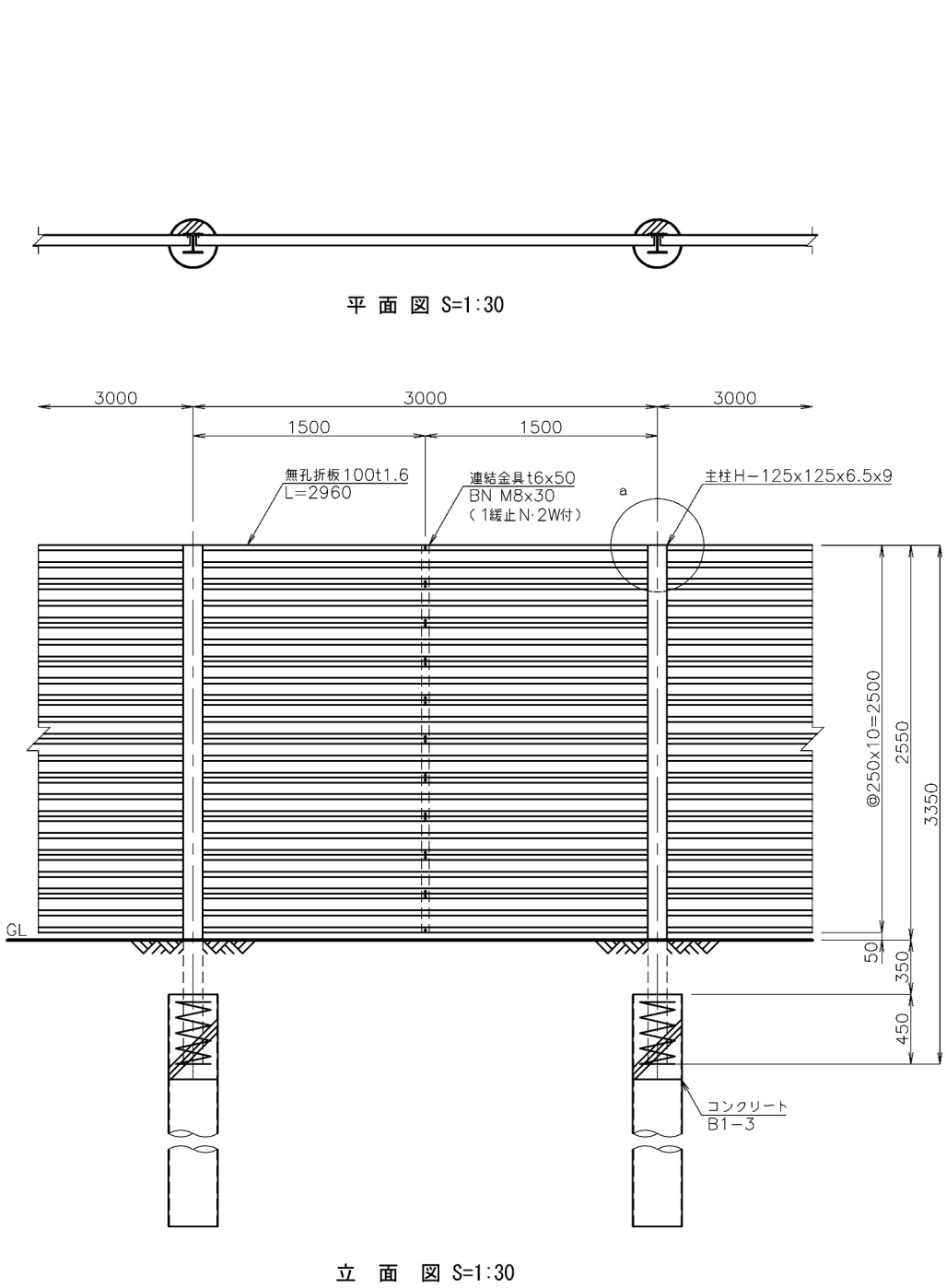
側面図 S=1:20



a部詳細図 S=1:10

【注記】1. 主柱はレベル用(水勾配加工有り)を壁高欄天端に垂直に設置する。
2. 緩止サットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
3. 落下防止ワイヤーφ18(7x19)の適用長さは11m～398mとする。
4. 折板・着雪防止板はJIS G 3323に準ずるSGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板(Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その2)		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



【注記】 1. 緩止ナットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
2. 折板はJIS G 3323に準ずるSGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板 (Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

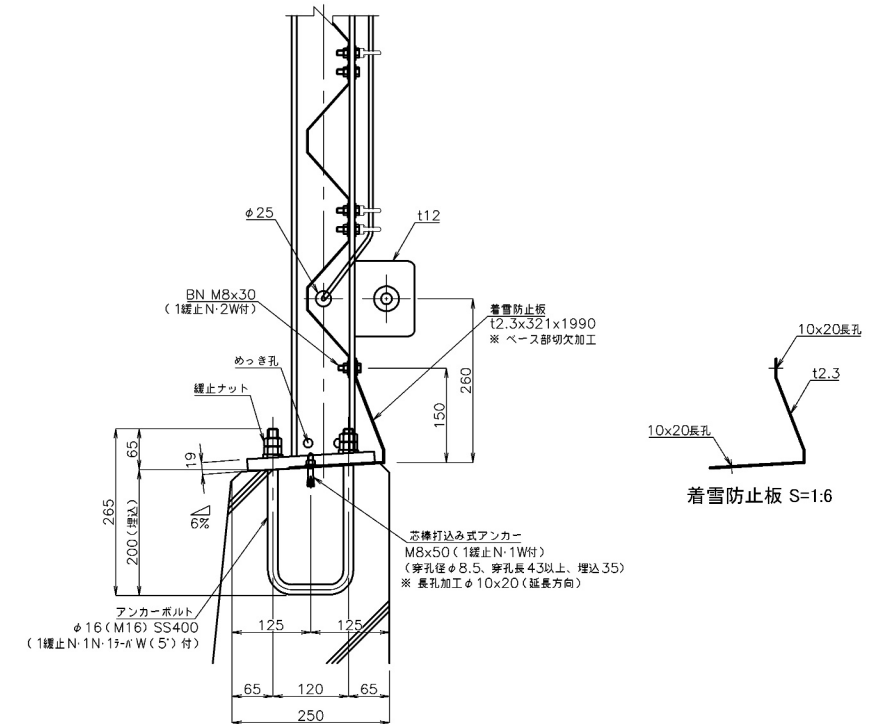
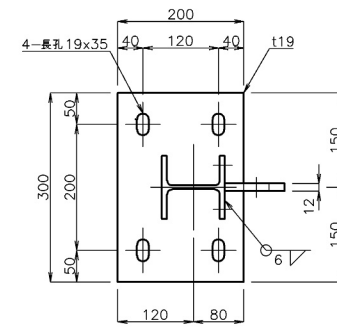
道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その3)		
	縮 尺	図 示	図面番号 /
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

平面图 S=1:20

立面図 S=1:20
(道路側から見た図)

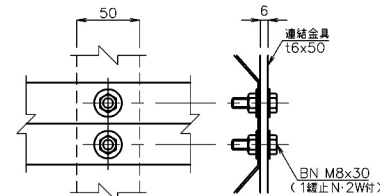
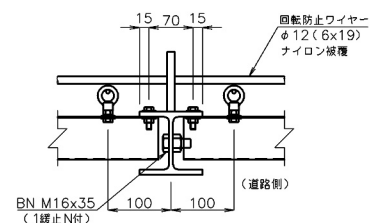
※本図は下り線P1側の場合を示す。
※本図は標準スパンを示す。

側面図 S=1:20



着雪防止板 S=1:6

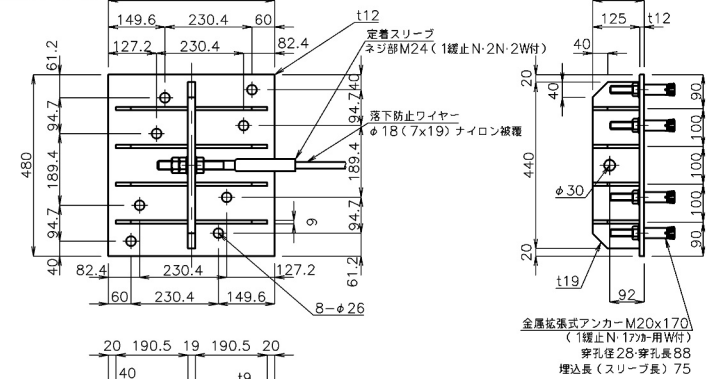
a(端末)部詳細図 S=1:6



イヤー用プレート詳細図 S=1:6

(落下防止・回転防止共通)

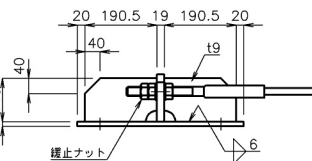
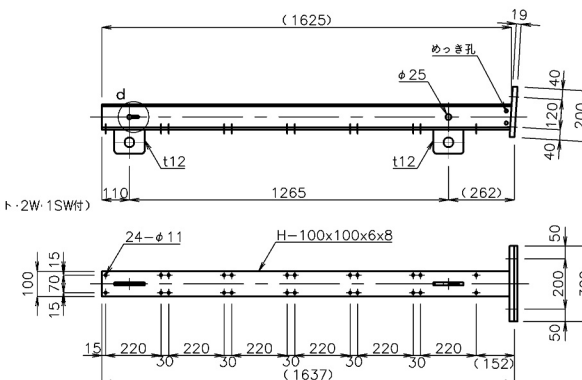
柱脚部詳細図 S=1:6



金属拡張式アンカー M20×170
(1緩止N・170用W付)
穿孔径28・穿孔長88
埋込長(スリーブ長)75

着雪防止板取付詳細図 S=1:6

b・c部詳細図 S=1:6



落下防止ワイヤー端末装置詳細図 S=1:10

※本図は下り線P1側・上り線A1側を示す
上り線P1側は対称形とする。

- 【注記】1. 主柱はレール用(水勾配加工有り)を壁高欄天端に垂直に設置する。
2. 緩止ナットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
3. 落下防止ワイヤーφ18(7x19)の適用長さは11m～398mとする。
4. 折板・着雪防止板はJIS G 3232に準ずるSGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板(Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		